獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議(第3回) 議事次第

- 1 日 時 平成24年8月3日(金)10:00~12:00
- 2 場 所 文化庁 2F 第 1 会議室
- 3 議 題
 - (1)「教育実施状況調査」に関する中間的な報告 ~各大学におけるモデル・コア・カリキュラムの対応状況を中心に~
 - (2) 教育改革の進捗状況と改革の推進に向けた課題の整理について
 - (3) その他

4 配付資料

- 資料 1 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議について
- 資料2 今後検討が必要な論点(例) (第1回会議配付資料)
- 資料3「教育実施状況調査」に関する中間的な報告(モデルコアカリキュラムの対応状況を中心に)
- 資料4 獣医学教育改革の進捗状況と改革の推進に向けた課題の整理(案)
- 資料5 今後の日程について
- 参考資料1「教育実施状況調査」の中間まとめ【暫定版】
- 参考資料2 各大学が策定した参加型臨床実習のガイドライン
- 参考資料3 実習の類型の整理について

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議の設置について

平成24年3月 2日 高等教育局長決定

1. 目的

社会的ニーズの変化や国際的な通用性の確保、獣医師の活動分野等の偏在 など我が国における獣医学教育をめぐる状況を踏まえ、大学における獣医学 教育の在り方について調査研究を行い、獣医学教育の改善・充実を図ること を目的とする。

2. 調査研究事項

- (1)教育改革の進捗状況のフォローアップと今後の推進方策
- (2) 産業動物獣医師や公務員獣医師の育成に向けた今後の獣医師 養成の在り方(入学定員の在り方を含む)
- (3) 獣医学分野における今後の研究者・教育者養成の在り方
- (4) その他必要事項

3. 実施方法

- (1) 別紙の有識者の協力を得て、上記2に掲げる事項について検討を行う。
- (2) 必要に応じて、小委員会を設置して検討を行うことができるものとする。
- (3) 必要に応じて、他の関係者を参画させることができる。

4. 委員の委嘱期間

平成24年3月2日から平成25年3月31日

5. その他

- (1)会議に関する庶務は、高等教育局専門教育課において処理する。
- (2) その他会議の運営に関する事項は、必要に応じ検討会に諮って定める。

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 協力者名簿

石黒 直隆 日本獣医公衆衛生学会会長、

岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授

伊藤 茂男 北海道大学大学院獣医学研究科教授

金子 文男 埼玉県中央家畜保健衛生所長

尾崎 博 東京大学農学生命科学研究科教授

廉林 秀規 全国公衆衛生獣医師協議会会長、

東京都福祉保健局 東京都市場衛生検査所管理課長

酒井 健夫 日本大学生物資源科学部教授

佐藤 東洋士 桜美林大学学長

菅沼 龍夫 宮崎大学長

竹中 登一 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団会長

中山 裕之 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

政岡 俊夫 麻布大学長

三角 一浩 鹿児島大学農学部獣医学科教授

森川 茂 国立感染症研究所獣医科学部長

山根 義久 社団法人日本獣医師会会長

横尾 彰 全国農業共済協会企画研修部次長

吉川 泰弘 全国大学獣医学関係代表者協議会会長

千葉科学大学副学長

吉澤 緑 宇都宮大学農学部教授

くオブザーバー>

池田 一樹 農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長

滝本 浩司 厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課長

今後検討が必要な論点(例)

【1】教育改革の進捗状況のフォローアップと今後の推進方策

- 〇 教育改革工程表の進捗状況のフォローアップについて
- 実習室等の教育環境及び附属家畜病院(動物病院)の充実、外部専門機関 等との連携など、臨床教育等の充実に向けた取組について
- 国際水準の獣医学教育の実現と高度な実践力を有する獣医師の育成に向けた、更なる教育改革の推進方策について
- 【2】公務員・産業動物分野の獣医師の育成に向けた今後の獣医 師養成の在り方(入学定員の在り方を含む)
 - 〇 獣医師を取り巻く状況、各大学における教育状況について
- 〇 公務員・産業動物診療分野の獣医師の育成に向けた教育改善方策の検討 について
- 〇 今後の獣医師の計画的養成の在り方(入学定員の在り方を含む)

【3】獣医学分野における教育者・研究者養成の在り方

- 〇 各大学院における教育状況について
- 〇 国際水準で活躍する教員・研究者の養成・確保に向けた大学院教育の在 り方

「今後の獣医学教育の改善・充実方策について」 意見のとりまとめ(概要) - 平成23年3月 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 -

1. 獣医学教育を取り巻く状況の変化

- → 現場の最前線で活躍できる高度な実践力を備えた獣医師の養成が、獣医学教育の喫緊の課題・責務
- ①社会ニーズに対応した人材の高度化(口蹄疫や鳥インフルエンザ・BSE等の発生、獣医療の多様化・高度化)
- ②獣医師養成の国際的通用性の確保(国際獣疫事務局において獣医師が備えるべきコンピテンシーリストが検討)
- ③我が国の獣医師の現状を踏まえた対応(産業動物分野等の魅力向上、高度な実践力を有する獣医師養成が必要)
- ④我が国の大学教育改革を踏まえた対応(高等教育の質保証が重要な課題、医学等における質保証の取組例)
- ○平成16年7月の「国立大学における獣医学教育の充実・改善方策について」を踏まえた各大学の取組の成果の検 証と、更なる検討の必要性。

2. 獣医学教育の各分野の現状と課題

- → 平成21年3月「教育内容に関する小委員会」を設置し、16大学の教育内容・教育研究体制を分析
- ①最低限共通的に教育すべき内容を十分に教育できていない大学がある。
- ②新たな分野(獣医疫学、動物行動治療学等)への対応が十分取れていない。
- ③将来のキャリアと学びを関連づける教育に課題がある。
- ④獣医師として求められる実践的な力を育む教育(実習科目や応用系・臨床系の講義科目等)<u>に課題</u>がある。
- ⑤大学ごとの分析として<u>獣医師養成課程の規模の小さい大学に課題</u>が多い。

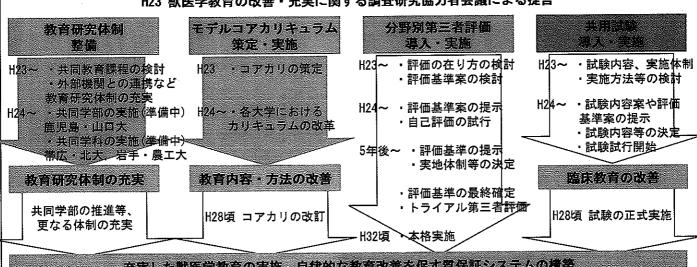
3. 獣医学教育改善・充実の基本的方向性とその具体的方策について

- 以上の課題を解決しつつ、国際水準の教育を実現するためには、全国の獣医学関係者の総意のもと教育改革の取組をスピーディーに推し進めることが必要。
- ①<u>モデルコアカリキュラムの策定</u>等による教育内容・方法の改善促進
- ②自己点検・評価の実施や<u>分野別第三者評価の導入</u>など、獣医学教育の質を保証するため評価システム の構築
- ③共同学部・共同学科の設置など大学間連携の促進による教員の確保を含めた教育研究体制の充実
- ④実習室等の教育環境及び附属家畜病院の充実や、外部専門機関等との連携による臨床教育等の充実
- ⑤共用試験の導入に向けた検討(診療行為に参加する学生の事前評価について社会的信頼を得る仕組みを構築)など

国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程(イメージ)

※ 工程に示した期間は、医学・薬学等の事例を参考にして、あくまで目安として示したもの

H23 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議による提言



充実した獣医学教育の実施、自律的な教育改善を促す質保証システムの構築 ※ 各大学の取組の成果を検証し、結果を公表するなど、その確実な取組を推進していく必要

「教育実施状況調査」に関する中間的な報告

(モデル・コア・カリキュラムの対応を中心に)

【1】 専任教員数、構成等に関する状況

(1) 各大学の専任教員数 (学部・学科専任教員数 ※全学施設等の専任教員は除く) 各大学の専任教員数 (総数629名)

国立) 北大46名·蒂畜22名(共同課程68名)、岩手25名·農工33名(共同学科58名) 東大37名、岐阜34名、鳥取31名、山口32名·鹿大33名(共同学部65名)、 宮大32名

公立) 府大53名

私立) 酪農49名、北里55名、日獣59名、日大41名、麻布49名

- (2) 専任教員の構成 (※調査票の合計数に従い、634名の分母で計算)
 - ① 職階構成

教授258名(40%)、准教授204名(32%)、助教117名(19%)、講師55名(9%)

- ② 分野別構成 (「モデル・コア・カリキュラム」の基礎・病態・応用・臨床に分類) 基礎 160名(25%)、病態 121名(19%)、応用117名(18%)、臨床236名(37%) (※主に産業動物臨床を担当する専任教員60名)
- (3) 応用系・臨床系担当教員スタッフ数(専任以外含む)
- ① 応用系
 - 国立) 北大10名·蒂畜20名(共同課程30名)、岩手7名·農工7名(共同学科14名)、 東大21名、岐阜16名、鳥取9名、山口11名·鹿児島4名(共同学部15名)、 宮大8名
 - 公立) 府大11名
 - 私立) 酪農 9名、北里14名、日獸13名、日大10名、麻布15名
- ② 臨床系
 - 国立) 北大16名・帯畜18名(共同学科34名)、岩手12名・農工16名(共同学科28名) 東大9名、岐阜18名、鳥取15名、山口14名・鹿児島16名(共同学部30名)、 宮大12名
 - 公立) 府大19名
 - 私立) 酪農20名、北里22名、日獣24名、日大20名、麻布24名
- ③ 有給研修医の数
 - 国立) 北大7名・帯畜1名 (共同学科8名)、岩手0名・農工7名 (共同学科7名)、東大27 名、岐阜0名、鳥取0名、山口0名・鹿児島3名 (共同学部3名)、宮大2名
 - 公立) 府大0名
 - 私立) 酪農10名、北里4名、日獣16名、日大28名、麻布8名

【2】 モデル・コア・カリキュラムの対応状況

(1)全体的な対応状況

全16大学においてモデル・コア・カリキュラム導入に向けた対応を検討しているものの、

- ・獣医関係法規、動物倫理・福祉、魚病学、野生動物学、疫学、臨床行動学、馬臨床学など、 新規に導入された講義系科目について、非常勤講師等の活用が不可欠
- ・実習科目について、動物の確保、症例の画像データ、病原微生物や抗体等の検査用試薬が不 足、あるいは確保が困難。
- ・参加型実習について、教員数、施設・設備、症例数が不足。 などの課題を指摘。

(2) 応用系 (家畜衛生・公衆衛生) のモデル・コア・カリキュラムの対応状況 一部不足あるが、教員数、実習室・設備など概ね対応できるとした大学があるが(北大、府立 大、酪農、日獣)、多くは、教員数、実習施設が狭隘・設備等の環境面の不足を指摘。

(3) 臨床系(伴侶動物・産業動物)のモデル・コア・カリキュラムの対応状況

- ・伴侶動物については、一部、教員・スタッフ面では対応が可能(北大)、施設・設備面についてはある程度対応(酪農、北里)と回答した大学があるが、多くの大学が(共同教育課程を含む)、教員・スタッフ数や症例の確保、施設の狭隘、設備等の実習環境面の不足を指摘。
- ・産業動物については、概ね対応が可能とする大学が一部あるが(宮崎)、ほとんどの大学で、 教員・スタッフ数、実習環境面の不足を指摘。

(4) 全国的な対応・フォローについて(大学からの主な回答例)

- ・外部機関の医療従事者の雇用制度の確立や、全国の獣医学教育機関による教育連携制度の確立 やその財政的支援を希望(岩手)。
- ・魚病学、臨床行動学、馬臨床学、眼科学、獣医倫理学などの科目は、共同学科でも担当できる教員がいない。専門家の養成や派遣システムの構築が必要(岐阜)
- ・コアカリの実施について、情報交換や教材の共有、教材の供給など、これらのサービスを全国 の大学に供給するセンター等の設置が必要(鳥取)。
- ・産業動物臨床教育の全国的なフォロー体制が必要(東大、府立、麻布など)。
- ・公衆衛生施設での実習(見学)について、地方自治体の協力が必要(酪農)
- ・近隣の私立・国立大学との連携や総ての教科科目の相互乗り入れが可能になれば完成度の高い 獣医学教育の実施が可能(日獣)
- ・伴侶動物の臨床参加型実習については、大学病院において一次診療の症例を確保することが必要であるが、そのためには獣医師会、各都道府県獣医師会会員の理解と協力が必要(麻布)。

【3】 参加型臨床実習の実施に向けたガイドラインの策定状況

・既に策定済 10大学:北大、岩手、東大、岐阜、鳥取、山口、鹿児島、宮崎、北里、日大

・(案) 策定 3大学: 帯畜、酪農、麻布

・まだ検討中 3大学:農工、府立、日獣

【4】 モデル・コア・カリキュラムの実施に向けた教育環境の状況について

(1) 附属家畜病院の新築・増改修の具体的な予定・計画、これまでの状況など

① 新築:4大学

北海道大学(動物医療センター、H25 竣工予定)、帯広畜産大学(産業動物臨床教育センター他、 建設計画中)、岩手大学(共同学科講義棟・小動物診療施設、H24 実施予定)、日本大学(産業動 物診療施設、建設計画中)

※ 検討中:東京大学(動物医療センター)

② 增改修:5大学

北海道大学 (現動物病院を獣医総合研究棟に。H24 実施予定)、帯広畜産大学 (産業動物研究棟、 今後改修予定)、岩手大学 (産業動物実習施設、H25 改修予定)、鳥取大学 (野生動物保護施設、H24 実施予定。大中動物入院棟、今後改修を計画)、宮崎大学 (大中動物実験施設、H25 竣工予定) ※ 検討中:北里大学 (大動物診療施設センター)

③ 過去5年間の間に新築:4大学、増改修:7大学

帯広畜産大学 (H20、動物医療センターの改修・増築)、東京農工大学 (H20、農学部附属動物医療センターの新築、H20)、岐阜大学 (H21、動物病院新棟の新築。H22,23、リニアック棟増築)、鳥取大学 (H22、動物病院の増改修)、山口大学 (H21、動物医療センターの増改築)、宮崎大学 (H22、大動物 X 線室、大動物診療兼手術室を改修など)、鹿児島大学 (H20、軽種馬診療センター新築。H20・21、伴侶動物診療部門改修など)、北里大学 (H20、小動物診療センター新築)、日本大学 (H23、動物医療センター増築)

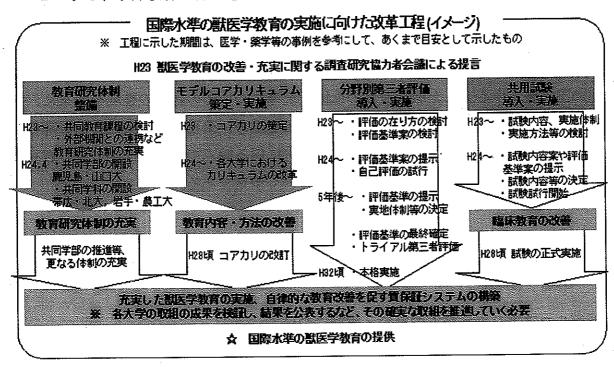
(2) 外部機関の連携に関する主な状況について(大学側の主な回答状況)

- ① 応用系分野の実習について
 - ・公衆衛生学実習等:多くの大学が食肉衛生検査所や環境研究所等への見学実習等を実施。
 - ・家畜衛生学実習等:家畜改良センターや家畜保健衛生所での見学実習等を実施。
- ② 臨床実習
 - ・伴侶動物臨床実習:5大学において個人開業医と連携した伴侶動物臨床実習を実施と回答。
 - ・産業動物臨床実習:16大学が NOSAI と連携した産業動物臨床実習を実施。
- ③ 海外大学との連携
 - 6大学(東京大学、大阪府立大学、酪農学園大学、北里大学、日本獣医生命科学大学、日本 大学)が実施と回答。

獣医学教育改革の進捗状況と改革の推進に向けた課題の整理(案)

1. これまでの議論の経過について

- 「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」は、約3年間の議論を経て、 平成23年3月「獣医学教育の改善・充実について」をとりまとめ、今後の獣医学教育 改革の方向性を、文部科学省、大学、関係団体等に対して示したところである。 (改革の方向性)
 - ① モデル・コア・カリキュラムの策定等による教育内容・方法の改善促進
 - ② 自己点検・評価の実施や分野別第三者評価の導入など、獣医学教育の質を保証する ための評価システムの構築
 - ③ 共同学部・学科の設置など大学間連携の促進による教育研究体制の充実
 - ④ 学内教育環境の充実や外部専門機関等との連携による臨床教育等の充実
 - ⑤ 共用試験の導入について
 - ⑥ 新しい生命科学の発展に対応した教育研究の充実について このうち、学部教育に係る①から⑤の項目について、「工程表」をとりまとめている。



※「獣医学教育の改善・充実について」概要(抜粋)を一部改訂(平成24年3月13日 第1回協力者会議配付資料版) ○ 以上の教育改革の提言に対して、報告書では、その進捗状況等のフォローアップを行うことを文部科学省に対して求めている。

このため、平成24年3月に、「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」を改めて設置し、これまで〇回の会議を開催して、①モデル・コア・カリキュラムの策定及びその後の状況について、②共同教育課程の設置状況及び今後の課題について、③分野別第三者評価の導入に向けた取組状況、④共用試験の導入に向けた取組状況など、工程表の各項目についての進捗状況の確認を行ってきたところである。

- 加えて、モデル・コア・カリキュラムの実施や教育体制の充実に関して重要な論点である、外部機関との連携による実習教育の充実や附属病院の在り方について検討を進めるとともに、各大学における現在の教育状況やモデル・コア・カリキュラムの対応状況及びその実行にあたっての課題を把握するための調査を実施した。
- 以上の審議や調査を踏まえて、現在の教育改革の進捗状況や各大学におけるモデル・ コア・カリキュラムの実行に向けた課題が明らかとなったことから、今回、改めてこれ らの課題の整理を行った次第である。

本文で掲げる課題の解決にあたっては、協力者会議での検討だけでなく、各大学や関係団体における議論の深まりと実行に向けた取組が必要不可である。このため、課題の共有化を図り、文部科学省と連携して、大学及び獣医学関係者において速やかな取組みが求められる。

○ 今回の工程表を中心とした教育改革の進捗状況等についての課題の整理を踏まえ、協力者会議では、引き続き、教育改善に向けた取組を進め、公務員・産業動物獣医師の育成の在り方について検討を行った後、大学院教育に係る論点である獣医学分野の教育者・研究者育成の在り方についての検討を進めていく予定である。

2.「国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革行程」の各項目の進捗状況

(1) モデルコアカリキュラムの策定・実施について

- モデル・コア・カリキュラムの策定・導入
- ・平成23年3月、モデル・コア・カリキュラムが策定(本年4月、改訂版)。各大学において導入に向けた検討が行われたところであり、動物福祉・倫理、獣医事法規、疫学、野生動物学、臨床行動学、魚病学、馬臨床学、眼科学等の新規科目については、各大学において非常勤講師等の活用による当面の対応を検討中。

- ・獣医師法17条に基づく参加型実習を実施するためのガイドラインについては、全16 大学のうち10大学で策定済み、3大学がガイドライン(案)を策定している状況となっている(なお、検討中との回答が3大学)。
- ・報告書においては、モデル・コア・カリキュラムの実施や国際水準の教育の実現に向けて、海外大学の教育環境の事例を参考に、各大学の教育改革を促すベンチーマークの策定が必要としている。このため、平成22年9月より、北海道大学を中心に海外獣医科大学の教育状況や体制、附属病院、欧米のアクレディテーションに係る情報などの調査が進められており、報告書がとりまとめられている。

〇 教育方法の改善・充実

・全国大学獣医学関係代表者協議会において、モデル・コア・カリキュラムに対応した教 科書・教材作成の取組みをすすめており、併せて電子書籍化の検討が進められている。

(2) 共同学部・共同学科の設置など大学間連携の促進による教育研究体制の充実

- 共同学部・学科の設置、大学間連携の促進について
- ・平成24年4月より、北海道大学・帯広畜産大学の共同獣医学課程、岩手大学・東京農工大学の共同獣医学科、山口大学・鹿児島大学の共同獣医学部が開設。遠隔講義システムの導入、実習環境の整備、教員確保に取り組んでいる。
- ・平成25年4月の開設に向けて、現在、岐阜・鳥取大学の共同獣医学科が準備中である。
- 臨床実習や家畜衛生・公衆衛生実習の充実・強化のための教育環境等の整備 (臨床実習)
- ・産業動物臨床実習については、各大学において、NOSAIや中央畜産会等との連携による臨床実習の充実に取り組むとともに、平成23年度から文部科学省予算により、全国の獣医系大学とNOSAI・中央畜産会・JRA等との全国的な臨床実習ネットワークシステムの構築が進められている。
- ・伴侶動物実習については、各大学においては、附属病院の充実・高度化を通じて、学内 における基盤的な実習環境の整備に取り組んでいる一方、地域診療機関や獣医師会との 連携による実践的な臨床実習の充実に取り組んでいる。

(家畜衛生・公衆衛生実習)

・家畜衛生実習・公衆衛生実習については、各大学において、家畜保健所や食肉処理場と 連携した体験実習・インターンシップ等の取組が進められるとともに、厚労行政に関す る講義や職場紹介など、厚生労働省本省や検疫所等の協力による業務説明やインターン シップが進められている。また、平成23年度からの文部科学省の予算支援により、現 在までに、OIEアジア太平洋地域事務所、動物検疫所、動物衛生研究所、動物医薬品 検査所、農林水産消費安全技術センター、国立感染症研究所、東京農工大学国際家畜防 疫研究教育センター等の高度外部専門機関における実習プログラムの開発及び学生受入 れなど、全国的な実習ネットワークシステムの構築がすすめられている。

〇 附属家畜病院の充実

- ・現在、新築を具体的に計画している大学は4校(16校中、以下同じ)。増築・改修を 予定している大学が5校。過去5年の間に新築を行った大学が4校、増築・改修を行っ た大学が7校となっている。
- ・産業動物臨床実習の実施に向けて、外部機関との連携をほとんどの大学において実施。

(3) 分野別第三者評価の導入・実施について

- 自己点検・自己評価の実施
- ・評価システムの構築に関して、私立大学においてはすでに6次にわたり、相互評価の取 組を進めており、国公立大学においては、相互評価の実施に向けて、国公立獣医科大学 協議会において検討が進められている。

○ 分野別第三者評価の導入について P

・全国獣医学関係代表者協議会からの依頼に基づき、日本獣医師会の教育・学術部会において実施体制等の検討を行い、大学基準協会が実施する方向でとりまとめが行われている。今後、評価基準案等について、全国獣医学関係代表者協議会にて検討が行われる。

(4) 共用試験の導入について

・問題作成、OSCE のモデル開発が進められており、平成25年4月から一部大学においてトライアルを実施予定。平成28年4月の実施に向けた計画的な取組が図られている(平成24年4月、共用試験システムの開発等に係るプロジェクトについて、科学研究費補助金基盤Aにおいて、平成26年までの3年間の事業として採択)

3.「国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革行程」の推進に向けた課題の整理

(1) モデル・コア・カリキュラムの策定・実施について

- モデル・コア・カリキュラムに新規に導入された科目等への対応
- ・動物福祉・倫理、獣医事法規、疫学、野生動物学、臨床行動学、魚病学、馬臨床学、眼科学等の新規科目など、全国の大学において不足が予想される科目については、全国的な、ICTを用いた教材提供(e-learning、ビデオ講義など)や講師派遣システム(遠隔講

○ 臨床実習や家畜衛生・公衆衛生実習の実施

(伴侶動物臨床実習について)

- ・伴侶動物臨床実習について、大学間での、モデル・コア・カリキュラム(基盤実習・参加型実習)、アドバンスの各フェーズで行う実習の内容及び学内外で実施すべき内容の整理が必要。さらに、その整理を踏まえて、モデル・コア・カリキュラム対応実習科目について、その確実な実施に向けた方策を検討することが必要。
- ・また、特に参加型実習については、各大学に対してガイドラインの速やかな策定を求めるとともに、その具体の実施にあたっては、プライマリーケアを中心とする症例の確保、 臨床教員の確保、附属家畜病院の施設の狭隘などの課題が指摘。

(産業動物臨床実習について)

- ・産業動物臨床実習について、大学間でのモデル・コア・カリキュラム(基盤実習・参加型実習)、アドバンスの各フェーズで行う実習の内容及び学内外で実施すべき内容の整理が必要。さらに、その整理を踏まえて、モデル・コア・カリキュラム対応実習科目について、その確実な実施に向けた方策を検討することが必要。
- ・また、特に参加型実習については、ガイドラインの策定が各大学においてなされている ものの、その具体の実施にあたって、実習場所や症例の確保、臨床教員の確保や学外実 習の実施に伴って発生する経費負担などの課題が指摘。

(家畜衛生実習・公衆衛生実習について)

- ・家畜衛生・公衆衛生実習について、大学間でのモデル・コア・カリキュラム、アドバン スの各フェーズに対応した実習内容及び学内外で実施すべき内容などの整理が必要。さ らに、その整理を踏まえて、モデル・コア・カリキュラム対応実習科目について、その 確実な実施に向けた方策の検討が必要。
- ・教員の確保、施設の狭隘・老朽化、設備の不足、学外実習の実施に伴って発生する経費 負担などの課題が指摘。

〇 教育方法の改善・充実

- ・一定の教育水準を確保する観点から、引き続き、モデル・コア・カリキュラムに対応した教科書・教材の作成・電子書籍化など、学習者の学習の質を保証するためのモデル・コア・カリキュラムに対応した学習システムの構築や教育環境の整備が必要。
- ・共同学部、学科で実施される遠隔講義、臨床実習など従来型でない教育手法に関する検 証が必要。

(2) 共同学部・共同学科の設置など大学間連携の促進による教育研究体制の充実

- 教育研究体制の充実
- ・共同学部・学科について、入試や教員採用、成績評価・管理など、より一体的な運営に よる高度な教育の実現
- ・より一層多様化・高度化する教育研究に対応するための、自立化した教育研究体制の在 り方の検討
- ・大学間連携の推進による充実した教育プログラムの実施

○ 臨床実習、家畜衛生・公衆衛生実習の実施体制の充実

- ・家畜・公衆衛生実習、臨床実習の実施に向けた外部機関との連携方策などの検討。
- ・臨床教育や卒後研修の拠点となる附属家畜病院や学内フィールドの充実・高度化の戦略 的な推進。特に、病院収入や外部資金の活用による診療スタッフの確保、実習環境等の 計画的整備など、財政基盤の安定化を図り、病院の充実・高度化の好循環の確立が必要。
- ・大学附属家畜病院(獣医教育病院)については、規模(面積、診療室、処置、検査室、 学生とのディスカッションルーム等)・症例数・診療科・教育に携わる人員などの最低 基準(学生定員を考慮した)の明示や、病院の機能・収益、日本の獣医学教育の向上の ためのレジデントシステムの構築などの検討

(3) 分野別第三者評価の導入・実施について

- ・国公立大学における自己点検・自己評価の速やかな実施
- ・引き続き、分野別第三者評価の着実な実施に向けた、評価基準、実施方法等についての 関係者間の検討が必要。

(4) 共用試験の導入について

- ・共用試験の実施に向けて、引き続き、具体的な運営方法・組織体制などの検討が必要。
- ・獣医学生に対する参加型臨床実習、共用試験に関する情報提供が必要。

4. 教育改革の進捗状況の評価及び特に集中的な検討が必要と思われる事項

- これまでの確認から、教育改革の進捗状況については以下の通り。
- ・分野別第三者評価、共用試験の導入については、その実施に向けて、現在、関係者間に おいて着実な取組が進められており、引き続き、その進展が期待される。特に評価基準 については、各大学の改革の具体的目標となるため一次案の早急な提示が必要である。
- ・「モデル・コア・カリキュラム」の導入に関しては、各大学とも、講義系科目について

は概ね対応できている。また、教育水準の質の向上の観点から、ICTを活用した特別な科目の提供や学生の学習のサポートシステムの構築などの取組が検討されるなど、今後の進展が期待される。

- ・一方で、臨床系・応用系の実習部分に関して、モデル・コア・カリキュラムに対応する 内容について大学間で統一した整理がなく、混乱が見られる。また、教員・実習場所の 確保、施設の狭隘・老朽化、設備の不足が課題となっており、解決に向けた取組が必要。
- 以上を踏まえ、特に、モデル・コア・カリキュラムの導入について、臨床実習、公衆衛生・家畜衛生実習の実施については、以下の事項を、文部科学省及び大学・全国大学 獣医学関係代表者協議会・全国大学動物診療施設長会議・公衆衛生教育研修協議会・家 畜衛生教育研修協議会等の関係者を中心として集中的に検討を進めることが必要と考え られる。

(今後、集中的に検討が必要な事項)

- ① 臨床教育の充実方策
 - ・参加型臨床実習(産業動物・伴侶動物)で実施すべき内容の整理及びモデル・コア・カリキュラム、アドバンスの各実習についての推進方策及び外部機関との連携方策の 検討。
 - ・各大学における臨床教員の確保、附属家畜病院、学内フィールドの充実・高度化にあ たっての戦略的な推進。
 - ・附属家畜病院が教育施設であることを踏まえ、教育費用を考慮した予算設定が必要であり、病院収入の大学全体における適正な配分についての考え方の整理が必要。
- ② 家畜衛生・公衆衛生教育の充実方策
- ・家畜衛生・公衆衛生実習で実施すべき内容の整理及びモデル・コア・カリキュラム、 アドバンスの各実習についての推進方策及び外部機関との連携方策。
- ・各大学における応用系分野の実習担当教員の確保。

今後の日程について

第4回会議

日時、場所ともに未定 (平成24年9月中旬を予定)

※ 本日、御確認の連絡をいたします。

「教育実施状況調査」中間まとめ 【暫定版】

	1]																									
	① 教																									
	② 教	員	構	戍	(分)	野牙	到 •	・ಾಾ	間	i 別	J)	• • •	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • • •	•	3
	③応	,用	系	分	野の	り担	当	教	員	• •	• • • •	• • •	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • • •	•	4
	4 5	床	系	分	野 0	り担	当	教	員	•••	• • • •	• • •	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • • •	•	5
	⑤ 主	EIC	産	業	動物	勿踮	床	を	担	当	す	る	教	員		• • •			• • • •	• • •	• • •		• • • •		•	5
	2]	Ŧ	デ	ル	•	⊐	ア		力	IJ	+	ュ	=	; <u>L</u>) د	D 5	対	心	状	兄						6
_	① T																									
	② 応																									
	σ) 対	応	状	況·				• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	•••	• • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	•••	1		5
	3 賭																									
	σ)対	応	状	況 ·	• • • •	•••	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	•••	1		9
r	2 1	<u> </u>	-	ŦΙΙ	四右 1		÷ 3	151 <i>/</i>	n	=	썼	1-	<u> </u>	- I	L 4	<u>.</u> .	T,	,	L*	_	,	•				
L	3]				場 状																			_	•	_
		U)	來		1人 /	兀	•		•	•	•••	•••	•	•••	•	•••	•••	•••		• • •	•	•	•••	2	•	9
	4]	教	育	環	境		関 つ	する	3	状	況		• • •	•••	• • •	• • •	• • •	• • •	• • • •	• • •		• • •	•••	4	ŀ	3
	<u> </u>	+ F	÷	女	J= 75	⇒ ∧	\ \ \	20	4	/ \ 'E	17 产	4 1.	L 20	⊐ <i>+</i>	- I	۱ ۲								/	ı	1
	1) K 2) K																									
	多時																									
	る 4 語	中	不不	刀、	田式 1· 干】 C	ノ厄)这	ジス	当	放め	松松	- 艮月	ルレ	ひん	油	性	サ	政	旦 1	人 /, • • •	ル 			/	F 	7
	5 応																									
	多元 6元																									
	少 平																									
	_				一。 師育	-						-			-											
	C	<i>,</i>	山人		Hill E	- 1 <i>1</i> /	· 水	元		≖	ΝĦ	_	-	6	٠	叹	ΝĦ	八十	/ \						•	_
	5】																									
	① 就																									
	② 就	忧職	状	況	調了	注 (注	経兌	丰出	匕戟	交、	聙	战種	重另	刂訂	司星	(全	• • •	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • •	7	7	9

【1】教員数・診療要員数等に関する状況

教員数・診療スタッフ数

大学		教員		研修	医等	有給獣医	支援スタッ	事務職員	合計
	<u> </u>		うち専任	有給	無給	師	フ	尹勿拠貝	
北海	道大学	55	46	7	4	1	8	2	77
帯広	畜産大学	86	22	0	0	0	8	2	96
岩手	·大学	28	25	0	0	4	4	2	38
東京	大学	104	37	27	23	10	7	8	179
東京	農工大学	53	33	7	44	0	5	4	113
岐阜	.大学	70	34	0	14	7	8	3	102
鳥取	大学	35	31	0	0	0	3	2	40
山口	大学	46	32	0	0	3	11	3	63
宮崎	·大学	45	32	2	0	0	1	2	50
鹿児	島大学	80	33	3	0	2	4	4	93
大阪	府立大学	53	53	0	0	9	10	4	76
酪農	学園大学	57	49	10	0	0	11	7	85
北里	大学	55	55	4	0	0	5	4	68
日本	大学	42	41	28	51	4	6	8	139
日本	獣医生命科学大学	91	59	16	0	5	13	5	130
麻布	大学	70	47	8	74	0	10	8	170
(参考	北海道·帯広畜産	141	68	7	4	1	16	4	173
) 共同	岩手・東京農工	81	58	7	44	4	9	6	151
獣 医	山口·鹿児島	126	65	3	0	5	15	7	156
合計		970	629	112	210	45	114	68	1,519

$\overline{}$
逗
露
誕
运
脚
久
送
華
呱
欸

							\vdash					-				日本獣		※)	考)共同獣	胀	
		油油 大河	帯 存 撃 大 寺	岩手 学大	東京 学	東 上 京 大 宗 宗	岐 阜 学 大	県 学 本	コ ロ 学 大	宮 学 歩	鹿児島大学	大	閣 憲 大 李	北 里 学 大	日 本 学 大	医科生学	麻 布 学 大	北海道・帯広衛	岩手·東 京農工	山口・鹿児島	વ
基礎系	教授	7	2	5	4	3	2	5	4	က	4	2	7	4	3	5	5	6	_	8	89
	准教授	4	-	4	4	က	2	5	4	က	က	5	က	4	2	2	က	5	7	7	52
	助教	5	_	0	4	2	0	0	0	2	_	4	0	2	3	4	0	9	2	_	28
	講師	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	3	3	1	0	0	12
	小計	17	4	6	12	8	4	10	8	8	8	14	12	13	8	14	11	21	17	16	160
病態系	教授	4	3	0	3	2	2	3	4	3	3	3	7	4	3	3	2	7	2	7	52
	准教授	4		0	3	က	2	2	-	က	4	4	4	ဂ	2	4	5	4	3	5	44
	助教	4	2	0	3	-	0	-	2	0	0	က	0	-	0	-	0	9	Т	2	18
	講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3	0	0	0	7
	小計	12	9	0	6	9	4	9	7	9	7	10	11	10	5	10	13	17	9	14	121
応用系	教授	3	1	4	7	2	4	2	-	3	2	4	5	4	4	9	4	4	9	3	51
	准教授	-	0	-	3	-	4	-	က	2	2	က	4	4	4	4	ဗ	-	2	5	40
	助教	2	2	-	2	0	0	0	0	-	0	4	0	0	0	4	0	4	-	0	16
	講師	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	0	2	2	0	10
	小計	8	3	9	7	2	8	4	4	9	4	11	6	10	8	17	7	11	11	8	117
臨床系	教授	4	8	5	8	2	7	9	5	5	7	7	11	2	5	7	2	7	10	12	87
	准教授	4	3	-	3	4	7	4	2	ဗ	9	9	4	5	9	2	5	7	5	11	89
	助教	9	3	4	3	-	4	0	3	4	-	5	-	9	5	3	9	6	5	4	52
	講師	0	1	0	0	4	0	1	0	0	0	0	1	9	4	9	3	1	4	0	26
	小計	14	10	10	6	14	18	11	13	12	14	18	17	22	20	18	16	24	24	27	236
合計	教授	18	6	14	12	12	15	16	14	14	16	19	30	17	15	21	16	27	26	30	258
	准教授	13	4	9	13	11	15	12	13	Ξ	15	18	15	16	14	12	16	17	17	28	204
	助教	17	8	5	12	4	4	-	2	7	2	16	-	6	8	12	9	25	6	7	117
	講師	3	1	0	0	9	0	2	0	0	0	0	3	13	4	14	6	4	9	0	52

応用系分野(公衆衛生・家畜衛生)の担当教員数

7	大学名	総数(うち専任)	教授(専任)	准教授(専任)	助教(専任)	講師(専任)	行政への 協力経験者	研究代表 •分担経験者
北大	•	10(10)	3(3)	3(3)	2(2)	2(2)	2	5
帯広		20(4)	4(1)	2(1)	2(2)	12(0)	2	1
岩手		7(6)	5(4)	1(1)	1(1)	0(0)	2	2
東大	;	21(7)	12(2)	6(6)	2(1)	1(0)	2	4
農工	大	7(5)	3(2)	2(1)	0	2(2)	4	4
岐阜	.大	16(8)	4(4)	5(4)	0	7(0)	7	6
鳥取	大	9(9)	6(6)	1(1)	1(1)	1(1)	4	6
山口	大	11(4)	3(1)	3(3)	0(0)	5(0)	1	1
宮崎	大	8(6)	5(3)	2(2)	1(1)	0(0)	5	6
鹿児	島	4(4)	2(2)	2(2)	0(0)	0(0)	1	1
府立	大	11(11)	4(4)	3(3)	4(4)	0(0)	4	5
酪農		9(9)	5(5)	4(4)	0(0)	0(0)	1	1
北里		14(14)	6(6)	4(4)	0(0)	4(4)	5	4
日大	;	10(8)	6(4)	4(4)	0(0)	0(0)	5	4
日獣	大	21(13)	7(4)	5(5)	3(3)	5(1)	5	6
麻布	大	15(12)	6(5)	5(4)	0(0)	4(3)	4	4
(参	北大•帯広	30(14)	7(4)	5(4)	4(4)	14(2)	2	5
考)共日	岩手・農工	14(11)	8(6)	3(2)	1(1)	2(2)	6	6
同獣医	山口 •鹿児島	15(8)	5(3)	5(5)	0(0)	5(0)	2	2

臨床系分野の担当教員(教員数・診療要員・支援スタッフ)

		教育診療		教員	数			診療要員			支援スク	タッフ	
<i>→</i>	、学名	要員合計 【うち教員数】	教授 (専任)	准教授 (専任)	助教 (専任)	講師 (専任)	研修医 (有給)	研修医 (無給)	有給 獣医師	動物 看護士	検査技師 (含薬剤師)	放射線技 師	その他
	北大	36(16)	4(4)	4(4)	6(6)	2(0)	7	4	1	7	0	0	1
	帯広	26(18)	9(1)	3(0)	5(1)	1(0)	1	0	0	5	0	0	2
	岩手	24(12)	6(1)	1(0)	5(1)	0(0)	0	0	4	4	2	0	2
	東大	44(9)	3(1)	3(0)	3(0)	0(0)	27	0	1	3	4	0	0
農	是工大	71(16)	6(5)	4(4)	1(1)	4(4)	7	44	0	5	0	0	0
屿	支阜大	53(18)	7(1)	7(0)	4(3)	0(0)	0	15	7	8	0	0	5
焦	引取大	20(15)	9(6)	5(4)	0(0)	1(1)	0	0	0	3	0	0	2
Ц	プロ大	28(14)	5(5)	6(5)	3(3)	0(0)	0	0	3	10	1	0	0
扂	宮崎大	17(12)	5(5)	3(3)	4(4)	0(0)	2	0	0	1	0	0	2
盾	記島	27(16)	7(7)	6(6)	3(1)	0(0)	3	1	0	3	0	0	4
序	守立大	40(19)	7(7)	6(6)	6(6)	0(0)	0	0	9	8	0	0	4
	酪農	41(20)	11(11)	7(7)	1(1)	1(1)	10	0	0	6	4	1	0
	北里	35(22)	5(5)	5(5)	6(6)	6(6)	4	0	0	3	1	0	5
	日大	109(20)	5(5)	6(6)	5(5)	4(4)	28	51	4	3	2	0	1
E	大潤	59(24)	8(8)	3(3)	5(5)	8(8)	16	0	4	10	2	0	3
床	麻布大	116(24)	4(4)	8(8)	8(8)	4(4)	8	74	0	3	5	0	2
/ 4 + + · ·	北大 •帯広	62(34)	13(5)	7(4)	11(7)	3(0)	8	4	1	12	0	0	3
(参考) 共同課 程	岩手 •農工	95(28)	12(6)	5(4)	6(2)	4(4)	7	44	4	9	2	0	2
	山口 •鹿児島	55(30)	12(12)	12(11)	6(4)	0(0)	3	1	3	13	1	0	4

主に産業動物臨床を担当する教員(教員数・診療要員・支援スタッフ)

		教育診療	/=+		教	員			診療要員			支援スク		-
ナ	学名	教育診療 要員合計	(うち 教員)	教授 (専任)	准教授 (専任)	助教 (専任)	講師 (専任)	研修医 (有給)	研修医 (無給)	有給 獣医師	動物 看護士	検査技師 (含薬剤師)	放射線技 師	その他
;	北大	5	(5)	2(2)	2(2)	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	帯広	9	(8)	3(0)	3(0)	2(0)	0	0	0	1	0	0	0	0
;	岩手	5	(5)	3(3)	1(1)	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	東大	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農	是工大	3	(3)	1(1)	1(1)	0	1(0)	0	0	0	0	0	0	0
屷	 阜大	3	(3)	1(0)	2(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焦	引取大	1	(1)	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ц	プロイ	3	(3)	2(2)	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	0
扂	崎大	9	(9)	5(5)	2(2)	2(2)	0	0	0	0	0	0	0	0
盾	肥島	7	(7)	4(4)	2(2)	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	0
庎	T 立大	3	(3)	1(1)	1(1)	1(1)	0	0	0	9(確認中)	8(確認中)	0	0	0
İ	酪農	8	(8)	4(4)	4(4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
,	北里	7	(7)	2(2)	1(1)	1(1)	3(3)	0	0	0	0	0	0	2
	日大	2	(2)	1(1)	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	0
E	大潛:	1	(1)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
床	布大	7	(7)	2(2)	2(2)	2(2)	1(1)	0	0	0	0	0	0	0
/ 4 2 + 14 \	北大 •帯広	14	(13)	5(2)	5(2)	3(1)	0	0	0	1	0	0	0	0
(参考) 共同獣 医	岩手 •農工	8	(8)	4(4)	2(2)	1(1)	1(1)	0	0	0	0	0	0	0
	山口 ・鹿児島	10	(10)	6(6)	2(2)	2(2)	0	0	0	0	0	0	0	0

【2】モデル・コア・カリキュラムの対応状況

ъ,
**
5大
元
1.5
15
一枚の
E
17
\sim
0
7
•
١.
-1
7
ID
Н
#
11
_
-,
力
+
ľ
-
11
٠.
_
$\overline{}$
计业
יחי
aí i

対応方針	11 教員および学生旅費にかかる予算の確 モデルコアカリキュラムへの具体的な対応策を準 (権したが、実施には課題1)~3)に係る財政的な (集に向けて検討中 (大) 年度に大学自己負担により、200名 (4) 平成 2 (4) 年度に大学自己負担により、200名 (4) 平成 2 (5) 共同獣医学課程を実施するため、平成 2 (4) (4) (4) (4) (4) (5) (4) (5) (5) (5) (5) (5) (6) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	
	1)教員移動, 学生移動で発生する費用問題(1年次農畜産演習・帯広基礎獣医学演習、5年次産業動物獣医療実習など) 2) 諸義室や双方向遠隔授業等に係るインフラ整備問題(80名な5学年の学生を各々収容できる講義室・実習室、最大3学年が同時に双方向遠隔授業・ステム、授業内容・授業・ステンテム、投票内の・投票を表表が、1分1実習のため動物病院の拡充。3) 臨床教員への負担増の問題(80名の学生に対して総合参加型臨床実習(北大では保留動物獣医療実習)を実施するにあたり、臨床教員が回路に来数員か2週間のポリクリ異習を実施するため、のべ20名の臨床教員が必要) 4,000。 1,121年間に係る支援組織の問題(第二期中期目標期間が終すする。学生4名は一分1評価システム構築に係る支援組織の問題(第二期中期目標期間が終すする。当年を11年までに中間評価が実施できる組織体制を構築する必要)	
	○導入分野:「獣医学概論」は2年次に夏期集中開講。「獣医倫理」動物福祉学」 1)等 [平成24年度からの北海道大学との共同獣医学課程において、次の科目を開講。 - 獣医学概論:動物の診療のほか、さまざまな分野の第一線で活躍する獣医師が、 各々の業務の内容、社会的役割・責任、課題などを紹介する。それによって、獣医 学を学ぶモチベーションを確認し、これを高める。また、広い視野をもって獣医学を 学え必要性を理解し、学修の目標を確認する。(2年次前期、2単位) 獣医無理し、学修の目標を確認する。(2年次前期、2単位) 獣医無理・獣医師にはちつの倫理的直務があるとされ、その対象に動物・飼い 主、獣医業界、市民社会および自分自身である。これらの倫理的直務あるいはそ の相互作用について具体的な事例を挙げながら獣医倫理に関する規範的知識 (獣医療に携わる者として必要な倫理観、人間性と広い社会性、飼育者の要望に 帯 対する対応・態度、獣医療過誤に対する心構え等)を教授する。(5年次前期、1単 広 位)

	大学内での組織改革などで対応できない場合は、教員の定員増加を文部科学省に要請するなどの対応を検討したい。	n 不足する産業動物臨床教育に関しては、教員の 和 純増が実現しない限り、解消することは困難であ と る。現在宮崎大学との教育連携により、産業動物 な 臨床教育の充実を行おうとしているが、一大学に
対応方針 専任教員の確保と定員化が難しく、定員増 のない限り現状では解決策がない。大学と して現在のところ教員数を増員する予定は ないため、引き続き非常勤講師による対応 を行う。	モデル・コア・カリキュラムの授業科目で、非常勤教員により実施されている科目については、共同獣医学科設置後6年以内に岩手大学と組織構成員の再配置等組織改革をすることにより、すべての授業科目を構成大学の学科教員で担当できるよう対応したい。	を担や兼任教員に頼る教育体制は責任の f在が明確でない。本学では、かつて(昭 fo 年まで) 獣医学教育は、畜産獣医学科。 fo 年まで) 獣医学教育は、畜産獣医学科。 fo 4 都織で行われていた。当時の大学 がった組織で行われていた。当時の大学 がった組織で行われていた。当時の大学 な育改革の流れの中で教育組織は細分化 がはたが、より広範囲でシスママイックな に対する計画がある。6年制の獣医学と4 利の動物生命システム科学の教育を一体 別に行えるようなシステム科学の教育を一体 別に行えるようなシステム科学の教育を一体 別に行えるようなシステム科学の教育を一体 別に行えるようなシステム科学の教育を一体 ままする一手段として適当ではないかと考 にている。
無題	岩手大学との共同獣医学科設置に伴い、デル・コア・カリキュラムに記載されているがどの授業科目を双方の専任教員で分担するなどの対応をしているが、以下の科目については、非常勤教員による対応で教育している。 獣医事法規、発生学、獣医遺伝育種学、基礎放射線学、魚森学、馬臨床学、大動物臨床実習(基礎編、応用編) 大動物臨床実習(基礎編、応用編) 送択科目:人と動物関係学、動物園動物学、動物病院経営学	・標準的カリキュラムとモデル・コア・カリキラムは完全に一致しているわけではなく、ことしていない科目が散見される(獣医法規学、臨床薬理学、臨床行動学、毒性学実活など)。現在、これらの不足科目を補充することを目的に、また、モデル・コア・カリキュムをとり、現在、これらの不足料目を補充する。25年度進学生からの実施を考えている。25年度進学生からの実施を考えている。25年度進学生からの実施を考えている。25年度進学生からの実施を考えている。25年度進学生からの実施を考えている。25年度進学生からの実施を考えている。25年度進学生が、財産学品が、世工業が、財産を含く、財産を含く、財産を受け、対したの兼任教員(10名)の協力を得ている。
株況 H24年度開設の共同獣医学科のカリキュラムは、モデルコアカリキュラムに準拠し、金別 ており、連携する東京農工大学と分担、担当することで、ほぼすべてを網羅してい、常勤 る。獣医学概論は岩手大学の担当、獣医倫理は東京農工大学の担当とし、全学 部行動学は東京農工大学の開講さし、岩手大学学生は遠隔講義により受講、動 める。 物遺伝育種学は双方の大学で個別に開講する。法規は双方の大学で個別に開講、動 める。 地遺伝育種学は双方の大学で個別に開講する。 馬臨床学は、専門知識を有る外部講師による対応を予定している。現在実施し当で にいる馬を用いた実習では、馬の臨床経験のある教員を、2班に分けて学外の飼 著を 中型権」の実習、軽種馬)を行う。教員は産業動物・伴侶動物を問わず、馬の獣医 表を 本学 株の臨床経験者全員体制を敷いている。 本学 株の臨床経験者全員体制を敷いている。 株理)の異常、 株理)の異などの影響を 株成の臨床経験者を 株成の臨床経験者を 株成の臨床経験者を は、高の獣医・現員 株でり は、自己 をが、 は、自己 をが、 をが、 は、自己 をが、 をが、 をが、 をが、 をが、 をが、 をが、 をが、	平成24年4月から岩手大学との共同獣医学科が設置されたことに伴い、モデル・コニンカリキュラムに準拠した共同獣医学科カリキュラムが既に作成されている。した・がって、モデル・コア・カリキュラムに新しく入った、概論・倫理・法規・動物行動・育・種など、新しい科目も共同獣医学科カリキュラムに盛り込まれている。	全国獣医学関係大学代表者協議会でとりまとめられた、いわゆる「標準的カリキュラム」を参考に、平成20年度に獣医学課程に進学してくる学生を対象にカリキュラムの改訂を行った。平成23年度の制定された獣医学モデル・コア・カリキュラムは、この標準的カリキュラムに沿って作られたことから、すでに概ねモデル・コア・カリキュラムにそった教育が行われている。
岩手大学が1177での対象な思ったの例	東京農 18大学	東京大学

全国的な対応・フォロー 無病学、臨床行動学、馬臨床学、眼科学、獣医倫 無病学、臨床行動学、馬臨床学、眼科学、獣医倫 とのおりをして、共同学科による相互補完体 を制でも選任で担当できる教員が全くいないため、 非常勤講師により対応せざるを得ない。このよう な科目の専門家を養成し、また派遣できるような を体制の構築を望 を体制の構築を望 などと協力して実施しているが、必ずしもモデル・ コア・カリキュラムに記載の項と、必ずしもモデル・ コア・カリキュラムに記載の頭とトリン・ のような全国的に利用できる施設を設置し、大動 物臨床獣医師の実践的な訓練ができるような体 制の構築を希望している。	学・共同教育課程の開設や教育連携における教育 充実の方策は原則として構成大学間の補完によ 学 るが、全国獣医系大学横断的に、コアカリの各項 カ 目(一般目標及び到達目標)に対する具体的な取 1 組みの具体例を紹介し、緊密な情報交換を行う 体制の構築や教材の大学間共有(遠隔学習シス 下 しての講義提供や講義ストックとして全国共同 数 割用デジタルファイルとして共有)、あるいは非常 数 割用デジタルファイルとして共有)、あるいは非常 の 一覧を作成、その情報を公開することにより、 必要とする大学と供給可能な大学の間で調整を 1 行う。これらのサービスを全国の大学に提供する まセンター等の設置が望ましい。 に からのサービスを全国の大学に提供する 大学だけの対応では不可能な場合、教員増や施 設の新設及び改築、備品の充実等について、文 科省からの予算措置が必要である。 和名の大学を高いは共同教育課程を構成する 大学だけの対応では不可能な場合、教員増や施 設の新設及び改築、備品の充実等について、文 科省からの予算措置が必要である。
1応方針 に学獣医学課程は鳥取大学農学部獣医学 1と、平成25年度の開設を目指して共同書 1と、平成25年度の開設を目指して共同書 2学科の設置計画を進めている。共同獣 2科により、両大学の特徴を生かした授業 1目の相互補完及び専門特化による授業 1目の相互補完や科目内・科目間の連携 ることが可能となり、基礎から応用・臨床 2を3連続性のある効果的・効率的な教育 1実施することができると考えられる。	記の課題に対する対応を含め、鳥取大 岐阜大学では共同獣医学科の設置に向 準備を行っている。すなわち、共同獣医 において実施する教育課程により、コア において実施する教育課程により、コア において、専門科目を学ぶ上で必要: る。加えて、低学年次における一般教養 る。加えて、低学年次における一般教養 、社会自留の態度を身につけさせる。 、社会性の観点から学生の視野を拡げ、 とを目的に獣医師の社会的役割と多種 に数る。また専門科目では、基礎獣医 等と臨床獣医学との連動性あるいは科 での学修内容の連続性を理解させるエ 行う計画である。
課題 一部のモデル・コア・カリキュラム科目については、獣医学課程専任教員が担当しているものの、必ずしも専門領域ではないため、授業項目の一部しか教授できていない科目がある。各モデル・コア・カリキュラム科目のかいの科目について、達成可能かどうかのファケート調査を行った結果、講義と実習含めたの科目については一部の項目が専門がものをはないため、建策学課程および他課程に当できる専任教員がいないが、あるいは対当できる専任教員、非常勤講師が全くいないため、単独の授業としては開設していないため、単独の授業としては開設していないが利用がある。	『習科目に必要な材料が不足あるいは =が困難と動物の確保、臨床学や病理 こおける症例の画像データ、病原学的計 における病原微生物や抗体等の後査用 における病原微生物や抗体等のを における病原微生物や抗体等のを にはいかって、 の同じ内容の授業を多数の学生に同時 でしたが、 でしたが、 の事にを表しても専任教員の が、多くの科目あるい。 同一般目標もしくは到達目標)を担当 が、組織学、発生学、な衆衛生学、現 があげられる。 の事任教員が、多くの科目あるい。 の事任教員が、多くの科目あるい。 は一般目標もしくは到達目標)を担当 があげられる。 で一般日標本学、大獣共通感染症 があげられる。 でがまるだけで多くの時間を要するため がシスに十分な時間を割くことができれ がンスに十分な時間を割くことができれ
状況 15研究室および動物病院に加え、連合大学院、応用生物科学部生産環境科学課程、生命科学総合研究支援センターなど他学部・他課程に所属する教員が、モデル・コア・カリキュラム科目に該当する講義および実習を担当している。一部の科目は、選任の担当教員がいないため、非常勤講師、あるいは現在鳥取大学との間で実施している教育連携により授業の提供を受けている。	 〈全体像〉現在の教育課程表においては、獣医学教育モデル・コア・カリキュラム 〈引に掲載されている科目ごとに、対応する個々の授業科目が設定されていないたいないたいないたいる科目ごとに、対応する個々の授業科目が設定されていないたいないたいる科目によりひとつのコアカリ科目の一般目標又は到達目標の内容学にあるが高海・一方、現行の授業科目で複数のコアカリ科目の一般目標又は到達目機合もある。断に対応済み子で生化学」「生理学」「微生物学実習1等はほぼコアカリの内容に 試験業を実施。また、コケカリに対応するため、実習貿目を追加した授業科目もある 足り接業を実施。また、コケカリに対応するため、実習貿目を追加した授業科目もある 足り診断、治療に至る過程の疑似体験や、代替えモデルを用いた手技の習得をさせる が引等のエ大を行っている教育連携において、岐阜大学が岐阜大学・岐阜大学・成前産業大 うこが動物、当を指している教育連携において、岐阜大学・岐阜大学・岐阜大学・京都産業大 うこが無力を担け、これを表してケース・スタディーを授業の内容に含め、稟告からを輸出、対象に上に対して、「「無額疾病学」、「無数をとにケース・スタディーを授業の内容に含め、東告からを対し、「「無額疾病学」、「無な事態をは、「一個資本とにケース・スタディーを授業の内容に含め、東告から、「大島、大島、大島、大島、大島、大島、大島、大島、大島、大島、大島、大島、大島、大

発音を表現の 年間を発売し、 「おります。 「おりまます。 「おりまます。 「おりまます。 「おりまます。 「おります。 おります。 「まります。	全国的な対応・フォロー教員配置(増員)のための財源確保(予算措置)	・モデル・コア・カリキュラムに準拠した場合に、多 くの獣医系大学で対応できない授業科目については、獣医系以外の専門教員あるいは専門家を 集中講義形式で全国的に派遣するコア・カリキュ ラム対応のセンターを構築することを検討する。 ・実習動物の飼養管理及び購入費用の全国的な 農学部の附属施設と同様に教育経費を配分する ことを検討する。 ・北海道地区及び南九州地区に大学外組織として での産業動物系教育実習施設を設置し、地区の 共済獣医師等の臨床獣医師が授業及び実習を 担当して、全国の獣医系大学の学生は必修科目 として宿泊による集中型の参加型臨床実習を履 修するような教育プログラムを検討する。 ・特任教員や病院スタッフ整備のための全国的な 予算化及び1~2年間の研修獣医制度の義務化 を検討する。
課題 一部科目の専任教員不足 一部科目の専任教員不足 一部科目の専任教員不足 現在の課題は下記の3項目に要約される。 選科目は、両大学の専任教員に本述で新規 業双方向性システムにて補完しながら実がするが、両大学にも専門とする教員がいない場合には達成できない授業科目については、 が、一大・コア・カリキュラムの到達目標を十分には達成できない投業科目については、 ない、カリキュラムの到達目標を十分には達成できない投業科目については、 ない、カカボや容異教育に取って補かいは、 の応用獣医学教育分野の実習に対応できるような、学生実習室が不足している。 ③少人数編成による実習をが参加型臨床実習を実施するにあたり、実習用動物、実習を行う施設及び設備、実習を担助物、実習を行う施設及び設備、実習を担当する考員や補助スタッフが不足している。	公募により配置の方針	上記の①~③の現在の課題について下記のような今後の対応方針を予定している。 のような今後の対応方針を予定している。 ①事任教員の人事による対応と非常勤講師 手当等の教育予算の確保に努める。 ②病原微生物を広く扱うことが可能な施設・ 設備の設置を継続して要求する。 認備の設置を継続して要求する。 率的な動物について、実習経費の確保と効 率的な動物の使用について検討し、参加型 臨床集習では、附属動物病院での近例の教育的な運用が可能なように努める。実習動 物の飼育・管理、実習の実施が可能となる 教育実習様等の施設整備を継続して要求 する。参加型臨床実習を十分に実施できる よう、附属動物病院の専任教員、特任教 員、サポートスタッフ(動物看護師等)の増 員・整備に努める。
校及 今年度設置の『共同歌医学部』の教育課程における「専門教育科目(斉一教育科 日本度改置の『共同歌医学部』の教育課程における「専門教育科目(斉一教育科 B び事権教育科目により構成)」のうち、斉一教育科目の名称について、モデ ル・コア・カリキュラムに記載の科目名に可能な限り統一すると共に、個々の授業 ル・コア・カリキュラムに記載の科目名に可能な限り統一すると共に、個々の授業 内容についても照合し、準拠したものとし、全でを必修単位とした。 自力・キュラムを有一教育科目を同様ではモデル・コア・カリキュラム・準に投 育連携を実施する。この教育科目と「存権ではモデル・コア・カリキュラム・準にも カリキュラムを斉一教育科目と「存権ではモデル・コア・カリキュラム・準にも カリキュラムを斉一教育科目を学研験に学科平成24年度入学生り年次進 イにしたがって実施している。この教育カリキャラムでは展大学生り年次進 イにしたがって実施している。この教育カリキャラムでは農学制 を任人が手では開闢にている。この教育カリキャラムでは農学制 オーにしたがって実施している。この教育カリキャラムでは農学制規開講及び既設科目のシ ラバス改変により、モデル・コア・カリキュラムの到達目標に対応させた。		現在の課題は下記の3項目に要約される。 ①モデル・コア・カリキュラムに準じて新規開業及び既設科目のシラバス改変を行った授業科目は、両大学の専任教員による遠隔接業の方が、面大学の専任教員による対応まり、ない、のでに馬に島大学にも専門とする対応を予定している、他に島人を計算師等による対応を予定している、他には達成できない授業科目については、オムニバス方式や客員教員に取って補わなければならず、必ずしも充足してはいない。②応用獣医学教育分野の実習に対応できるような、学生実習室が不足している。 ③少人数編成による実習及び参加型臨床実習を実施するにあたり、実習用動物、実習を手続するにあたり、実習用動物、実習を行う施設及び設備、実習用動物、実質を行う施設及び設備、実習用動物、実質を行う施設及び設備、実習用動物、実質を行う施設及び設備、実習用動物、実質を持つが不足している。
<u> </u>	状況 今年度設置の『共同獣医学部』の教育課程における「専門教育科目(斉一教育科 目及び専修教育科目により構成)」のうち、斉一教育科目の名称について、モデル・コア・カリキュラムに記載の科目名に可能な限り統一すると共に、個々の授業内容についても照合し準拠したものとし、全てを必修単位とした。	山口大学との共同獣医学部設置により専任教員65名による教育体制となり、さらに平成24年度までに5講義室への遠隔授業双方向性システムを両大学に設置することで、両大学一致の共同教育課程を構築して幅広い獣医学分野を網羅する。言か、ユラムを一教育科目として構成し、両大学に同一カリキュラムに進じた教育カリキュラムを有一教育科目とて構成し、両大学に同一カリキュラムでの同一カリキュラムに通じて大同カリキュラムを有いな変替には同割にて共同獣医学部獣医学科・成23行にしたがって実施している。この教育カリキャラムでは農学部獣医学科平成24年度入学生より年次3行にしたがって実施している。この教育カリキャラムでは農学部獣医学科平成23行にしたがって実施していなかった授業科目を新規開講及び既設科目のシラバス改変により、モデル・コア・カリキュラムの到達目標に対応させた。

全国的な対応・フォロー 1. 東京大学および大阪府立大学との連携教育 2. JRAなどの学外機関との連携教育 3. 県内臨床獣医師による講義・実習 3. 県内臨床獣医師による講義・実習	産業動物臨床実習を一括して実施する全国的な機構の設立が必要である。
対応方針 1. 獣医倫理・動物福祉学:一部の到達目標について東京大学および大阪府立大学との連携教育 2. 獣医事法規:一部の到達目標について東京大学および大阪府立大学との連携教育 3. 野生動物学:一部の到達目標について東京大学および大阪府立大学なび大学外機関との連携教育 5. 臨床行動学:一部の到達目標について東京大学および大阪府立大学との連携教育 6. 臨床行動学:一部の到達目標について東京大学および大阪府立大学との連携教育 5. 臨床行動学:一部の到達目標について東京大学および大阪府立大学との連携教育 5. 臨床行動学:一部の割達目標について東京大学および大阪府立大学との連携教育	大動物臨床実習については、他大学、或いは共済組合との連携を模索している。
課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大動物臨床実習、動物行動学などの一部の科目では専任教員による教育が困難な状況であり、現在対応を検討中である。また、大動物臨床実習については、大阪府内の畜産関係研究機関や家畜保健衛生所、兵庫県農業共済組合等の協力をお願いしている別、大学キャンパスが都市圏に立地している関係で、充分な症例数を確保することが困難な状況である。
 状況 中成23年3月に、獣医学教育モデル・コア・カリキュラム(以下モデル・コア・カリキュラム)に関する調査委員会がモデル・コア・カリキュラム51科目を公開した。これを受けて宮崎大学では、平成23年4月からモデル・コア・カリキュラム51科目を公開した。これを受けて宮崎大学では、平成23年4月からモデル・コア・カリキュラムに対応しているのか、対応していない場合でも学内教員で対応できるのりかなどの調査を行った。その結果51科目中40科目については現状の獣医学科書のおどの調査を行った。その結果51科目中40科目については現状の獣医学科書のなどの調査を行った。その結果51科目中40科目については現状の獣医学科書を見の計画がよりの調査を行った。その結果51科目中40科目については現状の獣医学科書を目標についても、大部分は現在開講している科目が対応していること、また残りの部分についても、大部分は現在開講している科目が対応していること、また残りの部分についても、大部の科目の到達目標について外部からの協力が必要なことから、具体的なリキュラムの協力によって対応できることが分かった。 次に、一部の科目の到達目標について外部からの協力が必要なことから、具体的でできるかどうかの試行を行った。実施後に、担当教員及び学生にアンケート調査を持つけなってもができることが分かった。 東が得られた。 平成24年度では、再度、東京大学との教育連携、さらに大阪府立大学との教育連携も併せて試行し、モデル・コア・カリキュラムへの対応に有効であるとの結びを明確にするがそのよってそのがで、具体的なカリキュラムの改訂に著をおい、新医・基本は、新の監察者はおよび他学科の授業科目によいて、モデル・コア・カリキュラムに新しく入った、獣医学部、医科目の具体的対応に関していることをすでに確認している。なお、各科目の以下の()内に示す部分については、対応策を協議中である。獣医倫理・動物福・勤物福祉学、獣医師のが正に対ながに対応策を協議中である。獣医倫理・動物福・地学に関する到達目標)、獣医事法規(法規の概念、獣医婦の犯罪と制裁、比較獣医事法などに関する到達目標)。 	平成24年度にモデル・コア・カリキュラムに準拠したカリキュラムに変更ずみであり、概論・倫理・法規・動物行動・育種なども対応済みである。 は

	E O
全国的な対応・フォロー 公衆衛生施設での実習について、地方自治体の 特段の協力をお願いしたい。 事任教員は科目担当者として、学内だけではフォ	の ローできない内容を、社会で活躍する臨床獣医師 こ の先生にもご援助頂くようなシステムを構築する そ 必要があると考えている。現在でも、非常勤講師 者 として、科目毎に招聘しているが、部分的な補填 1 に留まっており、臨床系23科目の全体像を描き、 その中で、本学の弱い点を補充するような戦略の 必要性を感じている。
本方針 王教員の完全な配置を折に触れて学長 世学類との関係から思うような人事が美 されていない。モデル・コア・カリキュラム の実施など獣医学教育環境が激変して 見状を粘り強く学長に説明し、専任教員 果に努めたい。 果に努めたい。	キュラムの講義科目と同じような区分をその中で、実質的な講義時間数として割り振るとなどの対応が必要であると考えている。のためには、それぞれの科目の担当責任が必要であり、臨床系教員数の不足をどのような形で補うかの議論を重ねたい。
課題 される教員が完全でないため、現在勤務する教員が完全でないため、現在勤務する教員の負担が大きくなっている。また、動物倫理と動物福祉や獣医関係法規、魚病学に選任教員がいないため、学内の教員・いる。 近隣の北海道庁職員の応援で講義を行っている。 近隣の北海道庁職員の応援で講義を行っている。 でいる。 重た、応用獣医学で特に重要な公衆衛生 連方、応用獣医学で特に重要な公衆衛生 連方を設見学が学生の安全性確保や資品 衛生の観点から実施できていない。 衛生の観点から実施できていない。	に、参加型実習を実施する上で教員数の7 足が今後問題となる。これまでの見学型から参加型に実習内容を切り替えた場合に、 きめ細やかな指導が不可欠であり、臨床系 中を任教員数が不足している。 また、臨床系科目が23科目に細分化されており、本学のカリキュラムにおいては、「り動物総合臨床学」大動物総合臨床学」とう名称で、小動物臨床系15名と大動物臨り名称で、小動物臨床系15名と大動物臨り系7名の教員がオムニバス形式でそれぞれの専門分野・関連分野を担当している。
株況 ・ 大記 ・ 大記	ル・コア・カリキュラムとの対応について詳細に検討したところ、動物遺伝育種学が本学では動物遺伝学(非常勤)と動物育種学(選択:本学専任)に分かれて教育されているが、その他は名称が異なるものの内容は全て網羅され、本学専任教員が担当している。導入・基礎獣医学分野では、獣医倫理・動物福祉学および獣医事法規(本学では獣医畜産関係法規)が6年次配当となっており、導入という意味では配当年次に問題がある。動物行動学も専任教員が臨床行動学を中心に対応し、大

全国的な対応・フォロー 全国的な対応・フォロー	# 当校では獣医学教育モデル・コア・カリキュラムにつき 準拠した新しい教育体制の完全実施へのほぼ完る 全な対応が可能であるが、さらに近隣の私立大学との連携により、全ての教科目の相互乗り入れがさらに可能になれば、より完成 度の高い獣医学教育の実施が可能であると思わる。また、海外の大学との国際協力についても能 充分な成果が期待できる
対応方針 本学科は、日本大学生物資源科学部の11 学科の一つであり、スケールメリットを享受し た教育が行われている反面、6年制獣医学 の特殊な部分に対する柔軟な対応が不十 分な箇所がある。平成24年度から学部改組 に向けて、生物資源科学部先導の改組準備 が開始された。	獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した教官増員の完全実施は、私学にとって経営問題などに抵触し困難な問題である。 が、他学部や他学科教員の兼担や非常勤教員の採用や非常勤教員の採用によって対応可能と思われる。 は主た、大勤物実習、野生動物学実習、公衆 は主学や獣医衛生学に関連する実習は、国会をと思われる。 さると思われる。さらに、国際交流事業として非常に親密な国際協定関係にあるオーストラボーのが の施設での大動物実習が実施可能であり、 現在、具体的な実施プログラムの準備等の 精査などを行っており、近々にパイロット実 習を開講する予定である
課題 51科目全てに対応できる質保証された教員 の確保および、私学に特徴的である多数の 学生に良質な教育を提供できる設備など バードの環境整備には、かなりの困難が伴 うと予想される。	接学など新規の科目の一部については、講義のための専任教員の準備を開講年度に同け実施する予定であるが、非常勤講師あるいは他学科の教員の兼担によって補充せざるを得ない現状がある。また、演習・実習では専門化した参加型弁異習への対応は、現在の山梨県での付属体場施設実習や共済などの診療機関での実習だけでは不十分であり、今後学外実習の内容と評価システム等について4年後の本格的な参加型実習の開講を目指して準備する必要がある。
状況 私立獣医科大学協会の活動の一環として、モデル・コア・カリキュラムと各大学の 現行カリキラムの比較が実施され、本学を含め、私学は、モデル・コア・カリキュラ ムの精神と、掲載の教育項目については、従前から教育が行われている。 導入基礎科目において、モデル・コア・カリキュラムに新しくカウとされる科目(概論・倫理・法根・動物行動・育種など、これまでにない新し、科目と設問されたも りについて、本学は、獣医学概論、獣医倫理・動物福祉学、獣医関連法規、獣医 りについて、本学は、獣医や概論、獣医倫理・動物福祉学、獣医関連法規、獣医 の別について、本学は、獣医免疫学等、平成16年度改訂の現行カリキュラムにおい て開講済。 会的な検討を行っている。	平成24年度入学の獣医学科1年次より、全てのカリキュラムを変更し、原則として 獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した。また、導入基礎科目である概 論・倫理・法規・動物行動・育種などを含む全科目を新しい教育体制に従うよう整備した。そのため新規の専門科目などの新設が必要となったが、総時間教の見直 しによる教養科目等の大規模な整理等を実施した。語学科目では英語教育の国際化を目指し、実用性を重視したコミューケーション能力を目標としたスピーキングヤン・大力などを習熟するための改訂を実施した。さらに理科科目については獣医科教育の特性を保証するため、斉一的に生物学と化学教育の充実に努めた選択科目等の整備も加えて実施した。
日本大学	日本獣医生命科学大学 13

	的に全	•	ミ師から	寮)のみ	チン接	関。に	カー汝	状医師	相容れ	-4ドク	.8,4	5の協	療利用	本獣医	下の余	要最低	や耳び		の参加	を設に	む獣医	加工工	国の大		育体制		
	ば,基本的	う針である	開業獣図	f(二次診)	認やしつ	症例が必	も最低限の	は、地元調	ることとは	院が, ホ-	ು	b 元獸医的	の一次診	いては, E	き等から 傘	おける必	解と協力		教育として	学外診療力	分野に進	5百から,	がら, 全	t. 受入先	。現場教司	いする。	
	ま, 本学で	完で行う た	勿部門は,	度獸医療	ま, 定期値	次診療の	動物病院	、この点	こ期待する	属動物病	けではな	むなどで生	動物病院	いれ。つ	!獸医師9	物病院に	ここれ、 革	いである。	ドバンス	所など、	/する。同	質確保の記	。しかしな	いる場合に	当かかる	劉をお願	
ふ・フォロー	临床実習 (家畜)病	完の小動	割こした 高	リ教育にに	わゆるー	は, 附属	シドしたい	動物病院!	一人孙系	担えるわ	新帯の対	大学附属	バ生じるお	t都道府県	学附属動	寮実施に	げると幸	1床分野ア	OSAI診療	いをお願 し	北戦時の	のである	ら世話にな	負担が相	り, 公的援	
全国的な対応・フォロ	総合参加型臨床実習は, 本学では	て附属動物(家畜)病院で行う方針である。	附属動物病院の小動物部門は,開業獣医師から	の紹介を前提にした高度獣医療(二次診療)のみ	実施。コアカリ教育には,定期健診やワクチン接	種を含む,いわゆる一次診療の症例が必要。こ	こめ、今後	寮を行うよ	が大学附属動物病院に期待することとは相容れ	ない面があり,大学附属動物病院が,ホームドク	-の役割を	日や夜間発病時の対応などで地元獣医師の協	力がないと, 大学附属動物病院の一次診療利用	者に不都合が生じるおそれ。ついては,日本獣医	師会あるいは都道府県獣医師会等から傘下の会	員に対し,大学附属動物病院における必要最低	限の一次診療実施について,理解と協力を呼び	かけていただけると幸いである。	産業動物臨床分野アドバンス教育としての参加	型実習は, NOSAI診療所など, 学外診療施設に	実習受け入れをお願いする。同分野に進む獣医	師の確保と就職時の質確保の両面から、絶対に	欠かせないものである。しかしながら,全国の大	学の学生がお世話になる場合は、受入先に、	的・経済的な負担が相当かかる。現場教育体制	整備のため、公的援助をお願いする	
₩	T .	r は 点	ミ用す 附		ய	4条種	得た の						1 £)	-			强(かし	<u>भए</u> ।	盟	<u>W</u>	語	火	<u>₩</u>	宏	<u>Ĝ</u>	
	学内専任	こういては	新たに持	充人事は	の確保を	t獣医学 ^和	シナスを		, 先ず, 四	タッフが、	システムを	がある。	-めに, 人	らかにし、	必要な多												
	りながら 。	い分野に	年教員を	数員の補	要な教員	り, 先ずに	トのロンナ		しいては	物病院ス	うな実習	-する必要	軽現するた	要かを明	協議して												
	科目であり	E者が居な	分野の連	。今後の説	ないに必	必要があ	れにしい		床実習に	メとした動	りこどのよ	十を明確に	ステムを写	ど何が必	いは法人と	事する。											
对応方針	コアカリの科目でありながら、学内専任教員	に担当適任者が居ない分野については,	きればその分野の専任教員を新たに採用す	べきである。今後の教員の補充人事は, コ	アカリへの対応に必要な教員の確保を優先	して進める必要があり,先ずは獣医学科会	議などでこれについてのコンセンサスを得た	°	参加型路	教員を中心とした動物病院スタッフが、本学	では具体的	指すか方針を明確にする必要がある。そし	C, そのシステムを実現するために, 人や施	設・設備など何が必要かを明らかにし、大学	本部あるいは法人と協議して,必要な実習	本制を整備する。											
1×	ļ											+	1-	md	L.Y.	*											
	, 他学部•他学	で買に適任	規の教育)。	h格実施 (ではおそらく平成29年度の5年次後期から	朝はおよる	、現状で、	を忙なこと	にあり,特に小動物部門では,まだこの新し	い実習への対策に十分取り組めていない。	早急に誤	%															
	こついては	の専任教員	規の教育	斥実習の 2	29年度の	ち開始時	:系教員は	の兼務でき	物部門で	に十分 野	か中心に、	必要であ															
	いくつかの科目に	科も含めて, 学内	ない(例:倫理・法)	総合参加型臨床	たらく 平成	。すなわず	5が、 臨床	沴療業務0	特に小動	一般なのく	臨床教員:	答ることが															
課題	いくつか	科も含め	ない (例		かなおか	になろう	後になる	一年的と記	_																		
	業におい	デルコア		事され た調		容をおお	ない。また	日に分散	ノニボな力	^ °	ら。具体	委員会」	 小全科目	否か確認		寛1年次の	当科目の	F 6。									
	。編成作	きあったモ	がけた。	きから要請		の教育内	も一致し	の複数科	バ, コアカ	していない	対調査を行	アカリ対策	て、コアナ	がないか		₽成25年[1年次配	に反映な-									
	-編成した	5作成中で	-るよう心:	4大学協4		た各科目	になみずし	リキュラム	5学教育/	では確認	詳細な比彰	ら成る「コフ	中心となっ	こいるもの		あれば, ユ	業のうち、	バス作成									
	キュラムを	がら, 当版	う内容とす	5立獣医科		に示され	この科目を	、 本学力	木学の獣 間	か否かま	ついて、評	H委員かり	を員会が	抜け落ちて		べき点が	-記3の作	:度のシラ									
	1. 獣医学科では, 平成23年度に新しいカリキュラムを編成した。編成作業におい	ら台にしな	るだけ沿	2. 平成23年3月にコアカリが示された後,私立獣医科大学協会から要請された調		当大学の獣医学科カリキュラムは、コアカリに示された各科目の教育内容をおお	リキュラム	習項目)カ	のため , 4	罹している	育内容に	育系の選出	t定), 同言	の学習項目の中で、本学のカリキュラムが抜け落ちているものがないか否か確認		学 4. 上の調査で当学科カリキュラムに改めるべき点があれば, 平成25年度1年次の	がって、上	確認は先行して行い,その結果は平成25年度のシラバス作成に反映させる。									
	3年度に第	ムをたたき)案にでき	リが示す	ڻ ا	トュラムは	だし、両力	5内容(学)	モする。そ	サベト鑑	ラムの教	り に各教	で委員を決	学のカリキ		リキュラム	する。した	-の結果は									
	は, 平成2	リノキュラ	1アカリ) Ø.	月にコアナ	査で, 次のことを確認した。	学科力リニ	こいる。た;	!目の教育	《多数存名	省部また	両カリキュ	さ科会議に	ぎ科会議1	中で、本語		当学科力	順次改善	て行い、そ									
	医学科で	従来の力	- コラム (ニ	成23年3)	次のこと	学の獣医	カバーして	1)中各科	ている例カ	育内容の	年度は, 『	よ, 獣医与	置し(5月寺	習項目の		の調査で	内容から	は先行して									
状況	1. 獣	L C C C C	カリキ	2. 平	草ふん	当六	さね、	17.7.	なれて	た教]	გ (1)	おご	麻 を設置	年 の学習	ナ <u>ず</u> る。	学 4 上	教育	確認									4

臨床系分野(伴侶動物臨床・産業動物臨床)のモデル・コア・カリキュラムの対応状況

	光神迪大学	Oスタッフについて Oスタッフについて 現状では、小動物臨床に関する最低限の臨床実習への対応は不可能ではないが、産業動物の臨床実習を実施するには不十 現状では、小動物臨床実習は帯広畜産大学において実施。 から、従って、参加型臨床実習は帯広畜産大学において実施。 教員と補助スタッフに加えて、技術系サポートスタッフ(薬剤師不在、動物看護士7名)および事務サポートスタッフ(会計担当正 教員と補助スタッフに加えて、技術系サポートスタッフ(薬剤師不在、動物看護士7名)および事務サポートスタッフ(会計担当正 規職員不在、会計担当事務補助員2名、機材保守専門職員不在)も著しく不足。 規職員不在、会計担当事務補助員2名、機材保守専門職員不在)も著しく不足。 規職員不在、会計担当事務補助員2名、機材保守専門職員不在)も著しく不足。 規職員不在、会計担当事務補助員2名、機材保守専門職員不在)も著しく不足。 規職員不在、会計担当事務が助員2名、機材保守専門職員不在)も著しく不足。 が電産大学の学生を含めると80名の参加型臨床実習を行わればならない。最も重要な点は、臨床症例を増やし、学生が学ぶこと ができる多様な症例と数を確保し、倍増する学生の教材としなければ、教育の質の向上は望めない。
15		〇実習室及び附属動物病院について 基本的な斉一教育としての臨床実習に必要な実習室は確保されている。しかし、参加型臨床実習時に不可欠となるランドルームなどはない。今後、同獣医学課程に必要な実習・自習設備などを整備する予定・ ムなどはない。今後、同獣医学課程に必要な実習・自習設備などを整備する予定・ 北大において重要な課題は、動物愛護思想の社会的浸透に伴って、人道的に動物を取り扱うAAALAC認定施設にふさわしい生体を用いるまで重の整備。また、内科学や外科学実習において、可能な限り生体(実験動物)の使用を排除した教育を可能とするよう記録備を整えていく必要がある。 動物病院は、近年、小動物関係の診療・診断機器、治療機器、分析機器などを充実してきた。40名の学生に対する最低限の参加型臨床実習は可能。共同教育課程を踏まえて新宮する動物病院は、現在の動物病院権の実効診療区域面積(1,000m2)が、約3倍に拡張し、診療室、検査室および手術室が充実(平成25年3月竣工予定)。これにより、小動物の臨床教育の現代化が可能に、しかし、産業動物教育に関する施設は、現状で全ての実習を実施できる環境にはなく、コアカリキュラムを実施するに当たり、学内・外での教育連携が不可欠。
	帯広畜産大学	

tyle 大学は、平成25年度開講を目標に、鳥取大学との共同教育課程の設置にむけて、臨床分野の講義および実習内容について検討を進めている。岐阜大学で開設するコア・カリキュラムに準拠した臨床系科目は、獣医内科学総論、獣医臨床病理学、臓器別合論(泌尿ノ内分泌)、臓器別総論・各論(栄養/臨薬)、臓器別総論・各論(栄養/臨薬)、臓器別総論・各論(栄養/臨薬)、臓器別総論・各論(栄養/臨薬)、臓器別総論・各論(対象・体験)、臓器別総論・各論(神経/腫瘍)、臓器別総論・各論(神経/腫瘍)、獣医師木内科学総論、獣医手術学総論、獣医手術学総論、獣医神学総論、獣医神学総論、獣医神学、獣医・神学総論、獣医・神学総論、獣医・神学・獣医・神経・神経・神経・神経・神経・神経・神経・神経・神経・神経・神経・神経・神経・	t学 総合参加型臨床実習・動物医療センターでの実習をサポートするスタッフが十分に確保されていない。将来的にサポートが期待できる人員として、臨床研修獣医師、非常勤獣医師及び動物看護士が挙げられるが、現時点では、これら人員の雇用はすべて動物医療センターの自己収入を充てることになっており、財源も十分に確保できていない。これに対する大学の支援は明らかにされていない。これに対する大学の支援は明らかにされていない。これに対する大学の支援は明らかにされていない。い動物外科学実習:麻酔器、モニター、手術台、手洗い等の実習セットが複数必要であるが、現在は実習用の機器は麻酔器1台のみである。したがって、学生は見学実習にとどまっており、総合参加型臨床実習に向けた基本手技の修得が十分とはいえない。大学のマスタープランに挙げて設備の充実に取り組んでいるが、短期間での充足は難しい。
 中 中 大 学	孙 长

コ ロ 大 か	伴侶動物診療に携わる教員,動物看護士を増員し、施設の改修と設備の充実を図ることで、診療可能症例数を増加させ、学生が より多くの症例を経験できるように努めている。山口という非常に人口の少ない場所でより多くの症例数を確保して行く上で、新し い放射線治療器の導入や研究段階にあるような先進的な治験を行うなどの高度獣医療の実践が必要であると考えられる。 産業動物に関する臨床実習は山口県という土地柄もあり十分ではない。現状の産業動物実習に関わる教育が十分でないこと に関しては鹿児島大学との新カリキュラムによって改善していく予定であり、またこれが不可欠である。老朽化した学内の牛舎に ついては、その改築が計画されており、生殖工学に関する実習備品の充実化も図られることから、実習施設の改善は見込まれ る。
期 記 当 子 当 計 十 18	■共同獣医学部を設置し、山口大学との共同教育課程でモデルコアカリキュラムに準じた教育カリキュラムを設定して、平成24年度入学生(共同獣医学部を設置し、山口大学との共同教育課程でモデルコアカリキュラムに進じた教育カリキュラムを設定している。しかしながら、総合参加型臨床実習は各大学での対面式になるため、現在の教育スタッフおよび設備では対応が不十分である。 「は対応が不十分である。 「は対応である。」ものには、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

11. 産業動物臨床科目の講義および実習については、対応可能である。	2. 小動物分野の講義および実習については、概ね対応可能であるが、教育内容の充実のためには、他大学との連携教育を実	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
宮崎大学		

- 衙しに クァ 当 すしい。
- *参加型実習に関し
- 1. 平成22年6月に農林水産省から出された「獣医学教育における獣医学生の臨床実習の条件整備に関する報告書」の内容に 基づいて、小動物診療および産業動物診療における診療行為を次に示す3つの水準に区分してガイドラインを策定した。 水準11は所有者の同意を得て、指導教員の指導・監督(獣医学生15人程度に指導者1人がつき、必要に応じて技術介助を行う) の下に実施が許容されるもの。
 - 水準2は所有者の同意を得て、指導教員の指導・監視(獣医学生に必ず指導者が同伴し、必要に応じて獣医学生の診療行為を中止することを指示する)の下に実施が許容されるもの。 中止することを指示する)の下に実施が許容されるもの。 水準3は原則として指導教員の実施を見学することにとどめるもの。
- 2. 附属動物病院は、他大学と異なり、完全二次診療施設であるため、参加型臨床実習の伴侶動物臨床科目において、水準1や水準2を対象とした症例の確保は現段階では難しい。県内の一次診療施設の理解を得て、参加型臨床実習の実施にむけて、症例確保をする予定である。
- 3. 参加型臨床実習の参加型総合臨床実習に対応する病院実習等の実習を現在も行っているが、見学型実習から実践的実習を行うための指導教員の確保が問題となっている。このため、臨床系特任助教や非常勤獣医師の採用、宮崎県内動物診療施設との協力を視野にいれ対応策を協議中である。

小
ĸ
卢
所
· ()

コア・カリキュラムに記載の小動物動物臨床関連の項目は上記の授業科目に含まれている。上記の小動物を主に扱う授業科のうち、獣医放射線学実習、獣医内科学実習、獣医麻酔・手術学実習、獣医繁殖学実習については2~4名の学内教員で担当している。参加型実習である総合臨床は20名の学内教員のローテーション方式による教育を実施する。 小動物臨床関連

Ш

産業動物臨床関連

のうち、獣医繁殖学A、獣医繁殖学B、獣医繁殖学実習、大動物臨床A(牛)及び大動物野外診療実習については2~4名の学内 めうち、獣医繁殖学A、獣医繁殖学B、獣医繁殖学実習、大動物臨床A(牛)及び大動物野外診療実習については2~4名の学内 教員で担当。また、畜産学概論、大動物診断治療学A(牛)は現在非常勤講師に依頼しているが、平成28年度から6名の学内教員で対 学外の非常勤講師に依頼。大動物診断治療学A(牛)は現在非常勤講師に依頼しているが、平成28年度から6名の学内教員で対 応する予定。また、平成27年度以降に開講を予定している獣医臨床栄養学の産業動物に関する項目及び産業動物生産獣医療 の全項目については、2名の学内教員で対応する予定。従来、本学には産業動物(牛・豚・馬)臨床を主に担当する教員が少なく、 なかでも産業動物の内外科学を専門とする教員は極めて乏しく、内外科が専門でない一部の教員の教育負担が大きくなりつる る。産業動物臨床を専門とする教育スタッフが乏しい問題については、畜産地帯に立地する宮崎大学農学部獣医学科との教育 連携を行うことによって対応する方策を検討中である。なお、教育連携の問題点としては、実習科目を他大学で行う場合、実習学 生受入れ側の負担および学生移動にともなう旅費・宿泊費の出費等の問題が挙げられる。 コア・カリキュラムに記載の産業動物臨床関連の項目は上記の授業科目に含まれている。上記の産業動物を主に扱う授業科

阪府下酪農家(大阪府家畜保健衛生所の管轄農家)及び兵庫県下畜産農家(NOSAI兵庫の管轄農家)で実施。兵庫県は国内有数の畜産県であり、NOSAI兵庫は近畿で唯一の産業動物(牛)の臨床研修施設を保有しており、診療指導実績の豊富な獣医師が揃っている。参加型実習に最適な環境であるが、必修科目として学生全員に産業動物臨床実習を提供するには、多大な協力が 学内に正常な牛・馬・豚等を短期飼育して、繁殖学・内外科学等の一般的な臨床実習は実施できる。しかし、従来附属牧場を保 有していないため、牧場実習及び臨床実習の一部は地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所の牛舎で実施。 産業動物臨床実習の参加型臨床実習は、学内では実施不可能なため、上記大阪府立環境農林水産総合研究所に加えて、大

20

|本学は私学であり、1学年の入学定員が多く、教育の質を確保した状態で総合的参加型臨床実習を斉一教育として展開するには |臨床系教員の人数が明らかに不足している。そこで、現状では、5-6年次に総合的参加型臨床実習を受講する学生数を生産動物 |医療専修コース(20-25名)および伴侶動物医療専修コース(25-30名)を選択した学生に限定することでEU諸国レベルの学生数: |教員数比を確保し、本学における臨床獣医学教育の質を確保している。本学において、教育の質を確保して「平成24年度版 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」に示された臨床獣医学分野の「総合参加型臨床実習」を実施することは現状のままでは困難であり、以下の課題を解決する必要がある。 1)カリキュラムの改正

受講定員を限定している(斉一教育でない)。本学は2011年度に全学教育課程を一新したことから、獣医学類では2011年度入学生のカリキュラムが完成する2016年までは総合参加型臨床実習を専修教育として開講する現行カリキュラムを変更できない状況にある。したがって、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに示されているように斉一教育として総合的参加型臨床実習を展開するためにはカリキュラム改正が必要であるものの、その開始は最短でも2017年度入学生からの実施となる。 獣医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、総合参加型臨床実習を斉一教育として学生全員を対象とすることが盛り込まれている。一方、現行カリキュラムでは前述のように教育の質を確保するために、総合参加型臨床実習を専修教育コース別科目として 2)教員スタッフの確保

総合的参加型臨床実習を臨床獣医学分野のみで展開した場合、現状の教員数ではその質を確保できないのは明確である(学生定員120名に対して臨床系教員17名であり、学生数:教員比=7.1/学年)。したがって、総合参加型臨床実習を斉一教育として実施する際にその教育の質を確保するためには、(1)臨床系教員数を増員する、(2)衛生分野についても総合参加型臨床実習のメニューに取り入れる、などによって総合参加型臨床実習を担う教員数を増やす必要がある(少なくとも、学生定員120名に対して 教員30名で、学生数:教員比=4.0/学年)

小動物関連の実習科目については、小動物診療センターを新築したことで、現状で施設・設備はコア・カリキュラムに対応可能で ある。しかし、スタッフが不足である。 北里大学

産業動物関連の実習科目については少人数に分けて臨床実習することは、スタッフが少なく困難であるが、6年前期で実施している大動物臨床実習演習のような少人数が選択(約30名程度)している科目ではきめ細かい指導と実習が可能である。斉一科目としては5年後期で実施している大動物病院実習演習のような20名1班での実習は可能である。ただ、この場合でも現在のスタッ フ数では拘束時間が長く、研究教育活動に困難が伴っている。さらに、外来・入院患畜数だけでは実施できないため、かなりの動 物の提供を受けて実施しており、その飼育費と治療費が大きな負担になっている。 また、実習を実施するために集めた動物を飼育する施設も老朽化により各所に損傷が見受けられ、改修あるいは新設が必要。

現行のカリキュラムでは、臨床系授業科目は必須21科目26単位、選択必須9科目9単位であり、臨床系実習は16.5単位となってい る。しかし、今年度から始まったコア・カリキュラムに準拠したカリキュラムでは、臨床分野必須科目が27科目41単位と大幅に増加

日本獣医生命

し、臨床系実習も17.5単位となっている。したがって、現在の臨床系教員18名(教授7名、准教授2名、講師6名、助教3名)だけで は、対応することが困難であることが予想される。特に、産業動物教育を主とする教員が1名であるため、充実した産業動物教育 を行うことに支障がでると思われる。また、将来的に安定した臨床教育体制を構築するためには、若手臨床教員の育成が重要で あり大学の対応を切望する。

コア・カリキュラムでは、参加型臨床実習が行われる予定であるが、現在の臨床系教員だけでは授業および実習への対応に加え、約90名の学生を対象とした参加型臨床実習を行うことは困難である。加えて、本学では獣医保健看護学科の動物医療センター実習も行われており、動物医療センターの助手および動物看護師等のスタッフの増員および診療施設の拡充が必要である。教育施設としては、講義室および実習室の不足が問題であるが、現在合同教育棟(仮称)の建設準備を進めている。

21

日本大学 参加型臨床実習:		-
参加型臨床実習:		4
参加型臨床実習:		- ナミ ゴァナ ガ 5番
参加型臨床実習:		「冷) 7、1 一半冊-
参加型臨床実習:		いっとしょう
	··	4
日本大学	参加型臨床実	计 4 记 4 计 4 1 1
	日本大学	

で、参加型臨床実習の無理のない運用には1診療科最低2人以上の臨床教員を配置する必要がある。もし、直ぐに臨床教員を配置できない場合でも、臨床経験5年以上の獣医師を特任助手として採用して(欧米におけるレジデント)、臨床教員と共に診療およ 診療科程度に増やし、実施期間も1年間に延長する必要がある。現在、臨床教員が1人で担当している診療科がいくつかあるの ・動物病院を使った参加型臨床実習を行うには現在実施している6診療科では1班当たりの学生数が約12人と多いことから、 び学生指導を行うなどの対応策を急ぐ必要がある。

況にあるが、高額実習機器や多数の動物モデルの導入については特別な財政支援を要する。欧米ではコンピューターと顕微鏡をセットにしたドライラボ実習室が設置されており、非常に高い教育効果を上げており、今後e-ラーニング等の導入と併せてドライラボ設置を急ぐ必要がある。従来の見学型臨床実習における診療科を倍増させることから、動物病院の伴侶動物部門としては診察室、処置室、小講義室、更衣室などの増設が必要。都市近郊にある獣医科大学ということもあり、日常的な産業動物診療をこれまで実施してこなかったが、今年、神奈川県農業共都市近郊にある獣医科大学ということもあり、日常的な産業動物診療をこれまで実施してこなかったが、今年、神奈川県農業共済組合と協定を結び、週1回程度の学外診療を実施する計画である。産業動物実習施設が30年経過して設備も古くなっていることから、動物移動に伴う事故を回避するために幹線道路の反対側にある農場内に新たな実習施設を設置する必要がある。また、 ・小動物臨床実習室は現在、内科小動物実習室、外科小動物実習室、画像診断実習室等が整備されており、一応満足すべき状

診療施設も併設することで動物病院としての機能を持たせ、参加型臨床実習の責務に応える必要がある。治療見込みのない場 合には動物移譲があることから、診断、治療、飼育管理などに学生の参加する余地は大きい。

が、概ね基本内容は、網羅していると考えている。教員は、内科学分野4名、外科学1名,臨床繁殖学2名のほか、生産獣医学系の関連教員が5名おり、また、欠員教員の補充対応も早急に実施することで、コア・カリキュラムの実施に向けた調整の中で、対応は、可能であると考えている。今後の課題としては、教育施設と動物飼育施設の老朽化等に対応した建て替えが第一に指摘されるが、このことは、大学としても検討中であることから,早期に解決されるものと想定している。 産業動物分野:臨床獣医学教育分野の科目としては,基本的には,現在のカリキュラムにおいて時間数の調整が必要と思われる 内科学及びその実習、小動物獣医総合臨床及びその実習である。「画像診断」に関する科目は、獣医療倫理・動物福祉、獣医療関係法規、獣医放射線学及びその実習、小動物獣医総合臨床及びその実習である。「手術・入院」に関する科目は、獣医療倫 理・動物福祉, 獣医療関係法規, 獣医外科学及びその実習, 獣医放射線学及びその実習, 獣医内科学及びその実習, 小動物獣 医総合臨床及びその実習である。 「画像診断」,「手術・入院」に分けている。「飼主との対話」に関する科目は,獣医療倫理・動物福祉,獣医療関係法規,獣医内科 小動物分野:本学は、「学理の討究と誠実なる実践」を建学の精神として、体系学的な教育を行っている。小動物臨床分野では、 診断及びその治療及びその予後判定及び予防処置を実践する臨床行為は、「飼主との対話」,「診察・処方箋」「臨床検査」 学及びその実習,小動物獣医総合臨床及びその実習である。「診察・処方箋」に関する科目は,獣医療倫理・動物福祉,獣B 関係法規,獣医内科学及びその実習,小動物獣医総合臨床及びその実習である。「臨床検査」に関する科目は,臨床病理,

応用系分野(公衆衛生・家畜衛生)のモデル・コア・カリキュラムの対応状況

北海道大学	:(教員、施設等の対応状況)
	○教員数は満たされており、実習室・施設は完備され現状で概ね対応可能。 (各科目の実施に当たっての設備等での課題など) (各科目の実施に当たっての設備等での課題など) (各科目の実施に当たっての設備等での課題など) (各科目の実施に当たっての設備等での課題など) (各科目の実施に当たっての設備等での課題など) (各科目の実施に当たっての設備等での課題など) (各科目の実施に当たっての設備等での課題など) (各科目の実施に当たっての設備等するの割検には十分に対応していない(安全キャビネットを設置予定)。 (の病理組織学実習、病理寄生虫病学実習に必要な光学顕微鏡について、約半数以上は更新が必要。共同教育課程のコア・カリキュラム 実施に向けて、より効率的な実習形態を確立するために、実習標本画像管理・配信システムと光学顕微鏡の更新を計画中。 (日本学実習の実習室には化学物質を分析のための機器(分光吸光光度計、遠心機、精密量り、原子吸光光度計)は整っているが、老 おれが激しく更新を計画中。 (日本が激しく更新を計画中。 (日本が激しく理解を行うために、多くのスタッフ(教員とTA)と実習設備が必要。教員増と実習設備の導入を計画中。 適切な実習を行うために、多くのスタッフ(教員とTA)と実習設備が必要。教員増と実習設備の導入を計画中。 (その他)
	習室しか設置されていない。温度が上がりすぎる他の実習室にもエアコンを導入する予定である。 〇共同獣医学課程のカリキュラムは,基礎系の実習が前倒しで実施される関係上,実習室の使用が一時期に集中し,不便が生じてい る。実習室数に限界があり、対応できない。
52 帯広畜産大学	〇平成23年度施設整備費補助金(補正3号)において, 食品加工実習棟が整備され, コア・カリキュラムの公衆衛生学実習, 及び食品衛生学実習への対応が可能となった。
岩手 大学	Oスタッフ数、設備等については国際的な獣医学教育の水準からは未だ遠い。 O実習科目の実施については、実習機器等の整備は進んでいるが、実習室等のスペースが十分でなく、先端的機器を用いる実習を効果 的に行う上で困難を感じる。 OP2 レベルの封じ込めの対応は可能。それ以上のレベルの封じ込めができる実習室、実験室が整備されておらず、感染症学に関連する 実習を行う上で整備の必要を感じている。
東京大学	〇スタッフは専任教員の人員が絶対的に不足している。兼担及び兼任教員の力を借りて何とか教育の質を保っているのが現状である。 〇施設・設備等も十分であるとはいえない。絶対数も不十分であり、施設、設備の老朽化も進んでいる。
東京農工大学	OBSL2レベルの実習が可能である。しかし、観察用の顕微鏡は古く、細菌などの観察には支障を来している。実習で着用する白衣は学 生が持ち帰り、洗濯などを行っているので、実習用白衣を置いておき、実習前に着替える前室の整備が必要である。

他十四世	〇人野井温咸沙庁ヴェ翌 コアカニ (小衆衛牛ヴェ翌ニ・間) ア
⊦ ≺ 	ンスピススので来ばすべき、コインフィコストローンスのファンスをはいます。 - 日本脳炎、ブルセラ症、猫ひっかき病、パスツレラ症、結核、エキノコックス症、クリプトスポリジウム症の診断技術を専門的に教育できる - スタッコが左右したい、成染症の診断については、其末的た内容のみを護蓋及ずた教育する等で
	- ペンノバ・TTエンない。必来並らが買いていている、金本品がおわせながを開報が入てお目する」であ ・動物用弱毒生ワクチン株(34F2株)を用いた炭疽の実習を実施したいが、学内規則上の制約により実施できない(BSL3実験室での取扱 いが必要)。学内規則の緩和を協議中。
	〇微生物学実習IおよびII、感染症学実習(微生物学・感染症学実習)、コアカリ「微生物学実習」に関して ・3単位分(新カリキュラムでは2単位分)を実質上1人の教員で担当しているが、1人の教員で実施するには負担が非常に大きい。 ・現行の実習室は 40年ほど前に設置された。現行の実習損権(学生教・設置機器)を老えると日堂の体用にも暗をきたす、現在の環境
	は安全性の点からも問題。実習室の改修に関しては、大学・国に要望を提出準備中。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	ルス(ニューカッスル病ウイルスワクチン株)分離があるが、現行の設備(応用生物科学部獣医学課程 動物実験施設)は、築40年経過しており、空調の故障・漏電の恐れなど老朽化が著しく、飼育衛生の点からだけでなく飼育従事教員・学生の安全性の点からも問題。当該施設の抜本的改修について大学および国への要望を準備中だが、実施項目の中止を検討中。
	〇病理学実習に関して 各種動物の解剖術式習得にあたり, 学内で焼却炉が使用できず, 遺体処理を外注すると膨大な費用がかかるため牛, 馬などの大動物の 病理解剖への対応が困難。
鳥取大学	〇微生物実習室には前室がなく、実習室が狭い。顕微鏡台数が十分ではない。学内の予算要求を予定している。 〇公衆衛生学の対象分野は近年、広範囲・多様化(人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生など)しているため、2名の教員では対応が困
24	舞。ダイスとの複数のカゴのチョンチョン・に置っていているのが、アートのアック・アン・のののカーののである。 〇現在、糞便検査及び小動物の解剖を含めた寄生虫実習に適した実習室が無い。このため、組織実習室及び微生物実習室を使用して 実習を行っている。実習は教員1名と大学院生1名で担当しているが、人員が不足。
山口大学	〇教育スタッフは、必要最低限の人員確保に留まり、教育負担が重く個人にかかっている。学科の運営や研究推進の観点から、全般的 に 人員の博物が望ましい。
	にスランコンスニュアので、。 〇教員のオフィスと研究スペースの確保が必要だが、現有の共同獣医学部関連スペースは狭小。 〇実習施設・設備は、必要最低限の教育環境は整っているが、設備の老朽化や狭小さが、今後の参加型実習等を効率よく実施していく 上で課題。
垂 甲 电 十 学	
トくほうさ	○勤が開エナガゴで利成で投資ともで配高。毎日ナダの境場用エナをキリこうの担当の投資が下た。打井到時間にあるがある状況で、 ○動物衛生学実習、獣医公衆衛生学実習 I・Iにおいて、病原微生物を扱うBSL2の設備および迅速遺伝子診断に関わる基礎的教育設備が必要であるが、現状では設置されていないので実習として扱える病原体には制限がある。さらに環境毒性物質を取り扱う実習室及び設備も所有していない。また感染実習等が実施可能な動物実習施設が不足しているため、継続して教育実習棟の設置を要求している。 学内附属施設:動物衛生学実習、獣医公衆衛生学実習 I・Iにおいて、産業動物に発生する疾病の微生物学的及び生化学的検査・診断について教育することを目的とした施設が必要。産業動物疾病臨床検査センターあるいは教育実習棟を要求中。

缸	酪農学園大学	〇感染・病理分野では、概ね対応可能。一方、衛生・環境分野では実践的な実習を展開するにあたり教員が3人不足。学群として大学に 要望して行く方向にある。生産動物の疾病予防に関する実習に際しては、大学附属農場や他学科で管理するコンピュータ室を利用。
TT	北里大学	〇応用系のコアカリキュラムの実施に向けた実習環境は、現時点では、全ての面で不足。 〇スタッフについては、1研究室3名の専任教員体制が基準となるように考えているが、自助努力にも限界がある。 〇獣医学科の実習室も手狭な状況となっており、平成26年竣工を目指して、獣医学科新棟の建設を計画中。講義室・実習室について現 在の1.5倍の面積となるように努力している。しかし、施設・整備については支援が望まれる。
l m	日本獣医生命	 ○野生動物学教室は2名体制(現在、教授および助教)であり、おおむねコア・カリキュラムの実施に問題はない。しかし、本学の立地条件 (人口密集地、校地が狭い等)から、野生動物の飼育等が困難であり、実習施設を学外に求めなければならない。2008年に本学と群馬点が野生動物対策に関わる包括連携協定を締結し、両者が協力をして現地での学生実習を試行しているところである。2012年度には、群馬県農林大学校内に共同研究施設を設置する予定で、ここを拠点とした実習を計画中である。 ○その他の教育科目については、現状でおおむね問題はないが、コア・カリキュラム対応新カリキュラムの実行に向けて、公衆衛生・疫学分野の人員の補充を予定している。 ○施設・設備については特段の問題点はないと考える。
<u>26</u>	日 大 小	〇コア・カリキュラムの実習科目は、動物衛生学、公衆衛生学、食品衛生学、毒性学から構成されているが、本学の応用系の専任教員は10名であり、それぞれの専門領域から判断して、各実習科目を担当するには十分であるとは言いがたい。コア・カリキュラムに含まれる公衆衛生学実習、食品衛生学実習は、現在の2名の専任教員のみが担当しており、早急な専任教員の補充が必要。 の基礎・病態・応用獣医学における実習では、現在3つの実習室を1年次~6年次の全実習科目が共有して使用している状態である。特に、感染性病原体を使用する実習科目(微生物学、寄生虫病学、動物衛生学、公衆衛生学、食品衛生学など)に関しては、バイオハザード防止の観点から、早急に独立した実習室および適正数の安全キャビネットなどの専用防護設備を設け、学生の安全確保と病原体の漏出防止に努める必要があると思われる。 出防止に努める必要があると思われる。 ○広範な領域にわたる獣医学教育に対応するため、獣医学部として独自の組織に再編し、社会のニーズに柔軟に応えるべく研究室の枠を越えた教育単位に再編成し、各教育単位間の連携もより密にし、コア・カリキュラムに対応可能な均整の取れた獣医学教育を行う予定。
ഥ	本 本 本	Oコア・カリキュラムでは,動物衛生学実習,公衆衛生学実習の内容が広範囲にわたっており,現在の実習を担当しているスタッフ,施設・設備では対応できない。 設・設備では対応できない。 Oスタッフについては,各項目の実習に対応可能な教員に協力を要請し,施設・設備については,年次計画でそろえていく必要があるが, まだ具体的な対応策は,決まっていない。

大学間連携の状況

北海道大学	●コア科目における対応 共同教育課程の取組
	 1. 平成24年度から北大・帯畜大共同獣医学課程を実施する。学生移動・教員移動遠隔授業を行うとともに、自学自習支援体制を整え教育体制を構築する。帯畜大提供科目(必修36単位)、北大提供科目(必修○○単位) 2. ほとんどの基礎系科目は帯畜大との教員相互乗り入れにより実施し、臨床/公衆衛生系の実習では学生の相互乗り入れにより実践的学習強化を図る。 ●アドンスト科目における対応 1. 中ドバンスト科目における対応 1. 中ドバシスト科目における対応
; 十 4 七 世	開始でいる 25年 では、25年 できまれる。
帯広 番座 入子	2)学生は、5年次から北大、帯番大の各研究室(あるいは各教員)に所属し、アドバンスト科目を履修する。この際、研究室所属を含めた学生の相互移動を可とし、双方 の教員が連携して指導にあたる。 2. 道内3大学(北大・帯畜大・酪農大)間連携 1)北大・帯畜大共同獣医学課程を核に、酪農学園大学獣医学部や地域NOSAI等の教育資源と連携した獣医学教育コンソーシアム体制を構築する。実践的実習を強化し 1)北大・帯畜大共同獣医学課程を核に、酪農学園大学獣医学部や地域NOSAI等の教育資源と連携した獣医学教育コンソーシアム体制を構築する。実践的実習を強化し
岩手大学	・コア部分は岩手大学(22科目41単位)、東京農工大学(23 科目41単位)の教員がほぼ半数を相互に担当。 ・合同授業、遠隔講義システム、ローテーションによる参加型臨床実習(岩手大学担当: 産業動物臨床実習、東京農工大学担当: 小動物臨床実習)等による教育体制。 なお、応用系教育については、岩手大学では動物医学食品安全教育研究センターを中心に、農場から食卓まで安全な畜産物を供給できる獣医学教育を中心に行い、東 京農工大学では、国際家畜感染症防疫研究教育センターを中心に国際感覚を身につけた家畜感染症に関するエキスパート養成を目指した教育を行う。
東京農工大学 27	・また、これら以外の通常科目(63単位および専修科目14単位)は、同一シラバスに基づき、各々の大学で個別に開講する。 ・卒業研究は、専修科目とし、共同獣医学科を形成する東京農工大学と、若干名の配属学生を交換配置する予定である。
東京大学	H23年度より、宮崎大学農学部獣医学科と獣医公衆衛生学、獣医疫学、産業動物臨床等の教育科目について教育連携を実施した。教育連携の手法としては、遠隔講義シ ステムを用いた方法、ビデオ収録した講義放映、ならびに教員派遣による実習や講義、により行った(宮崎大学の記述を併せて参照のこと)。
岐阜大学	・獣医学・動物医科学、環境保全学及び社会科学を融合して新しい獣医・動物科学系教育を構築し、社会の安全・安心に貢献する高度社会人を養成することを目的として、 鳥取大学、岐阜大学、京都産業大学が連携して文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」における「獣医・動物医科学系教育コンソーシアムに よる社会の安全・安心に貢献する人材の育成」を行うプログラムを平成21年度より3年間実施したところであり、教育連携は少なくとも今後10年間は継続。 ・本プログラムでは、獣医学教育のコアとなる4分等(基礎、病態、応用、臨床)に加えて、それらのアドバンス的項目についても、各大学の強みを汚かし、相互に補宗して教
鳥取大学	育を行う。例えば、岐阜大学からは動物の内臓機能、野生動物医学、狂犬病、クラミジア感染症に関連する授業を、鳥取大学からは中枢・末梢神経機能、鳥類疾病学、鳥インフルエンザ、画像診断学に関連する授業を、遠隔講義システムや学生の大学間移動により実施している。京都産業大学からは獣医師の職業倫理や関連法規などを法学教育の観点からアドバンス教育として授業が提供されている。 学教育の観点からアドバンス教育として授業が提供されている。 ・平成25年4月から「岐阜大学応用生物科学部・鳥取大学農学部共同獣医学科」を設置し、国際的に通用する獣医師の養成を目指す。遠隔講義システムを活用したリアルタイムの双方向性メディア授業を行うとともに、学生と教員が両大学のキャンパスを行き来し、両大学の教育資源をフルに活用した教育を行う。

山口大学 鹿児島大学	共同獣医学部は、鹿児島大学と山口大学の学生が、同じ教育科目を同じシラバスと同じ時間割に従って履修。講義と一部の実習は、遠隔授業双方向性システムを用いて 授業を実施。両大学とも5講義室に設置するため、5学年同時に遠隔授業の実施が可能。また、教員や学生が両大学を移動して受講する講義・実習を実施。 /
	(コア・カリチュラム) ・斉一教育科目は、両大学から約50単位ずつの授業科目を遠隔授業双方向性システムにより配信。講義形式だけでなく実習も含まれる(形態学実習システム(バーチャル スライド、書画装置)や生体機能実習システムを組み合わせた基礎獣医学系及び応用獣医学系実習、移動式講義転送装置を組み合わせた臨床獣医学系実習等)。 - 粉昌我勳「Fス海業(11科目で、学生我勳に上ス海業に講業と実習がネカダカ1科目(時間的過年の抑制を図る)
	・教員や到によっな来は、「ヤイトローヒ、ナエや到によっな米」は開我と天目が、イルーヒ、イル・「ヤートロトロトロクスタートがで図っク。 ・1年次夏季に斉一教育科目の導入科目として、学生移動による両大学での宿泊型の集中講義形式である「獣医学概論」を開講し、共同獣医学部の特長である学生相互 の交流を実施。また応用獣医学系科目(モデル・コア・カリキュラムでは病態分野に分類)の「動物感染症学総合実習(山口大学にて開講)」及び臨床獣医系科目(モデル・ コア・カリキュラムでは臨床分野に分類)の「産業動物診断治療学実習π(毎月島大学にて開講)」を学年移動にて各大党の施設を利用」て履修。
宮崎大学	1. 東京大学との連携 平成23年度から連携教育を実施している。モデル・コア・カリキュラムおよびアドバンス科目の一部について、宮崎大学と東京大学双方向で合計10回の講義・実習を試行
	した。
	①モデル・コア・カリキュラム(導入教育・基礎獣医学教育分野)講義2コマ、②モデル・コア・カリキュラム(応用獣医学教育分野) 実習1コマ、講義2コマ、③モデル・コア・カ リキュラム(臨床獣医学教育分野) 実習1コマ
	(2)東京大学から宮崎大学への提供 ①モデル・コア・カリキュラム(導入教育・基礎獣医学教育分野) 講義2コマ、②モデル・コア・カリキュラム(応用獣医学教育分野) 講義2コマ、③モデル・コア・カリキュラム (臨床獣医学教育分野) 講義1コマ、④アドバンス科目 産業動物に関する参加型臨床実習1科目
28	2. 大阪府立大学との連携 平成24年度には、モデル・コア・カリキュラム科目の到達目標を整理し、相互補完的に教育連携を実施する予定である。
	3. 東海大学、南九州大学との連携 東海大学と南九州大学と連携して開発した科目群(適正家畜生産規範学、適正家畜生産規範学実習、実践適正家畜生産規範学)を平成24年度より開講。農場や牧場で普 及が見込まれている適正農業規範(GAP)の概念の理解、畜産物の生産現場における衛生管理から流通、消費までを概観的に見渡すことができる能力を育成。
大阪府立大学	鳥取大学を代表校とし、岐阜大学及び京都産業大学が連携して、社会科学系分野を加えた3大学連携の獣医・動物医科学系コンソーシアムを構築し、獣医学、環境保全学 及び社会科学の融合をはかり、社会の安全・安心に貢献しうる新しい教育体系の取り組みに、遠隔講義システムを利用して、一部参画している。
酪農学園大学	特になし
北里大学	特になし
日本獣医生命	特になし
日本大学	学生の便益の観点から、連携対象は領域を補完でき、距離に配慮して、複数の関東圏内の大学間連携が現実的であると判断し、連携を検討中である。 具体例として、私立獣医科大学協会に設置された産業動物臨床教育連携WGIこおいて、関東地区の3大学による連携作業を開始している。 本学科は長年の実績がある米国ワシントン州立大学夏期臨床実習のような単位互換型教育の充実のため、海外の大学との連携強化を検討している。
麻布大学	特になし

【3】参加型臨床実習の実施に向けたガイドライン の策定状況

学生の参加型実習に向けたガイドラインの策定に関して

(【各大学のガイドライン策定状況】→策定済みの場合:○ 案を策定:△ 検討中:×)

侵襲性のレベルと学生の参加 侵襲性のレベルと学生の参加 初の長襲性のレベルが市程度までもれば指導獣医師の指導・監 協のもとに学生に診療行為を実施させる。侵襲性のレベルが高い、在籍U獣医師免許を有 る。 (共用試験実施までの学生の事前の評価方法) (共用試験実施までの学生が診療行為を行うにあたっては、事前 に実習において獣医学生が診療行為を行うにあたっては、事前 に実置において獣医学生が診療行為を行うにあたっては、事前 に実置において獣医学生が診療行為を行うにあたっては、事前 にまたの技術を修得させておく必要があり、臨床 実習に入る前の段階で、獣医学生の知識・技能が到達すべき水準 に達しているかどうかについて判断する。到達すべき水準に達して いると評価された獣医学生に対しては、このガイドラインの趣旨を 理解させ、臨床実習に参加させる。	新学士である。 前い主への周知方法 獣医学生の臨床実習にあたっては、あらかじめ、所有者に対して、実習の必要性、実習内 容などについて十分かつ丁寧 な説明を行い、獣医学生によ る診療行為について、所有者 が納得した上で、同意を得るに	たが必要である。 所有者は、上記同意を拒否することができること、既に同意 した内容についていつでも撤 回できることなど、所有者が診療上の不利益な扱いを受けないようにする。 北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院では、上記	の内容を受付に掲示および ホームページに掲載し必要に 応じて口頭で説明を行うことで 同意を得る。 なお、獣医学生に対しては、事 前に個人情報に関する関係法 令を教示し、臨床実習を通して 知り得た所有者等の情報につ いては、他者に漏らすことがな いように十分に留意する。
侵襲性のレベルと学生の参加 侵襲性のレベルと学生の参加 初の長襲性のレベルが市程度までもれば指導獣医師の指導・監 協のもとに学生に診療行為を実施させる。侵襲性のレベルが高い、在籍U獣医師免許を有 る。 (共用試験実施までの学生の事前の評価方法) (共用試験実施までの学生が診療行為を行うにあたっては、事前 に実習において獣医学生が診療行為を行うにあたっては、事前 に実置において獣医学生が診療行為を行うにあたっては、事前 に実置において獣医学生が診療行為を行うにあたっては、事前 にまたの技術を修得させておく必要があり、臨床 実習に入る前の段階で、獣医学生の知識・技能が到達すべき水準 に達しているかどうかについて判断する。到達すべき水準に達して いると評価された獣医学生に対しては、このガイドラインの趣旨を 理解させ、臨床実習に参加させる。	投業	単位 伴侶動物獣医療実習(2), 産業動物獣医療実習(2)、アドバ ンスト科目の中で実施 ンスト科目の中で実施	
	指導教員の要件 臨床系教員, 大学院に 在籍し獣医師免許を有 する大学院生, あるいは 臨床経験が3年以上又 は大学の附属動物病院 で1年以上の研修を受 げた獣医師とする。		
		に表面も能みが生みでの技術で同様でしてのものもののの、臨水 実習に入る前の段階で、獣医学生の知識・技能が到達すべき水準 に達しているかどうかについて判断する。到達すべき水準に達して 北 いると評価された獣医学生に対しては、このガイドラインの趣旨を	0

飼い主への周知方法	, MILL		_		な説明を行い、獣医学生によ	る診療行為について、所有者	が納得した上で、同意を得るこ	とが必要であるため、小動物	診療においては、上記の内容		_		_		_				らないこと、既に同意した内容	「についていつでも撤回できるに	と、プライバシーが保護される	ことなど、所有者が診療上の	不利益な扱いを受けないよう	に配慮する。	産業動物診療においても、前	述する産業動物の指導教員	が所有者に対して実習の必要	性、実習内容などについて説	明を行い、獣医学生による診	療行為について、所有者が納	得した上で、同意を得る。上記	の内容を受付に掲示すると共	にホームページにも掲載。
授業	伴侶動物獣医療実習:附属動物病院において連続する7また	は8診療日を1クールとし、内科系および外科系診療にそれ	ぞれ1クールずつ合計2クール参加。(2クール連続して参加	する必要はなし。)診療担当教員、研修獣医師あるいは	ティーチングアシスタントとのディスカッションを中心に、問診	方法、疾病罹患動物の扱い方、各種検査法の実際(身体検	査、臨床病理学的検査、画像診断検査など)、鑑別診断、各	種疾病の治療法および病態管理、入院動物の管理、など。	産業動物獣医療実習:本実習までに修了している各臨床科	目実習で習得した知識および技術を相互的に連携させて臨	床診断を行う能力、さらに実践的な産業動物臨床技術を身	つけるために、農場や臨床現場の実際の症例について、診	察、臨床検査、予後診断、予防獣医療などを自ら繰り返し行	いながら臨床獣医療を総合的に習得する。実際の病畜に対	し自らが考え、順序立てて診察、臨床検査を行い、病態を把	握し考察する。診断した病畜の病理解剖を行い、その病態を	確認し、考察を加えて症例報告を行う。また、農家対応を通	て獣医師の社会的役割や、疾病の予防と対策の重要性につ	いての理解を深める。														
	小動物:指導教員の要	件は、臨床集	て獣医学生及び飼育動	物の安全の確保を図り、	獣医学生による診療行			ができる能力を有するこ	とであり、帯広畜産大学	教以上の	よ臨床経	年以上の獣医師と		1物:小動物と同		ıb		•		付与された獣医師とす	9°												
侵襲性のレベルと学生の参加	診療行為によって予想される飼育動物への侵襲性の程度を目安	(別紙1)としつつ、教育的観点を考慮した上で、一定の条件下で、3	つの大準に区分した。ように、この大準に織みて、臨床実習におい	て実際に実施する可能性のある診療行為を分類し、目安として別	紙2に例示した。ただし、個々に掲げた診療行為は、全てを網羅し	たものではなく、その技術と習得は臨床実習の必須項目ではな	い。また、別紙1及び別紙2のガイドラインについては、現時点では	案であり、まだ確定はしていない。	<水準1>指導教員の指導・監督の下に実施が許容されるもの			ıJIII	導教員1人がつき、必要に応じて技術介助を行う)の下で、獣医学	生が実施できる。		■ 予測される飼育動物への侵襲性が相対的に中程度の診療行為に		_	卝	行為を中止することを指示する)の下で、獣医学生が実施できる。	△ <水準3>原則として指導教員の実施の見学にとどめるもの	予想される飼育動物への侵襲性が相対的に高い診療行為につい	ては、飼育動物の安全を確保することは困難であることから、原則	として獣医学生は実施できない。		【共用試験実施までの事前の学生の評価方法】	共用試験実施前に、臨床実習として獣医学生が診療行為を行うに	あたっては、事前に実施可能な水準までの技術を修得させておく	必要があり、参加型臨床実習に入る前の段階で、獣医学生の知	識・技能が到達すべき水準に達しているかどうかについて帯広畜	産大学動物医療センター所属教員が判断する。到達すべき水準に	達していると評価された獣医学生に対しては、このガイドラインの	趣旨を理解させ、臨床実習に参加させる。

長型性のレベルと学生の参加	飼い主への周知方法		
侵襲性のレベルと学生の参加 水準1から3までを設け、個々の実習項目について定めている。 が準1から3までを設け、個々の実習項目について定めている。 原則として、「獣医学教育における獣医学生の臨床実習の条件整備に関する報告書(平成22年6月30日 獣医事審議会)」に記載されている例示(水準1、2及び3)に準拠する。	授業 ・総合参加型臨床実習として実施する授業科目名 「総合臨床実習」5単位 は〇大動物臨床実習・応用編(1単位) 〇総合参加型臨床実習V(1単位)	・授業で行う内容の簡単な概要(どの程度の診療行為を学生に行わせるのか) 学生は院内実習(伴侶動物内科と伴侶動物外科)とフィールド実習(産業動物内科学。外科学・臨床繁殖学・生産獣医療プロファイルテスト)に分かれて実習に参加。 実習の対象となるのは本学動物病院に来院する症例(伴侶動物)と畜産農家と小岩井農場の飼育家畜(産業動物)であり、別に定めた水準に基づいて身体所見の把握や、その他の獣医療行為に参加する(産業動物では、採血・採尿・直腸検査など。伴侶動物は状況に合わせて指導教員の判断で水準に従った行為を実施)。いずれの科目においても教員の監督・指導下で、患畜の確保と保定、真告の聴取、一般状態観察のほか、採血、乳汁、尿など臨床病理検査材料の採取、超音波診断装置や心電心音測定装置を用いた検査、筋肉内・皮下注射などの行為を行わせる。	
侵襲性のレベルと学生の参加 水準1から3までを設け、個々の実習項目について定めている。 が準1から3までを設け、個々の実習項目について定めている。 原則として、「獣医学教育における獣医学生の臨床実習の条件整備に関する報告書(平成22年6月30日 獣医事審議会)」に記載されている例示(水準1、2及び3)に準拠する。	指導教員の要件指導教員は獣医学科の指導教員は獣医学科の教員おび、学外の講節を当てる場合には、岩夫・岩大学・岩大学・岩大学・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・岩田・		小動物:本学共同獣医学科の教員で、助教以上の職にある者大動物:本学の非常勤講師及び本学が定める非常勤課師及び本学が定める非常勤請請の資格を満たた者
	・習項目について定めている。		原則として、「獣医学教育における獣医学生の臨床実習の条件整備に関する報告書(平成22年6月30日 獣医事審議会)」に記載されている例示(水準1、2及び3)に準拠する。

飼い主への周知方法	原則として、学生の診療への参加についてはその目的に	۲,	においても同様の内容を記載	し、サインをも心シンステムをと	る。また学生が所有者(オー	6	ず教員が同伴し、説明と許可しな。	全体のよう9 る。																				
指導教員の要件 授業	原則として参加型臨床 - 実習の指導教旨は 実	次に また 学芸 がの といる かんしょ かんしょ かんしょ かん	センターにおいて診療活	動を行っている臨床系	教員とするが、上記レベ	ル2の実習内容につい ボーニン	ては, すぐに獣 <u>医師免 ***********************************</u>	ttがたり、晋そ兵災「十」 ご下6年参所 6 巻画	炎土ジジップ で、投資 が監視・指導が可能と判	断した研修医を含むも	のとする。																	
襲性のレベルと学生の参加	診療行為, 動物の安全性が担保されていれば、獣医学生を実際 の診癖行為に参加させることが望ましてしか、 現状の臨床数員	カルボニ (1) がにて (2) でんだい がればない 数や社会的理解等を考慮すると, 教員以外の獣医師免許を取得し	た研修医等の補助があっても十分な監視, 監督を行うことは困難	סיב			簸的により深く診療行為に参加し	く気光ンッの。		レベル1(農林水産省が示した水準1に相当):臨床系教員の指	わせるもの	問診(飼育動物所有者との対話) 実際の症例に対する身体検査	E, 触診) 結果からの問題点抽出, 臨床病理学的	検査, 血液化学検査, 尿検査, 糞便検査, 骨髄吸	らの問題点抽出,超音波検査(実施),CTあるいは	MKI検査所見の説明、 距例の鑑別診断フレゼントーション、 外枠	条, 麻酔モニター補助など	レベル2(水準2に相当):獣医師免許を持った研修医の指導,監 1864:(ごよ・1744):	るもの	動物看護処置(保定,入院中尿シート交換),身体検査(聴診,体 調測で「粧≫」地経営的格本)、X網程影、中間水、のが布れば	自逆元, 哲愛, 年哲子艺依道), 人核棲於, 治例が2004年間かつ. / ニッ/ ナギッニ 岩⇒). 国事 € 4 6 居 中中 B	に行うによるには、およりがの間を米回記のフベルコポープのフベルコポープのシングの影響行動	【共用試験実施までの学生の事前の評価方法】	参加型臨床美智に参加する獣医学生の評価(との程度参加させ) アロいか)は、中田誤略などの銘様体の詳略なの評価は難しいと	4.丘弘影な0.2元紫を2.55紫で2.計画は揺って、 2.4を、然1世間 4.1年に行われて其類 1.4年に行われて其類	//エクスン ク //エエーロff状入口の / クヒリドロ゙インインの知形語 // // // 実別能度 出展等を考慮 、 ないに参加型実	習の前半で実際の診療行為についての心構えについて再度教育	
侵襲性のレベル	診療行為,動物(の診癖行為に参	数や社会的理解	た研修医等の補	であり、診療行為	状況下でも、安全	定し、積極的な参	表してもらうことによって疑似体 エ+・・・・・・・ エ 1 1 2	「つもちンやン」「類、		フベラ1(農林大	導・監視下で行わせるもの						手術時の器械係	7 アベル2(水準21 1900年1971年1971年1971年1971年1971年1971年1971年	気のもんけわせるもの	動物看護処置(作詞) 過過空 無数	1 三 5 一 当 3 4 4 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	アングラング半り上出のフステーボ	【共用試験実施3	参加型語不米組入中に入ります	アスト・グ・ノマ・火 歩って カイ・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・	の という のの にない 大学 実習 等に だい	習の前半で実際	を行うこととする。

飼い主への周知方法																				
授業	・総合参加型臨床実習として実施する授業科目名:総合臨 床実習	・単位数:6単位(5年生前期、必須科目)・将業で行う内容の簡単な棚乗	●技術では、プラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	れる動物患者を対象にして、病気の診断の進め万、検査手技、治療の方針、さらに飼主との対応について実践的な経験	を積み、獣医師として必要な知識、経験を学ぶと共に検討会な行い、 中側について30/38節1 報生 い チェレム 2 終験を	を115:、225 こって、このでもので、数日としてもとのの性談を 積む。また、基礎および応用獣医学分野についても、ひとつ	の実習テーマを選び、形態、機能、病因の面から総合的に検	討する。	●授業内容:	1 動物病院において、少人数のグループで各診療科にて教	員の指導のもとに予診から治療までの道筋を学ぶ。担当した	1症例についてまとめ、検討会で発表する。	2. 大動物に関しては、動物病院の往診に参加するとともに学	外にて大動物獣医師(岐阜NOSAI)のもとで研修する。	3. 非常勤講師(臨床獣医学系客員教授、准教授)から特殊な	診療について学ぶ。	4. 基礎および応用獣医学分野から出されるひとつのテーマ	について総合的に学習する。	●学生に行わせる診療行為:ガイドラインを参照	
指導教員の要件	通知(上記の通知に準じて、助教または臨床経	験5年以上を目安としている)	ò																	
侵襲性のレベルと学生の参加	・侵襲性のレベルと学生の参加:別紙参照(平成22年6月30日付け、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長通知、22消安第					+1	三	# 4	✓											

飼い主への周知方法	影然受付時に参加空臨床美習に関して飼主・所有者に文書及び口頭にて説明し、同意の得られたもののみを対象動物とする。	
授業	・総合参加空臨床美首として実施する投業科目名: M科字 実習11、臨床繁殖学実習 2単位 ・授業で行う内容の簡単な概要 動物への侵襲性が相対的に中程度以下の診察、検査、治療 行為を指導教員の監督下において実施させる。学生は高侵 襲性の行為を実施せず、指導教員の行為の見学に止める (別紙1、2及び3参照)。	
	市場教員の要件は、語 所書教員の要件は、語 所表型において戦阪中 による戦阪衛行動に対 による戦阪療行動に対 による戦阪療行動に対 による戦阪療行動に対 は、大村職・監視ができる は、本学機の本中をはて たは、本学になる。 は、本学に関係を がに臨床を をのがいないないないない。 は、本学になる。 は、本学になる。 1)小動物(住的動物): 本学戦阪学科教員ない がに臨床教験または臨床准 をいたの臨床維教ではない がに臨床教験または 本学戦阪学科教員ない がに臨床教験はない がに臨床教験はない がに臨床教験はない がに臨床教験はない がに臨床教験はない がに臨床教験はない がに臨床教験をする。 をいている。 をいている。 をいている。 をいている。 をは、本学戦 医学科教員ない がにいる。 をは、本学戦 医学科教員ない がに臨床教験をする。 をは、本学戦 医学科教員ない がに臨床、本学戦 医学科教員ない。 のいていている。 をは、または、またがに、このいる。 をは、または、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、または、またが、に、このいる。 をは、または、またが、に、このいる。 をは、または、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、またが、に、このいる。 をは、またが、といる、といる。 をは、またが、といる、といる。 をは、またが、といる、といる、といる、といる、といる、といる、といる、といる、といる、といる	

<u>飼い主への周知方法</u> 動物診療施設が教育機関で あることから、臨床実習の一 環として学生が指導教員、非 常勤獣医師、または農業共済 組合等の獣医師の監督・監視 下において獣医療行為を行う 可能性があることを院内待合 室等に掲示している。また、農 業共済組合員等にも告知し、 動物所有者の同意を得ること にしている。同意の場合には 初診時の診療申込票に署名を してもらうことにしている。	附属動物病院に学生への教育病院であることを明記し、指育病院であることを明記し、指導教員が飼主に学生の関与を説明する(不承諾の場合に学生は関与できない)。
接業・総合参加型臨床実習として実施する授業科目名 臨床実習 2単位 0・授業で行う内容の簡単な概要 ・ 接業で行う内容の簡単な概要 ・ 実際の獣医臨床の場に参加し、患者を前にして、問診、診察、問題点の整理ならびに、検査の選択、診断、治療、予防活動といった一連の診療活動を実際に体験する。特にガイドライン水準1を中心として幅広く実習を行う。	・授業で行う内容の簡単な概要 伴侶動物総合臨床実習:附属動物病院における教員の診療 に参加させる。 産業動物診断治療学実習 I:馬、牛、豚を使用した模擬診療 を行う。 産業動物総合臨床実習:農学部附属牧場、農業共済組合 (NOASI)において、実際の診療に参加させる。 ※いずれも「診療行為の水準分類」による診療行為を学生に 実施させる。 ※いずれの実習でも実施前のオリエンテーション、実施後の 診療及び疾病に対するレポート作成やゼミを実施する。 伴侶動物総合臨床実習(2単位) 産業動物総合臨床実習(1単位) 産業動物総合臨床実習(1単位)
指導教員の 臨床実習を 計算の を受けた を受けた では、 大学に、 大学に、 大学に 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	・指導教員に関する基準: 産業動物の参加型 臨床教育を行う非常勤 臨床教育を行う非常勤 講師について、臨床経験5年以上等の基準を 設定する予定。
侵襲性のレベルと学生の参加 学生に許容される獣医療行為の範囲は、別添(山口大学臨床実習 に係るガイドライン)のように水準1~3に定めた。水準1について は、指導教員あるいは、その指示を受けた臨床経験3年以上の非 常勤獣医師又は農業共済組合等の獣医師)の指導・監督下、水準 2については、上記で臨床経験5年以上という基準を策定した。水 準3はこれらの指導教員等の実施を見学する、という範囲にとどめ た。 【共用試験実施までの事前の学生の評価方法】 獣医学科5年次までの単位をすべて取得し、6年生へ進級した学 生を参加型臨床実習への参加要件としている。	水準1:指導教員の指導・監督の下に実施が許容されるもの。 水準2:指導教員の指導・監視の下に実施が許容されるもの。 水準3:
ヨロ长卦 〇	36 鹿児島大学 O

飼い主への周知方法	・学生の臨床実習についての 部田や書を陰内に短示する	「死光人事か死ろにあぶゅる。 よいしき しょくしん	にごに置る。エジンジに対して によ、口頭あるいは文書により	同意を得る。																												
	1. 病院臨床実習 2単位: 其雄獣 医党の知識を重整理オストレキ(- それこを鉢へ 町	母院別 女子の対戦や中部449のCCも1、人化の名称「「場」 上事教の庁値の参覧 治療法を翌年大 よいし 吊	及りて安保が延迟があれるが、仏がはと目はする。 こうには、調 庆戦医師として必要な一般社会党譲、戦医療倫理を学習す	2%	実施内容:数名の学生を1グループとして2週間、宮崎大学	農学部附属動物病院に来院する症例の診断、治療法につい	て実習を行う。実際には各担当の教員の指導・監督の下に、	問診、身体検査、各種検査および治療の補助、入院動物の	世話などについて実習する。実習終了後、担当した症例につ	いてとりまとめ、症例検討会においてスライドを使って発表。	2. 産業動物臨床実習 1単位	産業動物、特に牛,馬、豚などの臨床現場を理解し、産業動	物臨床獣医師の役割について理解させる。 畜産農家とのコ	ミュニケーション技術、診断のプロセス、適切な治療などを実	習をとおして体得させる。	到達目標:実際の畜産現場で起きる疾病の複雑さや、診療に	おけるさまざまなテクニック・知識の必要性を良く理解し、5年	後期から6年生の臨床講義等への取り組みに活かす。	実施内容:5日間の日程で、最初の2日間はNOSAI連宮崎リ	スク管理指導センターにて、NOSAI連獣医師より以下の講義	を受講。	(1)家畜の疾病と共済制度(リスク管理、ハードヘルス)	(2)乳牛の疾病(代謝性疾患、乳房炎)	(3)和牛の疾病1(子牛の疾病、親牛の繁殖障害)	(4)和牛の疾病2(肥育期の疾病、飼料給与)	(5)豚の疾病1(ウイルス性疾患、ワクチネーション)	(6)豚の疾病2(細菌性疾患、寄生虫性疾患)	<u> (元) /u>	NOSAI獣医師の診療に随行して農家を討問し、牛、馬、豚の	相診、軸診、聴診、診療補助などの実習を行う。また飼料設	計、飼養管理技術についても修得する。終了後は、総合討論	により実習成果の発表を行う。
指導教員の要件	小動物診療においては、 田巻に上の土党数	4、別纹以上の人子纹 	点。年来劉初影派に認いて共済組合戦を前等	に委託する場合は、指	導教員の資格を有する	大学教員が適切と判断	した獣医師。																									
侵襲性のレベルと学生の参加	平成22年6月に農林水産省から出された「獣医学教育における獣 医学ルの略年宇羽の冬州教催に開する報生書「の内容に甘づい	女子士の猫床夫百の米什弁舗に割りの戦ロ書」の内合に歩って、 ケー小鞋物≫成せ F1/弁業鞋物≫成にもける≫成分もかにサイ	こ、小勤物感源33名の年来勤物診療に33小多診療口癌を分にから3つの水準に区分した。水準114所有者の同意を得て、指導教員	の指導・監督(獣医学生15人程度に指導者1人がつき、必要に応	じて技術介助を行う)の下に実施が許容されるもの、水準2は所有	者の同意を得て、指導教員の指導・監視(獣医学生に必ず指導者	が同伴し、必要に応じて獣医学生の診療行為を中止することを指	示する)の下に実施が許容されるもの、水準3は原則として指導教	員の実施を見学することにとどめるもの。		【共用試験の実施までの事前の学生の評価方法】	5年生以上を想定した場合、以下の①と②の条件を満たし、かつ	到達すべき水準に達していると指導教員が判断した場合。	①専門科目のうち、4年次までの必修講義科目の80%以上を習得	すること。	②専門科目のうち、4年次までの必修実験・実習を全部習得する	رد															

指導教員の要件 授業 総合臨床 4単位 協合電 (対象については現在、検討中 内容については現在、検討中			
)要 中	飼い主への周知方法		
<u>角</u>	授業	総合臨床 4単位 内容については現在、検討中	
	要(
侵襲性のレベルと学生の参加 小動物、産業動物で個々に策定中である。 大	ŦH	小動物、	×

飼い主への周知方法			動の一環として参加型臨床実	習に関する主旨と実施の概要		4			からの依頼時、予約受付時)		医療行為が実施される旨説明	し、事前に了解を得る。	(3)外来受診時に参加型臨床	実習に関する獣医療行為が実	施される旨を説明し、同意を得	る。同意は、同意書の内容に																	
按業	現行のカリキュラム(2008-2010年度入学生および2011年度	以降入学生)では、「伴侶動物医療臨床実習」を斉一教育の	総合参加型臨床実習として開講する。また、専修教育コース	別科目として、生産動物医療学分野に所属した学生(20-25	女 段度) すたけ 化位 動物 医療学 分野 「所属」 た 学生 (25-30	1.治父/タハラニアションタのダインガーンタッカは人/ナムタータンの多くイニーナニロー・	4 体域) 6 対象に令分野の「クリーカルローナーンヨノ」およい	アドバンスコース」を総合参加型臨床実習として開講する。	また、生産動物医療学分野あるいは伴侶動物医療学分野以	外の分野に所属する学生に対しては専修教育の選択科目と	して「病院実習専修コース」を開講する。	・授業で行う内容の簡単な概要	斉一教育として開講する「伴侶動物医療臨床実習」では、学	生が実施する診療行為を「参加型臨床実習実施のための条	件(案)」を基に策定するガイドラインの伴侶動物医療分野の	獣医行為「水準1」に止める。専修教育として開講する「生産	動物医療クリニカルローテーション」、「生産動物医療アドバン	スコース」、「伴侶動物医療クリニカルローテーション」、「伴侶	動物医療アドバンスコースし、および「病院実習専修コース」で	は、「参加型臨床実習実施のための条件(案)を基に策定す	るガイドラインの生産動物医療分野および伴侶動物医療分	野の獣医行為「水準1」および「水準2」を学生に行わせる。		単位	「伴侶動物医療臨床実習(4年後期、2単位)」	「生産動物医療クリニカルローテーション(5年後期、6単位)」	「生産動物医療アドバンスコース(6年前期、5単位)」	「伴侶動物医療クリニカルローテーション(5年後期、6単位)」	動物	「病院実習専修コース(5年後期または6年前期、1単位)」			
対員の要件		学生および飼育動物の一	安全の確保を図り、学生	の獣医行為に対し適切し	たお道及7(お道(監視)	ら 日本人の 日本人目 元/ベルト・サイナー・ナー・ナー・ナー・オーナー・オーナー・オーナー・オーナー・オーナー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー		:経験5年以	医療部門で		喜教育群:8		伴侶動物医療教育群: 1		〇指導委嘱教員: (1初の	Ш	の獣医行為に対し適切		ができる能力を有する獣	医師で、大学より参幅と ・	れた教員を対象とする。	水準1に該当する獣医			る・・・・ 臨床経験3年以 │		生産動物医療教育群:	Q		伴侶動物医療教育群	内存米(画像影點的)4	人~、外枓糸4人~、麻 酔2人~
侵襲性のレベルと学生の参加	※ 案を策定済。策定は2012年度前期末(9月頃)を目指している。	策定中のガイドラインは、生産動物医療および伴侶動物医療の各	分野において、それぞれの診療形態の特徴を考慮して一部内容	の異なる項目を含むことになる予定である。	【水准1】指道粉目の指道・監督の下「宝姑女許宓」 アンスキの		・ 診察(指針、 触診、 引影、 臨影)、 間車な 無助 な にい に 影祭 一	(体温計、聴診器など)	【水準2】指導教員の指導・監視の下に実施を許容しているもの。	· 検査(生理学的検査、画像診断、検体採取、穿刺、生検、特殊検		[水準3]原則として指導教員の実施の見学にとどめているもの	- 治療(処置、投薬、外科的処置、繁殖、その他)		【共用試験実施前の学生の事前の評価方法】	・獣医学部4年終了時までに学習する所定の全科目単位を修得し	ていることを参加の条件とする。																

侵襲性のレベルと学生の参加 第4 12 12 23 4 4 4 5 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	要件		飼い主への周知方法
1を中心に	導教員は原則として	参加型臨床実習として実施する科目名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	文書で同恵を得ることを前提と
打い、子生の理解及や劉物の状況により不年2を打つ。 「臨	臨床米ザ光単に加馬9 る獣医師免許を有する	小割物病院失旨(5年次2年122分修) 大動物病院実習(5年次1単位必修)	% %
水準1: 基本的に斉一実習はこの範囲で実施する。この場合、指 教	(員、または5年以上の	小動物臨床実習•演習(6年次1単位選択)	
導教員1人の監督下で、約10人から15人の学生が指導を受けなが 臨) 臨床経験を有する本学	大動物臨床実習·演習(6年次1単位選択)	
<u> </u>	の教員であって動物病 院長が認めた獣医師で		
水準2: 基本的にこの水準の実習は臨床系研究室の卒論研究な あ	あること。		
	なお、臨床米大学院の		
	修了者については、その		
<u> </u>	年限を臨床経験年数と		
この水準の実習は、指導教員の実施の見学にとどめる。	て換算する。		
具体的な基準については、ガイドライン参照			
【共用試験実施までの事前の学生の評価方法】			
あって、実習開始時において、4年次に			
配当されている臨床糸必修科目の単位を宝て収停している者と9 ス			

飼い主への周知方法 学生の参加型臨床実習を行う 上で飼育動物の所有者の同 意は必須の要件である。この	ため主治医となりうる指導教員から実習の必要性、実施内容などについて、所有者に十分説明を行い、配着動物の所	有者の同意を文書にて得る事を要件とする。また所有者は を要件とする。また所有者は 同意した内容について撤回する事ができるものとする。さら に同意を拒否しても不利益な 診療を受ける事はない事を明	催にする。			
授業 ・臨床獣医学実習(現在この科目で病院のローテーション実習を実施している)。 ・学年を小グループに班分けし、各診療科に配属しローテー	分けて6診へ当たり都に問診、身型電路を	行おうと考えているが、全ての学生に全ての手技を経験させるのは不可能と考えている。現在検討中のカリキュラム改正によりローテーションする診療科の増数や各班の人数の削減ができれば学生一人当たりの実習時間はより長くなる。				
指導教員の要件・臨床系研究室に所属する獣医師免許を有する数目であることとする教育をあることとす	る。また、動物病院所属の非常勤講師および臨床経験5年以上の支援戦疾6年にあ	. (
	者の同意を得て、指導教員の指導・監督(獣医学生15人程度に指う導者が1人以上つき、必要に応じ技術介助を行う)の下で、獣医学生が実施できる。	〇水準2 指導教員の直接指導、監視下に実施が許容されるもの 予測される飼育動物への侵襲性が相対的に中程度の診療行為 については、適切に実施されれば飼育動物の安全の確保が可能 である事から、所有者の同意を得て、指導教員の直接指導・監視 下(獣医学生に必ず指導者が同伴し、必要に応じて獣医学生の診療行為療行為を中止する事を指示する)に、獣医学生が実施できる。	〇水準3 原則として指導獣医師の実施の見学にとどめるもの 予測される飼育動物への侵襲性が相対的に高い診療行為につ いては、飼育動物の安全を確保する事は困難である事から、原則 として獣医学生は見学にとどめる。	※ 具体の基準については、ガイドライン参照	【共用試験実施までの事前の学生の評価方法】 臨床実習において学生が診療行為を行うにあたり事前の学生評価が必要となる。これに関しては4年次までの所定の単位および臨床教育の講義ならびに実習に関する学科目の単位をすべて取得し、5年次に進級をしたものとする。全国で共用試験が構築された場合にはその時点で再検討する。	

<u> </u> - -	・飼主・所有者への周知方法 小動物臨床については、検 討中である。産業動物臨床で は、飼い主と紹介獣医師に対 して、学生の臨床実習に用い ることを説明し、了解を得た上で、実習への提供を受けている。
7要件 授業 に関する基 総合参加型臨床実習として実施する授業科目名等については、関する基 総合参加型臨床実習として実施する授業科目名等については、専任、非 は、開講年次までに完成するよう現在順次作業中である。が実習内容 講年次までに完成するよう現在順次作業中である。一種認されて 単位:4単位	小動物臨床分野:小動物臨床実習 概要:水準1の診療行為うち,項目別に次のとおり行わせる。 1. 診察:ここに示された行為の全て 2. 検査:画像診断検査の補助,分泌液・排液・鼻汁・糞便・眼 脂・耳垢等の採取,及び各診療科における非侵襲性特殊検査 ・ 治療:看護的処置の全て,皮膚消毒・包帯交換・外用薬塗布・貼付など侵襲性の低い簡易な外部処置 無難物臨床分野:産業動物臨床実習 概要:水準1の診療行為については,機会があれば全ての項間に実施させる。 また,水準2の行為については,創傷処置・胃カテーテル構えた,水準2の行為については、創傷処置・胃カテーテル挿また,水準2の行為については、創傷処置・胃カテーテル構え、静脈注射など、学生の技量を事前に評価した上で、できるだけ大勢に体験させる。
<u>指導教員の</u> ・指導教員 ・指導教団 ・指導教 ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	口体員記数ア外世端の
侵襲性のレベルと学生の参加 参加型実習実施のためのガイドラインの詳細については、開講年 次までに完成するよう現在順次作業を進めている。 ・侵襲性のレベルと学生の参加については、すでに公表されている 農林水産省のガイドライン基準に準拠するものとする予定である。	案は策定済み。 水準1レベルの行為は、指導教員1人につき、3~10人程度の学生 が実習する。全学生にレベル1に示された行為全てを実施させるこ とは困難であり、適切な機会が得られたらその都度、できるだけ全 学生に均等に体験させるようにする。 水準2の行為は、臨床系の研究室に所属する学生など訓練が十分 に行われている場合に限り、適当な機会が得られれば実施させる。 水準3の行為は実施させない。 大連3の行為は実施させない。 大井 開試験実施までの事前の学生の評価方法】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本獣医生命科学大学 ×	

【4】教育環境に関する状況

附属家畜病院の状況①(運営状況など)

(<u>単位:千円)</u>

							(<u>単位:十円)</u>
大学名	総面積	近年の改修・増築及び今後の改修・増築予定	H19	H20	H21	H22	H23
北大	2,001111	地上2階建て総床面積約3,000㎡の動物医療センターを、新たに建設(平成 25年3月に竣工予定)。又、平成24年に現動物病院を改修し、総面積2,800 ㎡獣医系総合研究棟を整備予定。	(収入) 76,318 (支出) 60,493	(収入) 134, 851 (支出) 130, 416	(支出)	(支出)	(収入) 244, 880 (支出) 140, 359
帯広	1, 762m²+452m²	動物医療センター(伴侶動物研究棟,病理解剖検査棟)を平成20年に改修・ 増築。今後、産業動物研究棟を改修予定。この他、産業動物臨床棟1,500 ㎡、産業動物飼育棟320㎡、産業動物堆肥棟200㎡、屋内パドック700㎡ (馬,牛等大動物用)、診療車車庫200㎡(大動物診療車用)、産業動物臨床 教育センター2,050㎡(教員室,高度診療(CT,MRI)室等)など整備予定	/ 主 山\	(収入) 42,179 (支出) 39,094	(支出)	(支出)	(収入) 59,000 (支出) 59,533
岩手	1, 542m2 S 46 (S59増築)	平成25年度 現動物病院改修計画 (産業動物実習施設) 実施	(支出)	(支出)	(支出)	(支出)	(収入) 73, 794 (支出) 53, 021
東大	3, 09 Im2 H3新設	現在、概算要求および大学との折衝を検討中。 ※10以上の専門診療科を有し、世界標準の二次医療および学生に対する十分な臨床ローテーションを実践することが可能な動物診療施設(約 6,000m2)を建設することが必要。	(支出)	(支出) 355, 641	(支出)	(支出)	(収入) 496, 248 (支出) 348, 574
農工大	2, 619 m ²	平成20年5月 新病院竣工、平成20年7月に農学部附属動物医療 センターに改称	(収入) 153, 170 (支出) 153, 170	(支出) 183, 471	(支出) 206, 308	(支出) 233, 527	(収入) 211, 354 (支出) 233, 992
岐阜大	2, 052m²	・リニアック棟(リニアック、MRI-CT)327.55㎡(平成22,23年度増築)、動物病院新棟911㎡(平成21年度新築)、CT室47㎡(平成16年度増築)、入院棟260㎡(平成17年度増築)、動物病院棟506㎡(平成21年度改修)	(収入) 105,819 (支出) 101,407	(収入) 121,381 (支出) 97,153	137, 161 (支出)	(支出)	(収入) 237, 873 (支出) 250, 089
鳥取大	1,099 m2	平成22年4月に増・改修 (改修後面積、既存779 m2、増築320 m2) 平成24年度に野生動物保護施設を改修予定。今後、大中動物入院棟の 改修を計画。	(支出) 35, 558	(支出) 43, 110	(支出) 43, 523	(支出) 44, 322	(収入) 70,511 (支出) 48,384
山口大	1, 136m 2	H21增改築	(収入) 155, 283 (支出) 83, 774	(収入) 161,944 (支出) 112,366	(支出)	(支出)	(収入) 181,371 (支出) 118,730

大学名	総面積	近年の改修・増築及び今後の改修・増築予定	H19	H20	H21	H22	H23
宮崎大	1, 634㎡ (含研究室)	平成22年に大動物 X 線室及び大動物診療兼手術室を改修。この他、大動物係留舎等を設置。今後、大中動物実験施設(1,125㎡)が平成25年 2月に竣工予定。	(収入) 20, 206 (支出) 14, 208	(収入) 20, 281 (支出) 14, 523	(支出)	(収入) 44, 929 (支出) 34, 956	(収入) 49, 484 (支出) 44, 465
鹿児島	医療センター 1463 m2 軽種馬センター 636 m2	平成20年度・21年度に改築(伴侶動物診療部門を中心に改修) 軽種馬診療センター (平成20年度に新築、総面積 636 m2) 堆肥舎 (平成21年度改築、総面積 33 m2)	(収入) 92, 998 (支出) 62, 794	(収入) 94, 062 (支出) 92, 362	(支出)	(収入) 95, 097 (支出) 76, 212	(収入) 97, 604 (支出) 89, 147
府立大	2486 m²	今後特に予定なし	(収入) 92,582 (支出) 70,977	(収入) 85, 091 (支出) 768, 554	(収入) 127, 110 (支出) 116, 000	(収入) 170, 295 (支出) 134, 355	(収入) 213, 575 (支出) 158, 043
酪農	8, 700㎡ H16新築		(収入) 210, 140 (支出) 312, 969	(収入) 219, 089 (支出) 312, 834	(支出)	(収入) 245, 704 (支出) 282, 637	(収入) 272, 796 (支出) 315, 107
北里	4, 733 m²	平成20年4月に小動物診療センターを新築。小動物診療センター(3,723.41㎡)、大動物診療センター(1,009.07㎡)の合計4,732.48㎡である。 大動物診療センターは、老朽化が進んでおり改築等を検討しているが、具体的な時期などは未定である。	(収入) 77, 420 (支出) 62, 097	(収入) 96, 701 (支出) 90, 607	(支出)	(収入) 114, 309 (支出) 99, 602	(収入) 121, 459 (支出) 96, 679
日大	3, 800 m²	平成18年 平成12年以前のエリア全面改装と機器更新 平成23年 103㎡増築 新しい産業動物診療施設を農場内に建設計画中	(収入) 367, 264 (支出) 276, 491	(収入) 449,633 (支出) 326,891	(支出)	(収入) 451, 691 (支出) 331, 497	(収入) 442, 197 (支出) 360, 154
日獣大			(収入) 402, 724 (支出) 243, 829	(収入) 445, 682 (支出) 324, 921	(支出)	(収入) 385, 043 (支出) 273, 845	(収入) 406, 018 (支出) 277, 379
麻布大	5, 583 m ²		(収入) 350,098 (支出) 219,271	(収入) 362, 446 (支出) 235, 639	(支出)	(収入) 376, 967 (支出) 245, 626	(収入) 381, 051 (支出) 249, 118

附属家畜病院の状況② 患畜数の推移

大学	总 名		<u>Z</u>	産業動物	勿 ※		字は牛	-の頭数	ţ					半侶動物		
	П	H19		H20		H21		H22		H23		H19	H20	H21	H22	H23
北大	学用	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)	1	(0)	59	26	39	37	33
107	患畜	177	(177)	183	(182)	187	(181)	214	(208)	258	(248)	5411	6411	7266	8712	9786
## ===	学用	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	349	85	194	823	500
帯広	患畜	2114	(1932)	1011	(905)	2043	(1826)	3025	(2860)	2192	(1946)	2868	1488	3911	4355	4194
ч т	学用	277	(275)	266	(264)	103	(102)	41	(41)	213	(213)	39	44	51	29	14
岩手	患畜	979	(939)	1014	(982)	1047	(1016)	588	(568)	1022	(985)	2591	2270	2388	2355	2541
東大	学用	16	(0)	8	(0)	1	(0)	2	(0)	2	(0)	394	470	693	462	402
未八	患畜	7	(0)	6	(0)	7	(0)	10	(0)	5	(0)	17257	19678	19488	18956	17705
農工大	学用	35	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	19	27	50	46	52
及エハ	患畜	5	(0)	2	(0)	23	(7)	6	(0)	10	(0)	6410	6634	6906	6961	7197
岐阜大	学用	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	4	(0)	0	0	4	1	2
以十八	患畜	425	(422)	289	(286)	409	(404)	290	(284)	206	(202)	6819	6552	7182	7805	7814
鳥取大	学用	3	(1)	4	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	52	53	96	58	76
がリスノく	患畜	56	(19)	58	(50)	37	(26)	43	(24)	62	(55)	2689	2447	2963	3106	2921
山口大	学用	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	228	163	173	27	52
шцх	患畜	16	(7)	13	(10)	4	(3)	13	(10)	30	(22)	9350	6633	6532	7919	7686
宮崎大	学用	1605	(1605)	1650	(1650)	2454	(2454)	640	(640)	1584	(1584)	14	18	19	35	35
	患畜	150	(146)	119	(118)	93	(92)	34	(34)	77	(75)	1494	1374	1627	1978	2192
鹿児島	学用	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(0)	8	13	28	18	27
EC JU AU	患畜	167	(128)	221	(189)	169	(126)	223	(134)	244	(156)	4860	6029	5814	5765	5367
府立大	学用	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0	0	0	0
",/	患畜	35	(0)	29	(0)	19	(0)	11	(0)	20	(0)	4059	3773	3727	4616	5139
酪農	学用	364	(357)	473	(467)	394	(388)	301	(297)	412	(410)	0	0	0	0	0
11/12	患畜	7061	(6751)	9539	(9124)	8992	(8926)	8599	(8532)	10217	(10070)	11959	10289	10831	11907	13578
北里	学用	385	(385)	92	(90)	22	(22)	3	(3)	6	(6)	76	0	5	9	11
-10-11	患畜	322	(203)	192	(83)	176	(83)	255	(200)	281	(211)	4622	4876	4641	4657	4901
日大	学用	3	(0)	0	(0)	4	(4)	10	(10)	6	(6)	12	24	18	6	42
	患畜	17	(17)	19	(16)	20	(19)	19	(18)	24	(22)	7759	9339	9332	9200	8847
日獣大	学用	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	31	48	15	10	35
	患畜	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	9247	9648	8896	8543	8744
麻布大	学用	1887	(1887)	1980	(1980)	1533	(1530)	1900	(1862)	2055	(2017)	446	738	747	668	749
814. 112.V	患畜	1278	(0)	187	(0)	6306	(0)	0	(0)	7211	(0)	14116	13107	13426	14002	12704

臨床系分野の高度診断機器・高度施設の設置状況

北海道大学	○放射線がん治療器 (1) 常電圧型放射線照射装置: 本年6月導入予定である。数年前まで動物病院で使用できる機器があったが、現在使用できなくなったため、自助努力で新規購入することとした。 (2) 高エネルギー放射線照射装置: 現在予算申請中である。動物病院新営に合わせて設置場所を確保し、平成25年3月以降に試運転を開始することを目指している。 ○小動物用CT 16チャンネル・マルチスキャンCTが稼働中である。若齢の馬、熊などの検査実績もある。 ○小動物用MRI 0.3T永久磁石型MRI装置が稼働中である。
帯広畜産大学	1. X線CT検査システムを導入(平成17年3月) 2. 大動物診療台の更新(平成23年3月) 3. 超音波診断装置の更新(平成23年8月) 4. X線透視撮影装置の導入(平成24年2月)
岩手大学	高度獣医療機器はCT装置のみ(ただし、耐用年数に達して放電が続いているので、管球の交換が必要)。
東京大学	小動物(ヒト)用CT検査装置、小動物(ヒト)用MRI検査装置
東京農工大学	本学では高度診断機器として、モバイル型CアームX線装置、マルチスライスCT装置(多断面画像診断装置)、MRI(磁気共鳴画像診断装置)、消化管・耳道内視鏡システム、各種超音波画像診断装置、小動物用人工心肺装置、超音波手術器/手術用凝固切開システム、マイクロサージェリー・眼科手術システムを保有している。
岐阜大学	附属動物病院に、伴侶動物を対象にしたリニアック型放射線がん治療器、MRI、CT、Cアーム画像診断装置を整備している。また、臨床実習棟に大動物用診療台、超音波診断装置を24年度に整備予定である。
鳥取大学	大中動物入院棟の改修は大学へ要望し、現在、改修時期を検討中である。また、平成24年度にマルチスライスCT装置を更新する予定であ
山口大学	放射線がん治療器や高度診断機器の導入を図るべく、予算措置を交渉中である。
鹿児島大学	4列 マルチスライスCT(平成20年)、MRI(永久磁石、0.4T)(平成21年)

宮崎大学	平成22年に大動物診療兼手術室と大動物X線室の改修が行われ、大動物CTシステム、大動物用回転式診察台、大動物超音波診断装置、大動物X線診断装置、大中動物用全身麻酔装置、腹腔鏡が整備された。特に、大動物CTシステムは600 kgの成牛の全身スキャンが可能であり、世界でも1台しかない特注製品である。また、腹腔鏡は牛専用としては全国でも屈指である。 2. 「大中動物実験施設」が設置されることになった。平成24年度内に竣工予定である。 3. 平成24年度には学内措置により、3テスラ超伝導MRIを設置する予定である。本MRIは大口径であるため、200 kg程度の産業動物(子牛等)への臨床研究にも応用できる。
大阪府立大学	該当なし。
酪農学園大学	本学附属動物病院には、放射線がん治療器(オルソボルテージ)、MRI検査装置、CT検査装置などの高度診断機器が設置されている。また、 附属動物病院は、牛馬の診療室やこれらの大型動物を全身麻酔下で検査治療する施設・設備・機器も完備している。さらに、獣医学類では、 複数の豚羊または犬猫を同時に全身麻酔下での検査治療を実習できる実習施設も設置されている。したがって、獣医学教育モデル・コア・カリ キュラムの臨床獣医学分野を実施するための施設および設備といったハード面は確保されていると言って良い。
北里大学	小動物関連では、放射線治療装置、CT、MRI、PET/CT、超音波診断装置、内視鏡装置、超音波乳化吸引装置など高度診断・治療装置を備えている。 大動物関連では、超音波診断装置、ポータブルX線撮影装置、手術室、馬の手術のための覚醒室と移動式手術台など、診療に必要な設備は概ね整っている。
日本獣医生命	高度診断機器としては、3テスラのMRIが導入されており、教育・研究および診断に活用されている。また、X線CTも有しているが、導入から時間が経っているため更新が求められている。高度医療機器としては、放射線がん治療器としてリニアックを導入している。
日本大学	16列CT、1.5テスラMRI、放射線治療装置などが5年前に設置されたが、今後5年を目途に更新する時期を迎える。
麻布大学	MRI診断装置、コンピュータ断層撮影装置、放射線治療用高エネルギーX線発生装置, コンピュータ断層撮影装置(放射線治療用高エネルギー発生装置とセットで使用) ※ 産業動物を対象にしたCT・MR機器の導入は, 現在検討中である新規の診療・実習教育施設建設とともに要望している。

臨床系分野(伴侶動物臨床・産業動物臨床)の学外機関との連携状況

光

[必修科目] ○大動物内科学実習(5年次、1単位) 家畜改良センター岩手牧場:実習牛の提供、農研センター:実習牛の提供 ○家畜衛生学実習(5年次、1単位) 家畜改良センター岩手牧場:実習牛の提供、盛岡中央家畜保健衛生所:業務説明と施設見学、 岩手県食肉検査所:業務説明と施設見学 台手県食肉検査所:業務説明と施設見学 NOSAI岩手:実習における非常勤講師、牛群検診補助、NOSAI盛岡:実習における非常勤講師、往診同行と繁殖検診補助 小岩井農牧(株):実習における非常勤講師、実習フィールとの提供	【必修科目】 (2単位)大動物臨床実習基礎編及び応用編において、千葉NOSAI連の獣医師を非常勤講師として招き実習を行う。学内の乳牛において基本的な実習を行った後に、現地(千葉県)に宿泊し、正味丸2日の学外実習を行う。NOSAI獣医師1名に対して学生1名が診療車に同行し、現地の畜産農家において家畜診療の実際を学ぶ。 現地の畜産農家において家畜診療の実際を学ぶ。
[必修科目] ○大動物内科学実習(5年次、 家畜改良センター岩手牧場 ○家畜衛生学実習(5年次、1 家畜改良センター岩手牧場 岩手県食肉検査所:業務説 の総合臨床実習(5年次、5単化 NOSAI岩手:実習における 小岩井農牧(株):実習における	【必修科目】 (2単位)大動物臨床実習基礎 本的な実習を行った後に、現 現地の畜産農家において家畜 現地の畜産農家において家畜
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	東 京農 工 大 学

社台ファーム:馬の外科疾患の診断と治療、千葉NOSAI連:牛および豚の野外診療、NOSAI山形:牛および豚の野外診療 連帯先)タイ・カセサート大学獣医学部、NOSAI山形、社台ファーム、上野・多摩動物園、開業小動物病院 麻布大学:乳牛および肉牛の飼養管理と臨床、JRA競走馬総合研究所:馬の内科疾患の診断と治療 〇小動物内科学1:犬、猫を中心とした小動物(伴侶動物)の臨床について教育する 4年生前期・2単位 連携先:日本獣医生命科学大学:小動物の循環器疾患と呼吸器疾患 牛、豚、馬など産業動物の繁殖法ならびに繁殖障害とその治療について教育する 4年生後期・2単位:連携先東京農工大学:産業動物の臨床繁殖 犬、猫を中心とした小動物(伴侶動物)の臨床について教育する 4年生前期・4単位 連携先:日本獣医生命科学大学:小動物の泌尿器疾患 牛、豚、馬を中心とした産業動物の飼養管理と臨床について教育する 小動物および産業動物の寄生虫疾患の診断について実習する 4年生前期・1単位 連携先:日本獣医生命科学大学:実習全般 連携先:千葉NOSAI連:牛の野外診療実習 国内、海外の臨床施設、大学で様々な臨床経験を積む。 5年生後期・1単位 牛を中心とした産業動物の臨床実習を行う 〇大動物臨床 臨床繁殖学実習 5年生前期 4単位 5年生前期・4単位 〇総合臨床学実習 〇小動物内科学2 〇大動物臨床学 【選択必修科目】 O臨床繁殖学 〇寄生虫実習 連携先) 東京大学 49

岐阜大学 協介領科目: 総合臨床実習:5年生前期、6単位、岐阜県農業共催組合連合会(NOSAI)、岐阜県農業治・治療・治療・治療・治療・治療・治療・治療・治療・治療・治療・治療・治療・治療	鳥取大学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2) 臨床野外実習(5年次、1単位) 連携先:鳥取県農林総合研究所中小家畜試験場 連携内容:学生(約38名)を2班に分け、日帰りのス・ 精、鶏の採血、鶏のワクチン接種などであり、臨床教
農業共催組合連合会(NOSAI)、岐阜県農業池則亮先生)が本学部非常勤講師となり、NOSAI 5一般的臨床知識・技術を習得することを目標	・必修科目 1)内科学実習 II (5年次、1単位)及び臨床繁殖学実習(5年次、1単位) 連携先:鳥取県農業共済組合連合会、財団法人鳥取県畜産振興協会鳥取放牧場 連携内容:臨床ローテーション実習として学外での産業動物臨床実習を行っている。学生(約38名)を8班に分け、日帰りのスケジュールで臨 体准教授とともに農家(約10件)を往診し、診療の全般を見学している。また、獣医学科教員は事前に臨床准教授と綿密な打ち合わせを行 い、当日は教員1名が引率し、診療に同行している。最終日に臨床准教授が本学を来学し、診療で扱った症例に関する詳細な解説を加え、 班ごとの症例発表としてまとめさせている。また、別の日程で班ごとに鳥取放牧場を訪問し、臨床教授から直腸検査、妊娠診断、家畜衛生に 関する指導を受けている。	2)臨床野外実習(5年次、1単位) 連携先:鳥取県農林総合研究所中小家畜試験場 連携内容:学生(約38名)を2班に分け、日帰りのスケジュールで学外での産業動物臨床実習を行っている。内容は、豚の採血、去勢、採 溝、鶏の採血、鶏のワクチン接種などであり、臨床教授の指導のもと、学生も実践的な実習を受ける。

ロ ロ 大 体	科目区分 教育内容 (授業科目) 対象年次 単位 連携先 連携内容 く必修科目> 臨床実習 6年次 2 山口県農林総合技術センター (4日間)
	実際の獣医臨床の場に参加し、患者を前にして、問診、診察、問題点の整理ならびに、検査の選択、診断、治療、予防活動といった一連の診療活動を実際に体験する。 NOSAI山口県西部家畜診療所 14日間)
	く関連が <関連が ※必修 牧場実習 3年次 1 全国各地動物園、水族館、牧場等 産業動物等の飼養管理や臨床繁殖について自ら体験実習することにより、 教室や大学内実習では得られない体験や理解を深める。
鹿児島大学	H23年度入学生(農学部獣医学科のカリキュラム) (必修科目) 獣医繁殖学;動物の繁殖について講義を行う:4年生前期・5年生後期:4単位:鹿児島市平川動物公園(野生動物・動物園動物の繁殖講義につい
	·アー部担当) 獣医繁殖学実習:動物の繁殖技術について実習を行う:4年生後期・5年生前期:2単位:日本軽種馬協会九州種馬場(馬の繁殖)・JAそお鹿児島 (子牛の生産と流通)・鹿児島市平川動物公園(野生動物・動物園動物の繁殖)・霧島第一牧場(乳房炎診断と治療) 産業動物獣医学実習;産業動物の飼養管理と臨床基礎:5年生後期:1単位:シェパード動物病院(開業)(牛の臨床)・曽於農業共済組合(牛のレン
51	- ドソノ被影グ・(有ノロロ音性(食脉の)美际/ - 大動物臨床実習・県内NOSAIIこ5日間現地滞在して産業動物臨床(一次診療)を経験する:6年生前期:1単位:鹿児島県内の農業共済組合(一次 - 診療帯同)
	総合臨床実習 I ;教員に帯同して二次診療および特殊診療を経験する:6年生前期:1単位:鹿児島、宮崎県内の農家・農場(動物病院診療) (選択科目)
	大動物特別実習 産業動物臨床(診療)を継続的に教員と実施し、より深く臨床技術とともに農場管理について学ぶ:6年生前期:1単位:霧島第一 牧場・鹿児島県経済連栗野牧場・有村ファーマーズ・鹿児島県農業大学校(いずれも教員と訪問して診療を行う)
	シアアコロ/ 獣医呼吸器・循環器病学,呼吸器・循環器病についての講義:4年生前期:2単位:ペットショップハレルヤ(開業)(循環器系疾病について循環器専 門医による講義を行う)
	1551との80時報とログ 獣医繁殖学:動物の繁殖について講義を行う:4年生後期:2単位:鹿児島市平川動物公園(野生動物・動物園動物の繁殖講義について一部担当) 臨床動物行動学:動物の行動について臨床的に解説する:5年生前期:1単位:北里大学獣医学部(専門の教員より解説を行う) 在業動物総合臨床実習:県内NOSAII:5日間滞在 77産業動物臨床(一次診療)を経験する:5年年後期:1単位:鹿児島県内の農業共済組合(一
	大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大
	産業動物臨床獣医学系特別講義A;産業動物臨床について専門家より解説を受け、より深く知見を深める:6年生後期:1単位:山本アニマルクリ ニック(開業)・チームトドロキ(開業)
	産業動物臨床獣医学系特別実習A:産業動物臨床について教員および専門家に帯同して臨床技術を学ぶ:6年生後期:1単位:南薩農業共済組 合・かごしま中部農業共済組合・鹿児島経済連栗野牧場・霧島第一牧場・有村ファーマーズ・山口畜産(いずれもNOSAIまたは牧場での現地診療 実習のため)

大阪府立大学	・産業動物臨床実営(宮崎県内農業共済組合の臨床獣医師に随行し産業動物臨床を字習・5年前期、1単位、全員参加)
大阪帝立大学	アドバンス(選択科目) (1)適正家畜生産規範学:全学年次、2単位 東海大学、南九州大学と連携した各大学教員からのオムニバス形式の講義。講義の目的は、学生に畜産物の生産現場から食卓までの流れをきちんと理解させ、安全な畜産食品を提供するために必要なことを概括的に理解させることである。
大阪府立大学	ヾ゠ノ゠エゕ゠ェ゠ん゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚゚゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠゠
大阪府立大塚市立大学	じ。 * なお以上の3科目については、卒業要件単位ではないが、単位をすべて取得すると修了証が発行される。
	小動物臨床関連 必修科目 「牧場実習」(3年次、1単位) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所において、乳用牛、肉用牛および家禽の飼養管理等について実習を行っている。
「大動物臨床A」(5年次、1単本実習の学外編(参加型臨床を加型臨床機合法及び血球選択科目度料生産実習」(1年次、1単年戸大学農学研究科附属食習は同センターの専任教員かを指導している。 「大動物野外診療実習」(5年地方独立行政法人大阪府立語下級票を登画権診を行う	「獣医繁殖学実習」(3年次、1単位) 本実習の一部として、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所において、携帯型エコーを用いた牛の繁殖検診と妊娠診断実 習を実施している。
選択科目 「食料生産実習」(1年次、1単 神戸大学農学研究科附属食習は同センターの専任教員かを指導している。 「大動物野外診療実習」(5年 地方独立行政法人大阪府立 中下酪農家で繁殖格診を行	「大動物臨床A」(5年次、1単位) 本実習の学外編(参加型臨床実習)として、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所において、牛の内科診療を中心とした一 般的な臨床検査法及び血球・血液生化学検査(代謝プロファイルテストの概要を含む)の実習を実施している。
で指導している。 「大動物野外診療実習」(5年 地方独立行政法人大阪府立 府下酪農家で繁殖棒診を行;	選択科目 「食料生産実習」(1年次、1単位) 神戸大学農学研究科附属食資源教育研究センター(農場)において、肉用牛の飼育管理及び飼料調製等の実習を行っている。なお、本実 習は同センターの専任教員が実施している。本学教員は学生の付添いで同行し、一部の実習(携帯型エコーによる妊娠診断、去勢手術等)
習を行う(5日間: 研修所での	で有等している。 「大動物野外診療実習」(5年次、1単位) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所において、乳用牛の一般検診を行う(1日)。大阪府家畜保健衛生所に同行し、大阪 所下酪農家で繁殖検診を行う(1日)。NOSAI兵庫家畜臨床研修所の獣医師の診療に同行し、畜産農家で牛の頻発疾患の診断と治療の実 習を行う(5日間:研修所での宿泊を伴う)。

缸	酪農学園大学	生産動物医療分野では、北海道内の農業共済組合と連携した臨床実習を予定している(2013年度開始予定)。また、海外学術協定校である ハノーバー戦医科大学(ドイツ)での海外臨床実習を実施 ている。その他 対団法人中央畜産会が主催する産業動物臨床研修 北海道豊
		業共済組合連合会が主催するインターンシップや全国農業共済協会が主催する夏期臨床実習、家畜保健衛生所(北海道をはじめ全国)の研修等へ学生を派遣し、学外機関との連携教育を実施している。 の北海道内の農業共済組合と連携した臨床実習 教育内容:①教育内容の項参照
		xy & +
		Oハノーバー獣医科大学での臨床実習 教育内容:ハノーバー獣医科大学牛病クリニックにおいて個体診療に重点を置いた参加型臨床実習、往診およびハードヘルスマネージメントを学ぶと共に、同大学にある他の4クリニック(馬、豚、小動物およびエキゾチックアニマル)にてそれぞれ馬、豚、伴侶動物およびエキゾチックアニマルの臨床実習を実施(約2週間) オックアニマルの臨床実習を実施(約2週間) 対象年次:3-6年 単 位:学外実習として1単位
		伴侶動物医療分野では、隔年で海外学術協定校であるオハイオ州立大学(米国)での臨床研修を実施している。 〇オハイオ州立大での臨床実習 教育内容:オハイオ州立大学附属動物病院での臨床研修(希望する2診療科で各1週間) 対象年次:5-6年
53		単 位:字外実習として1単位
17	北里大学	〇 学外実習 I ~IV(選択)単位としては、4年夏季休暇からの実習を認定(5日間;1単位)大動物関連では、JRA、NOSAI、家畜診療所、家畜保健衛生所など)。NOSAI診療施設では、家畜の診療や飼育管理について実習している。 「各保健衛生所など)。NOSAI診療施設では、家畜の診療や飼育管理について実習している。 「O 国際交流協定を結んでいる米国三大学(テネシー大、ジョージア大、パデュー大)および中国(吉林大学)において5V夏期休暇中の2週間に教育病院での臨床実習を行っている(2単位)。
ЦШ	3本獣医生命	
lт	日本大学	【アドバンス(選択科目)】 高度臨床演習A:ワシントン州立大学夏期臨床実習(小動物コースと牛・馬コース)、全国NOSAI夏期臨床実習、北海道NOSAIの夏期臨床実 習および個人小動物動物病院における臨床実習はインターンシップ単位として認定している。対象は5年次、1単位。
		教育連携の今後の計画: 都市近郊にある大学は環境的に類似した課題を有することから、距離的に近いという利点を生かして学生や教員の相互乗り入れによる教育連携を図ることは当面の課題である。そのような状況の下、平成24年度の私立獣医科大学臨床教育担当者会議において、産業動物臨 育連携を図ることは当面の課題である。そのような状況の下、平成24年度の私立獣医科大学臨床教育担当者会議において、産業動物臨 床教育連携WGの設置が決まり、まず関東地区の私立3大学での連携を図る予定になっている。

麻布大学

獣医総合臨床実習(産業動物臨床実習)(5年次2単位) 全国のNOSAIを中心とした診療施設 全国のNOSAIを中心とした診療施設 住診随行による産業動物臨床実習を2週間行う 特に、NOSAI山形およびNOSAI宮城での実習では、大学教員が引率として同行する。

応用系分野(公衆衛生・家畜衛生)の高度施設・設備の保有状況

北海道大学	((北海道大学獣医学部における応用獣医学実習に関わる研究科内施設)
	OBSL3対応動物施設:研究科内に共同利用施設として設置され、BSL3相当病原体の感染実験が行われているが、コアカリの実習には使用し
	ていない。常時施錠の上、講習会に参加した実験実施許可者のみ入室可能。感染症関連のアドバンスト科目を履修した学生は利用可。
	OBSL2対応動物施設:研究科内に共同利用施設として設置され,研究目的とした各種感染実験等が行なわれている他,一部の微生物系実習
	におけるBSL2相当病原体の感染実験に使用。常時施錠の上,講習会に参加した実験実施許可者のみ入室可能。
	OBSL2対応実習室(1室): 安全キャビネット5台, オートクレーブ, 空調完備。入室の際は専用の白衣および履物を着用義務。常時施錠。
	○ 一〇病態解剖室: 研究科内に共同利用施設として設置され、研究目的としたほとんどの大中小動物の病理解剖のほか、獣医病理学関係の実習
	に使用。牛海綿状脳症疑似患畜検査に対応。入室の際は解剖衣と長靴を着用。常時施錠。ただし、安全キャビネットが未設置のため、人獣共
	通感染症疑似患畜の剖検には十分に対応していない(安全キャビネット等を設置予定)。

帯広畜産大学	IOP3対応の特殊実験室は、学内3カ所に分散整備され保有しており、病原体の取扱い及び小動物感染実験(マウス、ラット)には対応可能。ただし、産業動物の感染飼育施設は未整備である。
	〇病理解剖実習室は,平成21年度に整備。少人数実習を想定しており,実習機会の拡大には,対応不足に陥る可能性。
	ORI実験室を保有しているが、昭和59年に整備された老朽施設であり、施設機能が十分に果たせない状況。
岩手大学	〇微生物学実習室、公衆衛生学実習室、形態学実習室、病理解剖実習室が設置されており、応用分野の実習に活用されている。
	〇平成23年度には、獣医公衆衛生学関連実習システムが整備され、DNAシークエンサー、マイクロアレイシステム等が導入予定であることか
	ら、これらの機器を用いた分子疫学的手法を活用した実習をさらに高度化する予定である。
	〇平成18年度に「農学部附属動物医学食品安全教育研究センター」を設置し、HACCP (hazard analysis critical control point) (危害分析重要
	管理点)を基盤とする動物性食品の安全性確保に対する教育・研究を進めており、本センターの機能を拡充し、現代日本で問題になっている環
	境放射性物質の制御に関する教育を充実する予定。本センターに環境放射線部門を設置することにより、東北地方の放射線衛生学と獣医公
	衆衛生学の拠点形成を行うことを計画している。
東京大学	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
未水八丁	○食品衛生学実習では腸管出血性大腸菌を使用した実習を実施している。腸管出血性大腸菌は第4種病原体等であるため、管理区域内で感
	○ 広田州上ナス目 (16/76) 日田田 (17/76) 日本 (17/76)
	〇実習に使用できるような病理解剖実習室はない
東京農工大学	特になし
岐阜大学	〇(人獣共通感染症学実習)(微生物学実習IおよびII、感染症学実習(微生物学·感染症学実習))
	5台の安全キャビネットを備えた実習室(P2及びBSL2認定済み)を有しているが、学生実習に使用可能なP3実験室はない。
	〇(病理学実習)
	病理解剖室自体は,感染症対策は行われておらず、学生実習に使用可能なP3対応解剖室はない
	!

鳥取大学	〇(微生物学) ・安全キャビネット(学生7名に対し1台)。 ・リアルタイムPCR 1台。病原体の遺伝子検査の実習に活用している。 ・バイオハザード防止オートクレーブ 1台。実習に活用している。 ・落下細菌計測装置 1式を設置。環境中の細菌等の検出に関する実習に活用。 〇(公衆衛生学) ・研究用のP3対応施設はあるが、教育用に利用できるものがない。高度化する感染症教育のため教育用P3施設が必要。
山口大学	○P3対応施設は導入を進めることで学内合意はなされているが、実際の設置に当たっての予算処置については具体的な目途は現時点では立っていない。 ○健体・病体解剖実習室の設備は、ホルマリンガス対策として大学として必要な装備が配置された。しかしながら、施設自体の老朽化を今後考慮し、更新を考えていく状況にある。
鹿児島大学	〇組織学特殊実習室:遠隔講義ネットワークシステム、講義コンテンツ作成・配信システム、バーチャルスライドシステム、書画装置、電子黒板、液晶プロジェクタ、学生用ノートパソコン36台、実習用顕微鏡60台。 〇公衆衛生学・微生物学特殊実習室:インキュベータ3台、倒立顕微鏡6台 〇病理学特殊実習室:ホルマリン対策用局所排気装置
宮崎大学	○微生物を取り扱う実験・実習室はバイオハザードとバイオセキュリティに配慮した施設に改築し、病原体を安全に取り扱うために必要な設備としてP3、P2の施設を整えて実習を行う体制となっている。さらに、げっ歯類や鶏の感染実験を行える施設が完備している。 ○病理解剖室には隔離扉、前室、バイオハザード対策キャビネット、高圧熱湯消毒機、オートクレーブ、長靴洗浄機、長靴殺菌・乾燥ロッカー、及びホルマリン燻蒸機を設置し、感染動物体の解剖に対応した。剖検は安全キャビネット、油圧式大動物解剖台を使用し、血液は回収後、臓器と共に敷地内焼却炉で焼却するなど病原体拡散防止に留意したシステムを構築している。 ○動物病院内には、感染症を疑う小動物を診察するための診察室を別途設置し、バイオハザード対策キャビネットを設置したP2対応の施設になっている。 ○健体解剖実習室にホルマリンガス対応解剖台を設置し、ホルマリン固定臓器を用いた解剖実習においても安全に対応できる。 ○獣医棟の近くに牛および豚の産業動物飼養施設が備わっている。平成24年には大中動物実験施設が完成する。
大阪府立大学	 ○本学・獣医学科では使用目的により使い分ける5つの実習室を完備している。特に応用系の実習室は、P2対応で前室を備えた法令に則した 最大60人まで収納可能なものを整備している。また、これとは別に共同P2・P3実験室も設置されている。しかし、こちらは本来教育用ではなく、 特に共同P3実験室は限られたスペース(面積)のため教育(実習)用とするのは難しい。 ○病理解剖実習には、小動物であれば上記5つの実習室のいずれかを充てることが可能であり、大動物の場合は大動物用屋内実習施設(1 階)で対応することが可能である。
酪農学園大学	〇感染・病理分野:P3実験室、病理解剖実習室、RI実験研究棟 〇衛生・環境分野:コンピュータ室(先述)
北里大学	〇マクロ解剖実習のための健体解剖室、病理解剖実習のための病理解剖室が設置されているが、BSE対応などの問題があり、牛の解剖などについては制限がある。また、何れも、手狭な状況は変わらず、新しい施設が必要と考えている。 〇P3施設も稼働しているが、どの施設も老朽化が目立ち、更新が必要な時期に来ている。

日本獣医生命	〇P2対応施設(動物室、研究室)までは、現有しているがP3対応施設は現有していない。 〇病理解剖室については現有している。 〇動物衛生学実習(牧場実習含む)および獣医公衆衛生学実習では、P2レベルの病原体を扱う必要性があるので、セーフティ・キャビネットが必要となる実習室の整備を現在進めている。
日本大学	〇本学の動物医科学研究センターには、バイオセーフティーレベル3(BSL)に対応した実験室が設置されており、主に卒業研究に 関連したリケッチア、クラミジアなどの培養を行っている。本施設を使用する場合、BSL講習会を受講することが義務づけられている。また、BSL講習会を受講した大学院生は、単独で入室し、使用することができるが、学部生に関しては、教員の同伴がなければ入室することはできない。また、同センター内には5つの共通機器室があり、それぞれの部屋には以下の装置が設置されており、大学院生、学部学生は、卒業論文や博士論文の実験で自由に使用することができるようになっている。共通機器室1:DNAシーケンサー、超遠心分離器、マイクロアレイ装置、ケミルミ装置共通機器室2:フローサイトメータ、セルソーター、クリオスタット共通機器室3:高速液体クロマトグラフ共通機器室3:高速液体クロマトグラフ共通機器室3:高速液体クロマトンサー、リアルタイムPCR装置共通機器室3:歯状態の3、JTMの3、J
麻布大学	□ ○学内共同利用施設としての生物総合科学研究所内の感染症エリアがP3対応施設であるが、実習で使用することはなく、卒業論文のための実験として必要がある場合のみ使用。 ○病理解剖学実習室は学内に設置されており、病理学解剖実習で使用されている。

応用系分野における学外機関との連携状況

北 海道 大学	【必修科目】 〇動物衛生学実習(1単位):主に畜産動物の衛生管理および疾病予防対策についての実習の一貫として、以下の機関での実習を実施。八千代牧場(一般牧場において放牧衛生の重要性を習得する)、十勝農業共済組合更別家畜診療所(家畜疾病の診療の最前線である十勝千代牧場(一般牧場において放牧衛生の重要性を習得する)、十勝農業共済組合更別家畜診療所(家畜疾病の診療の最前線である十勝ノーサイの活動を理解する)、家畜改良センター十勝牧場(家畜衛生活の所轄管理を理解する)、北海道立総合研究機構畜産試験場場(家畜衛生および家畜管理に関する行政・試験施設における活動を理解する)、家畜衛生行政所轄官庁(家畜衛生行政の最前線で働人家畜衛生保健所の職員を招聘して、家畜衛生行政に関する講義と、家畜伝染病発生時対応の机上演習を実施する) 家畜衛生保健所の職員を招聘して、家畜衛生行政に関する講義と、家畜伝染病発生時対応の机上演習を実施する) の食品衛生学実習(1単位):食中毒原因菌の分離同定,型・食肉の衛生に関する理化学的および微生物学的検査に関する実習の一貫として、以下の機関で実習を実施。北海道食肉衛生検査所(食肉衛生の基本である屠畜場における食肉検査過程を習得する)、サッラク農業協同組合、職員を招聘して、日本の食品衛生行政の業務を習得する) 1厚生労働省の職員を招聘して、日本の食品衛生行政の業務を習得する)、制健市治の見学実習を行う、食品衛生行政所轄官庁(厚生労働省の職員を招聘して、以下の学外施設と、連携して実習を実施。札幌市下水処理場(下水処理に関する方法を学習する)、札幌市浄水場(飲料水の殺菌処理、飲料水の分析などに関して習得する)、北海道立衛生研究所(地方自治体の衛生研究所の検査や監視業務について習得する)、札幌市動物管理センター(動物愛護と狂犬病予防に関する行政の実際を学習する)。
	【選択科目】 〇野生動物学演習(1単位):世界自然遺産である知床国立公園を中心におこなう野生の熊や鹿を対象とした野外調査実習。以下の機関と連携して行う。標津町(獣医学研究科と包括連携協定を締結しており、ヒグマ調査をしているNPOと協力して調査法を習得する)、公益財団法人知床財団(知床の野生動物の保護管理や環境保全など、幅広い自然環境に関する知識を習得する)。 法人知床財団(知床の野生動物の保護管理や環境保全など、幅広い自然環境に関する知識を習得する)。 ○短期現地実習(1単位)、長期現地実習(2単位):学生が学習したい機関のインターンシップ。
帯広畜産大学	〇食品衛生学実習 食品衛生学実習では、食品衛生の分野で必要とされる獣医学領域に関連する手法や技術を実験実習および現場の見学を通じて理解する。 実習では、1)食品(乳・食肉)の理化学的および微生物学的性状の解析法、2)食中毒の原因微生物の検査法、3)食品の衛生管理を司る機 関や施設の役割、について学ぶ。
岩手大学	〇家畜衛生学実習(1単位) 家畜改良センター岩手牧場:実習牛の提供、盛岡中央家畜保健衛生所:業務説明と施設見学、岩手県食肉検査所:業務説明と施設見学
東京農工大学	獣医衛生学実習においては、東京都家畜保健衛生所を見学し、国内における現場の疾病対策を学んでいる。また、芝浦食肉処理場や東京 都水道局を見学し、国内における公衆衛生対策も学んでいる。

東京大学	〇食品衛生学実習(3年) 横浜食肉検査場の協力のもと、食品衛生学実習の1コマで食肉検査場の見学を行っている。 〇「衛生学実習」(4年) 環境研究所、日本中央競馬会美浦トレーニングセンターの協力のもと、それぞれの施設の見学を実施している。
岐阜大学	必須科目 〇人獣共通感染症学実習(1単位)、食品環境衛生学実習(1単位) 岐阜県保健環境研究所、保健所、食肉衛生検査所、と畜場、上水施設、下水施設、医療廃棄物処理場への見学を実施し、地方自治体にお ける公衆衛生獣医師の役割と、衛生研究所の役割について学習している。毎年1回、半日で行っている。
	○環境衛生学実習(1単位):単位の一部として、以下の3カ所を見学 1)岐阜市浄水・下水処理場の見学実習:大学の実習後、施設見学と実施要領についての説明 2)特別管理産業廃棄物処理工場の見学実習:民間の廃棄物処理施設の見学と実施要領についての説明。 3)保健所の見学実習:岐阜保健所を訪問し、施設と業務の説明。 ○食品衛生学実習(1単位):単位の一部として、以下の2カ所を見学。
58	1.2日物C及内閣工役員別の元十六日:4日年間十六年が1.11、MC4日日年間及内閣工役員別の元十乙民内閣工役員の配別 2)牛乳工場の見学実習:森永乳業中京工場の見学と乳衛生(HACCP)についての説明 3)公務員獣医師活動の説明:岐阜県の職員による公務員獣医師活動やインターンシップについて説明 4)厚生労働省職員の出張講義:対象学年5年生、約2時間、食品衛生学実習の中で、公衆衛生事情と国の公衆衛生獣医師活動につい ての説明
	〇応用実習(2単位):インターンシップとして実施、各県の保健所や食肉衛生検査所にて実習を受けている。
鳥取大学	・必修科目 〇家畜衛生学(2単位) 鳥取県家畜保健衛生所:授業時間の1回分を用い、鳥取県の家畜保健衛生所職員の方々による講演会を実施している。講演では、現場で 実際に問題となっている家畜衛生に係わる諸問題や家畜保健衛生所の役割を学び、質疑を通して理解を深めている。
山口大学	特になし
鹿児島大学	〇公衆衛生学実習B:家畜の生産現場及び各検査機関等での実地見学実習により食品衛生と環境衛生への理解を深める(1単位)。連携先:食鳥処理場、食肉衛生検査所、環境保健センター・現地での獣医師業務の解説、毎年。 〇動物衛生学実習:各種の衛生検査法及び消毒に関する検査技術、HACCP方式を理解する(1単位)。連携先;家畜生産現場、家畜保健衛生所・現地での獣医師業務の解説と技術の紹介、毎年。 ※ 共同獣医学部においても実施予定

が修科目(一コマ以上において連携があったものはすべて記載) ○獣医畜産法規:2単位、農林水産省および厚生労働省との連携(獣医師の責務と関連法規) ○獣医畜産法規:2単位、農林水産省および厚生労働省との連携(獣医師の責務と関連法規) ○獣医衛生学:1単位、①宮崎県家畜保健衛生所との連携(家畜保健衛生所の業務内容、家畜伝染病予防法の理解と施設見学) ②宮崎県畜産試験場との連携(家畜排泄物の適正処理の理解と排泄物処理施設見学と鶏の衛生管理) 処理の理解と施設見学)、④民間養鶏場との連携(ウンドウレスブロイラー農場施設見学と鶏の衛生管理) の家禽疾病学:2単位、①宮崎県養鶏獣医師協議会との連携(フィールド獣医師による家禽疾病講習会)、②宮崎県養鶏獣医師協議会との連携(フィールド獣医師による鶏の材料採取、病理解剖検査実習) ○家禽疾病学:2単位、①宮崎県養鶏が医師協議会との連携(防疫演習)、②開業獣医師との連携(蹄病予防実習) ○獣医公衆衛生学実習:1単位、①宮崎県家畜保健衛生所との連携(防疫演習)、②開業獣医師との連携(蹄病予防実習) ○獣医公衆衛生学実習:1単位、①宮崎県家畜保健衛生所との連携(防疫演習)、②開業獣医師との連携(蹄病予にて実し動物感染症学実習:1単位、①食肉衛生検査所、食肉処理場、食鳥処理場の施設見学(人獣共通感染症学実習:1単位、①中央競馬会または宮崎県衛生環境研究所のを設見学(年1回訪問し、感染症診断、食品分析、環境調査等の業務を見学) ○人獣共通感染症学実習:1単位、①中央競馬会または宮崎県衛生環境研究所から講師を招聘(インフルエンザウイルスの診断法を習得) 四局大

【必修科目 大阪府立大学

〇獣医公衆衛生学実習(2単位):大阪市卸売市場食品衛生検査所と連携して食品衛生管理の現場を体験させると共に、そこでの食品衛生

管理・検査の実際を学習させるため検査所職員による業務の説明と検査所内の見学を実施 〇獣医公衆衛生学B(2単位):関西空港検疫所の研修に参加し、検疫所の業務内容について検査所職員から説明を受けると共に、入国時 の健康管理(観察)、食品監視業務、衛生監視業務等についての見学。受入先の制限により希望者のみの参加。 〇獣医公衆衛生学B(2単位の内1回90分間):厚生労働省から講師を招へいし、公衆衛生獣医師の業務として、特に厚生労働省所属獣医師 の業務について1回講義。希望者のみの参加。 〇牧場実習(1単位):地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所と共同で、牧場実習を実施。内容はウシと鶏についての牧草収 種から飼料調製給餌、搾乳、牛房清掃~体形測定、集卵など。2日間実施。

〇獣医衛生学実習(1単位):地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所の施設等を利用して実地の防疫訓練を実施(大阪府家 畜保健衛生所指導)。また、実習に使用する検体を同衛生所を通じて入手。

○獣医微生物学実習(1単位):防疫訓練を実施するため、大阪府家畜保健衛生所の指導により、防護服の着脱及び動力噴霧器・除染テン の使用方法の演習を行う(0.5日)

【アドバンス(選択)科目】

〇獣医学インターンシップ概論」(1単位):大阪府、大阪府立公衆衛生研究所、JRA、農林水産省等と連携してそれぞれ90分間、獣医師とし ての職務内容について講義。

○野生動物医学(2単位):大阪市にある天王寺動物園と連携して、所属獣医師による集中講義を実施。半日間は天王寺動物園を会場とし て、野生動物の実態について生きた動物を前に解説。

【アドバンス(自由)科目】

〇「食生産科学コース」:希望学生10名に対し、食の安全に関する共同プログラムを実施。学内に留まらず、学外(関西空港検疫所等、神戸 大学農学研究科附属食資源教育研究センター、株式会社イズミヤ、株式会社生活品質科学研究所)、国外の大学や企業(オーストラリア・ア デレード大学、タイ・カセサート大学、タイ・タマサート大学、中国・落花生研究所、他、関連日系現地企業多数)と連携し、食品生産や加工、 生管理に関する講義や食品加工過程の見学を実施。

北	○
信 出 松 出 (5) (6)	現行カリキュラム(必修科目) しシンポジウム(1単位):国立医薬品食品衛生研究所、国立感染症研究所、国立環境研究所、埼玉県衛生研究所など。食中毒、感染症、環境問題などについての講義のみ依頼 ・ は問題などについての講義のみ依頼 ・ し獣医総合実習(応用、二学年において各1単位で実施):農林水産省、厚生労働省、動物衛生研究所など。感染症についての疫学などに ついての講義のみ依頼。 ・ おカリキュラム(必修科目) ・ 新カリキュラム(必修科目) ・ おかりキュラム(必修科目) ・ おかりキュラム(必修科目) ・ おかったように群馬県と野生動物対策に関わる包括連携協定を締結し、2012年度には、群馬県農林大学校内に共同 ・ 研究施設を設置する予定で、ここを拠点とした実習を計画中。

日本大学	小	■ 小修科目
	•	○「応用獣医学総合演習A」(1単位):演習単位の一環として、官公庁、地方公共団体、公的および私的研究所、動物展示施設などの獣医学関連機関で活躍する獣医師を招聘し、講演を実施。また同演習では、夏期休暇期間の1~2週間を利用して、学外諸機関において該当機関の日常業務の目覚まなは個別では、1、シンセも道や研修を受け、同常認の自治性の一部と1、7対定
		周の日代来がの光ナなどは同かしロノブラにはアイガーの 18年でであるという。 またのであた。 学外研修の認定方法: 担当教員が事前に学外機関と連携して研修内容を確認し、研修後に学外機関からの評価・報告を受け取って演習の 単位認定の評価に反映。
		連携実績:厚生労働省、農林水産省、都道府県の衛生・公衆衛生部署、家畜保健衛生所、保健所、病性鑑定所、動物保護センター、食肉衛生検査センター、衛生研究所、国立感染症研究所、動物衛生研究所、動物検疫所、農業共済組合家畜診療所、企業研究所、競馬場、動物
		菌・水族館など。 〇獣医衛生学実習(1単位) : 農林水産省動物検疫所における見学実習を毎年の必須の認定単位の1部として実施。講義で学習した重要家 客伝塾病や / 戦共涌感塾症の侵 λ 阻止の役割を里たす同機関の音蓋お上が国際防疫の事要性の理解を認める
		当日本が、大い、ためで、ためで、ためで、これでは、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで
		エナの 事女 正の 恥ഡ る 同 め る。 ■アドバンス (選択科目)
		- 卒業論文では、希望する学生が動物衛生研究所において、夏期休暇等を利用して、畜産現場で問題となっている家畜疾病を研究課題とし た卒論研究に従事。
19 麻布大学	大 小	専門学外実習[2単位 必修]:
		獣医師がいる職場であれば, 実習先の分野は自由とし, 実質10日間(約2週間)の学外実習を必修科目として履修。

H22補正予算「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備」による設備購入について

北海道大学 (応用系)平成22年文部科学省補正予算「口蹄!

(応用系)平成22年文部科学省補正予算「口蹄疫等家畜感染症に対応した獣医師育成環境の整備」により安全キャビネット5台(4台は内部排 気システム、1台は外部排気システム)が微生物学系実習を行なう実習室内に新規設置した。

今回の導入により、安全キャビネット内での病原微生物の取り扱いや感染動物からの試料採取が可能となり、各微生物学系実習において人 獣共通感染症起因病原体や家畜重要疾病起因病原体を用いたより実践的な実習を行うことができるようになった。これらの実習内容の強化に 伴い、学生の病原微生物取り扱いに対する意識が向上しており、病原微生物を安全に取り扱うための技術が向上した。アドバンスト科目にお いて、さらに高度技術が必要とするBSL-3を使う演習なども設定できると思われる。

(臨床系)

① 小動物用X線撮影装置

現在、動物病院における参加型臨床実習、臨床系実習においてX線診断に関する教育に活用されている。旧来の機器よりもX線漏洩が少な く、また被写体への被ばく量を低減しつつ鮮明なX線画像の撮像が可能であり、より高度な診療技術教育に貢献している。

② X線诱視装置

主に、X線造影検査やX線透視下手術などの教育に利用している。旧来の機器より、イメージインテンシファイアの能力が格段に向上したため、 低被曝かつ高精細な情報の表示が可能となり、臨床教育の先進化に貢献している。

③ 画像ファイリングシステム

本システムの導入により、湿性現像システムを全廃することが可能となった。本システムによってオンラインで複数個所にX線画像情報およびX線CT画像情報を表示することが可能となり、X線撮像に係る時間の短縮と画像情報のアーカイブが容易になり、教育の利便性が格段に向上した。また、関連医療廃棄物による環境汚染物質の廃棄をなくすことができた。

④ X線被曝低減手術支援システム

生物学の専門家として放射線に携わるべき獣医師にとって、生涯必要となる放射線防護に関わる知識とその実践において、実際の装具を用いて実習させることができるようになった。

帯広畜産大学 (産業動物臨床分野)

①診療車

総合臨床学実習において実施する巡回診療実習の際に、学生6~8名程度の少人数による班編成で訪問することが可能となった。また、学生 が通年で週に1回程度参加する往診実習においても診療車を活用することが可能となり、これらの実習において、農場訪問の機動性の向上と 防疫対策の確実性を高めることができるようになった。

②カラードップラー機能付きポータブル超音波診断装置

産業動物臨床において、患畜の負担を軽減しつつ、学生に対しては客観的なデータを示すことが可能になるとともに、農家に対しては質の高い 診療技術を提供することができるようになり、産業動物臨床における各種疾病の病態と診断に対する学生の理解を効率的に習得させることが できている。

③動力噴霧器

学外の一般農家へ往診する際の車両等の確実な消毒法等の実践的防疫技術を示すことが可能となり、学生に対して口蹄疫等の防疫に関する実践的技術を効果的に体験・理解させることができるようになった。

(感染症等対策分野)

①動物用体温測定サーモグラフィー

学生教育において、感染症の炎症初期症状をとらえる装置として、炎症の過程を教育するうえで極めて有益であり、学生教育において家畜防疫の実践的技術となる感染症診断(実習)に効果をあげている。

②発光検出用マイクロプレートリーダー

病原体の浸潤状況を評価するために、生体および家畜飼育および診療室環境の病原体による汚染状況を迅速、且つ科学的に評価するシステムとして、口蹄疫など悪性の伝染病に対する家畜防疫に特化した実践教育に効果をあげている。

③携带型超音波画像診断装置

生体内の器官およびその血流を評価する装置として、生殖科学分野の教育を中心に活用している。

④家畜防疫・診療実習用家畜繋留設備

8頭の牛を同時に繋留することができ、少人数による参加型実践実習を効率的かつ安全に進めることが可能となり、家畜の診療診断実習や削蹄実習などに使用し教育効果をあげている。

岩手大学

(応用系)平成22年度補正予算により、安全キャビネット、CO2インキュベータ、嫌気・微好気培養システム等を導入したことにより、感染症学および衛生学に関わる、BSLレベル2の病原体を扱う実習を高度化することができた。また、リアルタイムPCR機器の導入により、分子生物学的および分子疫学的手法を用いた実習も導入している。

(臨床系)

1. 購入設備

•内視鏡関連機器一式、超音波診断装置一式、心電心音測定装置一式

2. 現在の利用状況

大動物内科学実習、大動物外科学実習、総合臨床実習において、導入機器を利用し、学生自ら超音波や内視鏡を用いた画像診断、心電心音 計を用いた機能診断を実践できるようになった。

3. 導入による教育効果

導入により獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応した大動物臨床実習教育を行う教育基盤が整備された。また、即戦力となる獣医師の 育成を行うための教育体制を構築することができた。

東京大学	(応用系)安全キャビネット、オートクレーブ、細胞破壊装置などを購入した。これらの機器は実習の高度化に一定の効果があった。
東京農工大学	(応用系)顕微鏡の投影装置を購入した。顕微鏡から直接サンプルを投影でき、大人数で観察できるので観察ポイントを指摘、共有できる。
岐阜大学	(産業動物臨床分野) 牛の身体検査(牛保定枠場), 産業動物の血液及び生化学検査(血液計算装置及び生化学検査装置), 妊娠鑑定及び生殖器疾患の診断 (ポータブル超音波画像診断装置)及び受精卵移植(超音波卵胞内卵子経腔採取用機器)等の実習を新規に実施, あるいは内容を大きく改善 することができた。これにより産業動物臨床に対する学生の理解をより深めることができた。 (感染症等対策分野) 獣医感染症学実習(4年)において産業動物の感染症診断に導入機器を活用し、ワクチン接種後の抗体価測定による有効性判定(マイクロプレートリーダー及びマイクロプレートウォッシャー), 各種病原体感染を遺伝子により迅速診断する実習(迅速遺伝子診断用リアルタイムPCRシステム, サーマルサイクラーPCRシステム、ミニトランスプロットセルシステム、安全キャビネット)等の内容を最新のものに改善し、実践教育を 充実・発展させることにより、学生の産業動物に対する衛生学及び疫学に関する興味を惹起することができた。
鳥取大学	(応用系)・微生物学: 1) 安全キャビネットを学生7名あたり1台設置したため、病原体の取扱いをすべての学生が本設備を利用して十分に実習することが可能となった。バイオハザード防止に対する理解が深まった。 2) リアルタイムPCR 1台を設置し、病原体の遺伝子検査に関する実習に新規に用いた。病原体遺伝子の迅速な検出及びコンタミネーション防止等の意義に対する理解が深まった。 3) バイオハザード防止オートクレーブ1台を設置し、実習において発生した感染性廃棄物の滅菌処理に利用した。病原体の滅菌処理に関する理解が深まった。 4) 落下細菌計測装置1式を設置し、異なる環境における空中細菌数及び構成菌種の比較に関する実習に利用した。
山口大学	(応用系) 大学改革推進等補助金により, 家畜感染症・人獣共通感染症等対策分野における参加型実習を充実・強化することを目的とし. BSL2病原体を取り扱う実習システムを充実するために、BSL2対応型安全キャビネット3台. PCR関連機器、細胞培養関連機器一式を、繰越手続後の平成23年11月から平成24年1月にかけて購入(一部自己負担)している。平成24年度前期から獣医微生物学実習・公衆衛生学実習・獣医寄生虫病学実習に本設備を用いており、本設備の導入により、BSL2レベルの病原体の分離・同定・遺伝子診断を全ての学生が個別に行うことが可能となった。また、実際の臨床サンブルを用いた病原体の分離・同定・診断することが可能となるため、臨床の現場で迅速かつ適切に対応できる知識と技能の習得が期待できるなど、従来よりも、質の高い参加型実習の取組が実施できるようになった。

宁	((((((((((((((((((((((((((((((((((((((
宮崎大学	(応用系・臨床系共通) 1. 携帯型超音波診断装置:携帯型超音波診断装置を導入し、主に学内外の診療を通じ臨床教育に利用している。具体的には、動物病院に来院した産業動物や地域の関係機関の協力のもと学外の畜産農場を訪問し、心疾患や繁殖障害など診療を通して学生に対し産業動物の臨床教育を行っている(平成23年4月から平成24年1月の学用頭数は、ウシで1,584頭)。平成22年度に導入した携帯型超音波診断装置は、従来用いていた機器より性能が高く、また高画質であるため、学生に対し臨床症例の理解醸成を促進している。 2. 産業動物臨床記録デモシステム:大型モニターおよびカメラの導入により術野の見学が容易となり、学部学生からの質問も具体化してきた。したがって、本機器の産業動物臨床の学部教育への貢献は非常に大きい。また、各種産業動物卒後教育においても利用され、教育効果を上げている。 3. 顕微鏡ビジュアル教材記録・映写システム:顕微鏡ビジュアル教材記録・映写システムは、主に臨床系の実習(寄生虫学実習、繁殖学実習、内科実習)や卒論研究で使用し、実習では実習観察標本の直接投影や、本システムで記録した画像を組み込んだパワーポイント教材の投影等に、卒論研究では研究材料の撮影や多人数でのディスカッション時の投影等に用いて有効に活用している。また、外部からの検査依頼に対しても、本システムを用いた画像などを添付して結果報告しており、検査依頼を行った獣医師に病態の理解を促す卒後教育にも貢献している。4. 産業動物医学ビジュアル教材サーバーシステム:上記の、3. 顕微鏡ビジュアル教材記録・映写システムで得られた画像データを保存し、4. 産業動物医学ビジュアル教材サーバーシステム:上記の、3. 顕微鏡ビジュアル教材記録・映写システムで得知を見ませた。4. 産業動物を発展を通過している。4. 産業動物を発展している。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物を発展している。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物を発生の発売を発展する。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物を発売を発売する。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物を発売する。4. 産業動物のでは、4. 産業・4. 産業・4
	アーカイブ化を進めている。 (臨床系) 1. 家畜防疫対策GISシミュレーション学習システム:「動物感染症学実習」において、教育用に改変した口蹄疫発生事例について、本GISシステムを用いた疫学解析を体験させ、感染症の流行の解析や対策法の立案におけるGISの有用性を学ばせた。感染症の流行に対するGIS解析は今後重要な手法となると考えられ、GIS解析の導入教育において本システムは有効に働いている。 2. シミュレーション・グループ学習用電子黒板: 問題解決型のチュートリアル教育において、各グループに与えられた課題に対する意見を集約するために利用している。ノートを取ることなく、議論に集中できる点で導入した教育効果が改善された。 3. P2微生物臨床検査実習用設備:これまで動物病院内にP2レベルの施設がなかったことから、臨床材料の微生物学的検査が十分に行えない状況にあった。安全キャビネット、インキュベーター、オートクレーブの導入により、病院内に従来の一般検査室とは別に微生物検査室を新設することができた。現在、主に細菌感染が疑われる症例について、その臨床材料(分泌物、膿、血液、尿)からの原因菌の分離、薬剤感受性試感染性廃棄物の滅菌等にほぼ毎日使用している。また学生の病院臨床実習において、細菌学的検査手技の習得に利用している。 4. 可動式豚舎隔離飼育舎:畜舎および周辺環境消毒の実習で利用している。実験動物委員会承認後、豚を飼育し、豚のハンドリング、検査材料採取手技の実習を実施する。

鹿児島大学

(応用系)

H22年度補正予算により、病原体材料などの保存用としての超低温槽、病原体を安全に取り扱うための安全キャビネット、発育鶏卵でのウイルス培養のための自動転卵装置付孵卵機および病原体の滅菌処理用の高圧蒸気滅菌器を設置できた。これにより、病原体を取り扱う「微生物」学実習」においての学生実習が安全に、また適切に実施できるようになり、教育効果が上がった。

(臨床系)

■野外診療実習車一式 車体(ハイエース)1台 ■家畜輸送車一式 車体(トヨエース)1台

導入の目的は、実務教育の一環として行われる参加型臨床実習に向けて、フィールドにおける初期診断機能を向上させると共に、附属動物病院に搬送される症例数を確保し、産業動物の一次診療と二次診療をバランスよく履修させるためである。導入されたのは、平成24年3月である。野外診療実習車は、平成24年4月からの本格運用において、平均で2回/週の頻度で利用している。 〇導入による教育効果

■野外診療実習車

産業動物臨床の参加型臨床教育において、一次診療への参加がより容易となった。本学では、導入以前より本学附属動物病院の学外診療で学生を帯同し、牛の繁殖検診や不妊治療等に参加させてきたが、診療実習車がなく、臨床検査などをフィールドで行う事はできていなかった。本実習車を用いる事でフィールドで臨床検査や画像診断を駆使できるようになったので、繁殖科以外の診療科においてもフィールドで確定診断を行うことができるようになることが期待されている。また、従来は不可能であった、産業動物臨床の一次診療における疾病の鑑別診断や治療の選択に客観的な根拠を提供することが可能となるので、その教育効果も飛躍的に高まると考えられる。

■家畜輸送車

産業動物の二次診療や病理・微生物学的診断症例を献体・教材として教育の場に持ち込むためには、病畜搬送用の専用車両を所有して、貴重な症例を積極的に収集する必要がある。家畜輸送車の導入により、経済的理由で廃棄される産業動物の中から貴重な症例を、休日・時間規制を受けることなく教員自らが集めて廻ることが可能となった。導入してまだ1ヶ月あまりしかたっておらず、利用実績はまだないが、積極的に活用していく予定である。

以上の2台の実習車の導入により、産業動物疾病に関して今まで以上に多くの症例を学生に体験させることが可能となり、産業動物分野における参加型臨床実習の充実と強化が期待されている。

大阪府立大学

(応用系)

- ・除染テント(ランコ除染シャワーARZ-23)
- ・動力噴霧機(丸山製作所自走セット動噴MSV613L)
- ・赤外線体表温測定モニター
- ・パルスフィールドゲル電気泳動装置

除染テントと動力噴霧器を導入できたことにより、「獣医衛生学実習」(4年次)では実践的な家畜防疫訓練を実施している。単に講義により教育するのではなく、実際に機器を使用することで大きな教育効果を上げることができている。また、学内での実習とは別に大阪府が開催した「高病原性鳥インフルエンザ防疫訓練」(平成23年9月16日)に本学学生も参加させることで、大学独自が行う実習よりより実践的な実習を実施することができた(http://www.pref.osaka.jp/hodo/attach/hodo-08045_4.pdf)。

赤外線体表温度測定モニターは、「牧場実習」(3年次)という科目において、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所で飼育するウシに対して本機器を使用することで、実際の家畜防疫の第一線で使用する機器を使用した現実に即した実習を行うことができるようになった。また、「獣医微生物学実習」(3年次)では農場環境より分離した細菌に対してパルスフィールドゲル電気泳動装置による指紋解析を実施して、感染症原因微生物特定のための実技を習得させることが可能となった。このように、補正予算により様々な機器を導入できたことは、本学獣医学科の、特に家畜伝染病対策における教育を充実させる上で、非常の有益な実習環境の整備につながり、今後これらの設備を使用することで、ますます教育の充実を図るよう努力したい。

(臨床系)

・平成22年度補正予算で購入した血球計数装置、臨床化学分析装置、遠心機を用いて、大動物臨床Aにおいて牛の血液・生化学検査を実施し、代謝プロファイルテストの重要項目を実施した。こられの機器を導入したことにより従来実施できなかった牛の血液検査実習を実施できるようになり、産業動物臨床実習を充実させることができた。また、医療用術野カメラで手術・外科処置のモニター映写を行うことにより、多数の学生が同時に手技の詳細を見学できる教育環境を整えることができた。

・獣医繁殖学実習では、本補正予算で購入した携帯型エコーを用いて地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所で飼育している 牛の繁殖検診および妊娠診断等の実習を行った。従来は学内短期飼育の少数の非妊娠牛で実施していたため、実際の繁殖検診や早期妊娠 診断の実習が実施できなかったが、本事業をきっかけにこのような実習ができるようになった。

・獣医繁殖学実習では、本補正予算で購入した超音波卵胞内卵子経膣採取装置、各種顕微鏡、プログラムフリーザー、マイクロウォームプレートを用いて、経腟採卵、体外受精および胚の凍結保存などの生殖獣医療に関する先端的な実習を行うことができるようになった。

このように、補正予算により様々な機器を導入できたことで、本学の産業動物臨床の実習環境を向上させることができ、今後これらの設備を さらに活用することで、さらなる教育の充実を図るよう努力したい。

酪農学園大学

(応用系)購入設備:リアルタイムPCRシステム

利用状況:4年次後期の実習から研究室実習・卒業論文まで継続的に機器を学生に使用させることによって、手法及び機器の操作を習熟することが可能となり、実習の多様性や応用技術を踏まえた多角的かつ反復実施により、学生の理解と経験値を高めることが実現できている。教育効果:生産動物の集団管理及び予防衛生の重要性の高まり、人獣共通感染症に対するリスク管理及び食の安全確保など、生産現場から消費現場までを職域として網羅する獣医師に対する現代社会ニーズに応えるために、実践能力の高い獣医師-現場即応型獣医師-の育成を目的としている。関係実習室に当該設備の整備を行うことにより、感染症および公衆衛生分野の実習(参加型実習)における教育環境の充実を図ることができた。これらを通じて、本獣医学部教育の目的である実践能力の高い現場即応型獣医師の育成・輩出するために、家畜衛生・公衆衛生および関連研究施設で実地に行われている迅速な人獣共通感染症の診断技術修得が可能となった。

(臨床系)購入備品:携帯型高性能超音波装置システム一式

利用状況:当該備品を用いた農家での臨床実習を実施することにより、現地での臨床例の合理的診断・飼養管理法と疾病の関係を理解・農家 指導(コミュニケーション)が可能となっている。

また、小グループでの往診診療実習時に農場(カウサイド)で高度かつ合理性のある診療を体験させることが可能となり、臨床実習(参加型実習)の充実・強化を図っている。

教育効果:往診診療実習において当該機器を使用することによって、裏づけのある診療を行うことで質の高い臨床実習を体験しながら大動物 臨床の研究・教育に関する取組の充実・発展を図り、産業動物診療と生産防疫管理(牛群管理)および産業動物と生産農家(飼養管理場所と 実態)をよく理解した獣医学生の育成実現が可能となった。

北里大学

(応用系) 平成22年度大学改革推進等補助金「北里大学 家畜感染症・人獣共通感染症等対策分野における参加型実習の充実・強化」で、バイオハザード対策用キャビネット等を5台導入したことにより、参加型実習での、専門教育前期では、細菌学・ウイルス学・感染症学・寄生虫病学・家禽鳥類疾病学実習、専門教育後期では、獣医衛生学・獣医公衆衛生学(人獣共通感染症)実習の科目において、少人数のグループでの感染症における基礎実習(シミュレーション)が可能となった。安全キャビネットの取り扱い、安全キャビネット内での病原微生物のハンドリング(シミュレーション)など、臨場感のある実習が、一度に、20名前後が可能となり、これまでの立って見ているだけの実習から、実際に安全キャビネットを動かし、その中で、操作をすることが教育効果として極めて重要と感じている。

大動物臨床実習に関わる教員数は7名で、実習は動物病院付属大動物診療センターと学部敷地内にある獣医学部附属十和田農場を使用して実施している。実習用の動物を飼育する施設が2か所あり、大動物診療センター内のC棟では主に提供された病畜を飼育し、第2家畜棟では主に獣医繁殖学の実習牛を飼育している。

(臨床系)

- 1. ポータブル(ハンディタイプ)X線撮影装置: 牛や馬のX線撮影が自由な角度から可能になり、大いに診療と実習教育に活用されている。特に、馬の関節の撮影などでは、従来のポータブルX線撮影装置では角度修正が困難であったが、ハンディタイプのため、きれいに撮影することが可能となった。
- |2. 移動式手術台: 老朽化していた移動式手術台を更新し、帝王切開や食道梗塞、骨折などの手術に大いに活用され、実習にも利用している。クッションが充実したことで、馬の結腸捻転のような開腹手術でも術後の橈骨神経麻痺などの予防が充実した。
- 3. 削蹄用枠場: これまで削蹄枠場がなく、牛に負担をかける保定をしていたが、この米国製の枠の導入により、牛にも診察する獣医師にも楽で、かつ安全に削蹄や蹄病診断が可能となった。また、その他の診療にも活用でき、実習や診療で大変重宝している。
- 4. 心電計: 心電計が老朽化してため更新し、簡単に、かつ長時間の心電図を記録できるようになり、心疾患の診断に効果をあげている。 5. ポータブル超音波診断装置: 学外での繁殖障害および受精卵移植、妊娠鑑定において活用されまた、学内の実習においても活用されている。

日本大学

(応用系)本学では、平成22年度「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備」事業において家畜伝染病、人獣共通感染症、越境性動物疾病、新興・再興感染症対策を担う優秀な公務員獣医師の養成・強化を目的として、各種家畜伝染病および人獣共通感染症対策に関連した実習を充実・強化するために、これらの実習に不可欠な下記の設備・備品を整備した。

 バイオハザード対策用キャビネット 2台

 サーマルサイクラー 1台

 超微量分光光度計 1台

 ゲル撮影装置 1台

 CO2インキュベーター 2台

 超低温フリーザー 1台

 簡易型小動物吸入麻酔装置 1式

上記の設備の導入により、病原体の安全な取り扱いおよび最新の診断法や病原体の同定・分離及び保存のための設備・備品が整備され、各種家畜伝染病および人獣共通感染症対策に関連した実習の充実・強化において下記のような成果が得られた。

- ① 実習室に安全キャビネットが設置され、バイオセイフティの観点から安全な環境で学生が実習できる環境が一部ではあるが整った。
- ② 実習室に遺伝子診断法の実習に必要なサーマルサイクラー、吸光光度計及びゲル撮影装置が設置され、遺伝子診断技術を習得させる環境が整備された。
- ③ ウイルス・細菌の同定・分離及び保存のためのCO2インキュベーターおよびディープフリーザーが設置され、家畜伝染病や人獣共通感染症 対策関連の実習科目の充実が図られた。
- ④ エーテルに代わる麻酔装置が導入され、血清診断のための採血に必要となる安全な麻酔法を習得させることができるようになった。

今回の施設整備を契機として、感染症のみを取り扱う実習室の確保、学生数に対応した安全キャビネット数の充実など、今後とも各種家畜伝 染病および人獣共通感染症対策に関連した実習のより一層の充実・強化を図って、優秀な産業動物獣医師や公務員獣医師の養成・強化に向 けた教育に積極的に取り組む予定である。

日本獣医生命

(応用系)

【購入設備】

本学では、平成22年度補正予算による「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備」補助事業により、リアルタイムPCRシステム (Applied Biosystems 7500 リアルタイムPCRシステム)およびルミノイメージアナライザーシステム(ImageQuant LAS 4000miniシステム)を導入 した。

【利用状況】

上述の機器が導入された平成23年度は、実習で使用するサンプルの選定や実施条件の検討、実習日程の調整などを行っていたため、実際に学生達にサンプルを配布しての実践的な実習は出来なかった。しかし、感染症診断の基礎的事項や診断法の原理などを講義にて習得させ、さらに準備段階で得られた結果を学生達に配布して実践さながらの実習を行えた。昨年度は準備の段階であり、実際に学生達による機器の利用は不可能であったが、今年度の実習からは、学生達の手で実際に行わせる予定であるため、今年度から導入機器の利用頻度は格段に上がる事が予想される。

【導入による教育効果】

従来、本学では5年後期に寄生虫性感染症を仮定した疫学データと検体を与え、その解析から原因推定、提言までのシミュレーションを行う参加型実習を実施している。本実習により、食中毒および感染症発生時における疫学的対策の考案から実施までの実践的な考え方を習得させ、将来、行政職に就いた際に戦力となるような教育を行っている。しかしながら、実習機器の設備や期間等の問題から実施可能な感染症は寄生虫性のものに限定され、近年多発しているウイルス性や細菌性の感染症では実施出来ずにいた。補助事業で購入した機器により、従来では困難であったウイルス性や細菌性の感染症がは実施出来ずにいた。補助事業で購入した機器により、従来では困難であったウイルス性や細菌性の感染症がも気を問わず実習期間内で実施可能となった。実際に、平成23年度は講義と模擬データのみの実習であったが、導入前と比較して、学生にはあらゆる感染症発生時に対応出来る洞察力の向上が見られたことから、非常に高い教育効果が得られたと考える。

麻布大学

(応用系)平成22年度「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備」分野2ではフローサイトメーター(FCM)及びイメージアナライ ザー(IA)を購入整備した。獣医微生物学実習(3年後期)と家畜伝染病学実習(4年後期)において、ウイルス病の診断の項目で利用した。FCM は、細胞に対し各種パラメータを高分解能で測定できる機器であり、この機器を用いた実習によって、ウイルスの細胞への感染成立について 解析し、その技術を習得できた。また、IAは、化学発光を検出し、各種ブロッティングの解析を可能にする機器であり、この機器を用いることに より、SDS-PAGE及び抗原抗体反応の原理が理解でき、高度な感染症診断技術を習得することができた。これらの機器の整備を行うことによ り、参加型実習の教育環境の充実を図ることが出来た。

(臨床系)

1. 動物のレプリカ

おもに内科学実習、外科学実習及び臨床繁殖学実習に使用。各臓器や血管を直視して、その位置関係を学ぶことができるため、実際の動物 を用いた採血がスムーズに行えるようになった。また,外科手術手技の理解が確実なものとなった。さらに,直腸検査実習における卵巣や子宮 の触知が容易となった。

2. カラードプラ付デジタル超音波診断装置

おもに産業動物臨床実習、内科学実習、外科学実習及び臨床繁殖学実習に使用。血流をカラー動画として捕えられる。そのため、採血時の血 管の存在部位の確認、心疾患における血流異常の確認及び妊娠動物における胎子への血流の変化の確認が可能となった。このことにより、 これらに対する理解が確実なものとなった。 3. 赤外線サーモグラフィー

おもに産業動物臨床実習、内科学実習及び外科学実習に使用。体表における温度の違いを目視により確認できる。そのため、乳房や蹄など に炎症が生じている場合の発見の一助となり、これらの診断を正確に行えるようになった

以上の設備備品を用いて、全学生が実際に自らの手で触知し目で見て確認できる、より体験度の高い実習内容が可能となった。

【5】学生の就業動向に関する状況

平成18年度

北海道大	公務員			診療獣医師							
学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計		
人数 (割合)	5 (14.3%)	(5.7%)	(2.9%)	9 (25.7%)	(2.9%)	8 (22.9%)	4 (11.4%)	17 (48.6%)	35 (100.0%)		
世亡玄立	10.76 B										
帯広畜産 大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計		
人数 (割合)	5 (12.5%)	(0.0%)	5 (12.5%)	20 (50.0%)	6 (15.0%)	14 (35.0%)	4 (10.0%)	11 (27.5%)	40 (100.0%)		
岩手大学	八安昌			沙库附压红							
石于人子	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計		
人数 (割合)	11 (29.7%)	5 (13.5%)	6 (16.2%)	17 (45.9%)	(10.8%)	13 (35.1%)	1 (2.7%)	8 (21.6%)	37 (100.0%)		
	I 11 75 D			=A -= Wh -= 4=		Т	ı				
東京大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計		
人数 (割合)	(3.3%)	(0.0%)	(3.3%)	4 (13.3%)	(6.7%)	2 (6.7%)	13 (43.3%)	12 (40.0%)	30 (100.0%)		
+	1 11 7/r II			=							
東京農工大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計		
人数 (割合)	6 (14.6%)	及作曲注 2 (4.9%)	4 (9.8%)	21 (51.2%)	连来到初区 1 (2.4%)	20 (48.8%)	9 (22.0%)	5 (12.2%)	41 (100.0%)		
	T/										
岐阜大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計		
岐阜大学 人数 (割合)	公務員 5 (17.2%)	うち 農林畜産 5 (17.2%)	うち 公衆衛生 0 (0.0%)	診療獣医師 11 (37.9%)	うち <u>産業動物医</u> 3 (10.3%)		会社等 3 (10.3%)	その他 10 (34.5%)			
人数 (割合)	5 (17.2%)	農林畜産 5	公衆衛生 0	11 (37.9%)	<u>産業動物医</u> 3	小動物診療 8	3	10	合計 29 (100.0%)		
人数	5	農林畜産 5	公衆衛生 0	11	<u>産業動物医</u> 3	小動物診療 8	3	10	合計 29		
人数 (割合)	5 (17.2%)	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 3	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 3	11 (37.9%)	<u>産業動物医</u> 3 (10.3%) うち	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 15	3 (10.3%)	10 (34.5%)	合計 29 (100.0%) 卒業者数		
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	5 (17.2%) 公務員 6 (18.8%)	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 3	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 3	11 (37.9%) 診療獣医師 16 (50.0%)	産業動物医 3 (10.3%) うち 産業動物医 1	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 15	3 (10.3%) 会社等 3	10 (34.5%) その他	合計 29 (100.0%) 卒業者数合計 32 (100.0%)		
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	5 (17.2%) 公務員 6	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 3	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 3 (9.4%) うち 公衆衛生	11 (37.9%) 診療獣医師 16 (50.0%) 診療獣医師	産業動物医 3 (10.3%) うち 産業動物医 1 (3.1%)	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 15	3 (10.3%) 会社等 3	10 (34.5%) その他	合計 29 (100.0%) 卒業者数合計 32 (100.0%) 卒業者数合計		
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	5 (17.2%) 公務員 6 (18.8%)	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 (9.4%)	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 3 (9.4%)	11 (37.9%) 診療獣医師 16 (50.0%)	産業動物医 3 (10.3%) うち 産業動物医 1 (3.1%)	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 15 (46.9%)	3 (10.3%) 会社等 3 (9.4%)	10 (34.5%) その他 7 (21.9%)	合計 29 (100.0%) 卒業者数合計 32 (100.0%) 卒業者数		
人数 (割) 鳥取大学 人割 (割) 人割 人割 人割 人割	5 (17.2%) 公務員 6 (18.8%) 公務員 4 (13.3%)	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 (9.4%) うち 農林畜産 2	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (9.4%) うち 公衆衛生	11 (37.9%) 診療獣医師 (50.0%) 診療獣医師 22 (73.3%)	産業動物医 3 (10.3%) うち 産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 4	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 (46.9%) うち 小動物診療 小動物診療	3 (10.3%) 会社等 3 (9.4%) 会社等	10 (34.5%) その他 7 (21.9%) その他	合計 29 (100.0%) 卒業者数合計 32 (100.0%) 卒業者数合計 30 (100.0%)		
人(割) 点取 大(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 大(ョ) 大(5 (17.2%) 公務員 6 (18.8%) 公務員 4 (13.3%)	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 (9.4%) うち 農林畜産 2	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (9.4%) うち 公衆衛生 2	11 (37.9%) 診療獣医師 (50.0%) 診療獣医師 22 (73.3%)	産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (13.3%) うち	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 (46.9%) うち 小動物診療 (60.0%)	3 (10.3%) 会社等 3 (9.4%) 会社等	10 (34.5%) その他 7 (21.9%) その他	合計 29 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計		
人数 (割) 鳥取大学 人割 (割) 人割 人割 人割 人割	5 (17.2%) 公務員 6 (18.8%) 公務員 4 (13.3%)	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 (9.4%) うち 農林畜産 (6.7%) うち 農林畜産 1	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 3 (9.4%) うち 公衆衛生 2 (6.7%)	11 (37.9%) 診療獣医師 (50.0%) 診療獣医師 22 (73.3%)	産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (13.3%) うち	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 (46.9%) うち 小動物診療 18 (60.0%)	3 (10.3%) 会社等 (9.4%) 会社等	10 (34.5%) その他 7 (21.9%) その他 3 (10.0%)	合計 29 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 卒業者数		
人(割) 人(引) 人(引) 人(引) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) <tr< td=""><td>5 (17.2%) 公務員 6 (18.8%) 公務員 4 (13.3%) 公務員</td><td>農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 (9.4%) うち 農林畜産 (6.7%) うち 農林畜産 1</td><td>公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 3 (9.4%) うち 公衆衛生 2 (6.7%) うち 公衆衛生</td><td>11 (37.9%) 診療獣医師 (50.0%) 診療獣医師 (73.3%) 診療獣医師</td><td>産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (13.3%) うち 産業動物医 4 (13.3%)</td><td>小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 (46.9%) うち 小動物診療 (60.0%) うち 小動物診療</td><td>3 (10.3%) 会社等 3 (9.4%) 会社等 1 (3.3%) 会社等</td><td>10 (34.5%) その他 7 (21.9%) その他 3 (10.0%) その他</td><td>合計 29 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%)</td></tr<>	5 (17.2%) 公務員 6 (18.8%) 公務員 4 (13.3%) 公務員	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 (9.4%) うち 農林畜産 (6.7%) うち 農林畜産 1	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 3 (9.4%) うち 公衆衛生 2 (6.7%) うち 公衆衛生	11 (37.9%) 診療獣医師 (50.0%) 診療獣医師 (73.3%) 診療獣医師	産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (13.3%) うち 産業動物医 4 (13.3%)	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 (46.9%) うち 小動物診療 (60.0%) うち 小動物診療	3 (10.3%) 会社等 3 (9.4%) 会社等 1 (3.3%) 会社等	10 (34.5%) その他 7 (21.9%) その他 3 (10.0%) その他	合計 29 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%)		
人割 人割 人割 人割 人割 人割 大 人割 大 人 人	5 (17.2%) 公務員 6 (18.8%) 公務員 4 (13.3%)	農林畜産 5 (17.2%) うち 農林畜産 (9.4%) うち 農林畜産 (6.7%) うち 農林畜産 1	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 3 (9.4%) うち 公衆衛生 2 (6.7%) うち 公衆衛生	11 (37.9%) 診療獣医師 (50.0%) 診療獣医師 22 (73.3%) 診療獣医師	産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (13.3%) うち 産業動物医 (13.8%) うち 方ち (13.8%)	小動物診療 8 (27.6%) うち 小動物診療 (46.9%) うち 小動物診療 (60.0%) うち 小動物診療	3 (10.3%) 会社等 3 (9.4%) 会社等 1 (3.3%) 会社等	10 (34.5%) その他 7 (21.9%) その他 3 (10.0%) その他	合計 29 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計 29		

大阪府立	公務員			診療獣医師					卒業者数
大学		うち	うち		うち	うち	会社等	その他	午来有数 合計
r ster	_	農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			
人数	7	1	6	24	1	23	6	7	(4.00.00)
(割合)	(15.9%)	(2.3%)	(13.6%)	(54.5%)	(2.3%)	(52.3%)	(13.6%)	(15.9%)	(100.0%)
酪農学園	公務員			診療獣医師			1		L 4114 - 11-414
大学	五初兵	うち	うち	沙水水区叫	うち	うち	会社等	その他	卒業者数
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			合計
人数	27	12	10	82	12	71	6	32	147
(割合)	(18.4%)	(8.2%)	(6.8%)	(55.8%)	(8.2%)	(48.3%)	(4.1%)	(21.8%)	(100.0%)
北里大学	八致日			診療獣医師		Ī	Γ		
北里人子	公務員	うち	うち	衫 撩\	うち	うち	会社等	その他	卒業者数
		農林畜産	公衆衛生			リラ 小動物診療	五江寺	(0) 15	合計
人数	18	10	8	93	8	86	5	32	148
(割合)	(12.2%)	(6.8%)	(5.4%)	(62.8%)	(5.4%)	(58.1%)	(3.4%)	(21.6%)	(100.0%)
- 1 1 324	75 🗆								
日本大学	公務員	[<u></u>	<u> </u>	診療獣医師	2+	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	企 分生	この出	卒業者数
日本大学	公務員	うち農林系産	うち 公衆街生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
		農林畜産	うち 公衆衛生 7		うち 産業動物医 7	小動物診療			合計
日本大学 人数 (割合)	公務員 16 (11.7%)			診療獣医師 85 (62.0%)			会社等 3 (2.2%)	その他 33 (24.1%)	
人数 (割合)	16 (11.7%)	農林畜産 6	公衆衛生 7	85 (62.0%)	<u>産業動物医</u> 7	小動物診療 79	3	33	合計 137
人数(割合)	16	農林畜産 6 (4.4%)	公衆衛生 7 (5.1%)	85	<u>産業動物医</u> 7 (5.1%)	小動物診療 79 (57.7%)	(2.2%)	33 (24.1%)	合計 137 (100.0%)
人数 (割合)	16 (11.7%)	農林畜産 6 (4.4%)	公衆衛生 7 (5.1%)	85 (62.0%)	<u>産</u> 業動物医 7 (5.1%) うち	小動物診療 79 (57.7%)	3	33	合計 137
人数 (割合) 日本獣医 生命大学	16 (11.7%) 公務員	農林畜産 6 (4.4%) うち 農林畜産	公衆衛生 7 (5.1%) うち 公衆衛生	85 (62.0%) 診療獣医師	産業動物医 7 (5.1%) うち 産業動物医	小動物診療 79 (57.7%) うち 小動物診療	3 (2.2%) 会社等	33 (24.1%) その他	合計 137 (100.0%) 卒業者数 合計
人数 (割合) 日本獣医 生命大学 人数	16 (11.7%) 公務員 10	農林畜産 6 (4.4%) うち 農林畜産 5	公衆衛生 7 (5.1%) うち 公衆衛生 2	85 (62.0%) 診療獣医師 55	産業動物医 7 (5.1%) うち 産業動物医 3	小動物診療 79 (57.7%) うち 小動物診療 52	3 (2.2%) 会社等	33 (24.1%) その他	合計 137 (100.0%) 卒業者数 合計 100
人数 (割合) 日本獣医 生命大学	16 (11.7%) 公務員	農林畜産 6 (4.4%) うち 農林畜産	公衆衛生 7 (5.1%) うち 公衆衛生	85 (62.0%) 診療獣医師	産業動物医 7 (5.1%) うち 産業動物医	小動物診療 79 (57.7%) うち 小動物診療	3 (2.2%) 会社等	33 (24.1%) その他	合計 137 (100.0%) 卒業者数 合計
人数 (割合) 日本獣医 生命大学 人数	16 (11.7%) 公務員 10	農林畜産 6 (4.4%) うち 農林畜産 5 (5.0%)	公衆衛生 7 (5.1%) うち 公衆衛生 2 (2.0%)	85 (62.0%) 診療獣医師 55	産業動物医 7 (5.1%) うち 産業動物医 3 (3.0%)	小動物診療 79 (57.7%) うち 小動物診療 52 (52.0%)	3 (2.2%) 会社等 6 (6.0%)	33 (24.1%) その他 29 (29.0%)	合計 137 (100.0%) 卒業者数 合計 100 (100.0%)
人数 (割合) 日本獣医 生命大学 人数 (割合)	16 (11.7%) 公務員 10 (10.0%)	農林畜産 6 (4.4%) うち 農林畜産 5 (5.0%)	公衆衛生 7 (5.1%) うち 公衆衛生 2 (2.0%)	85 (62.0%) 診療獣医師 55 (55.0%)	産業動物医 7 (5.1%) うち 産業動物医 3 (3.0%)	小動物診療 79 (57.7%) うち 小動物診療 52 (52.0%)	3 (2.2%) 会社等	33 (24.1%) その他	合計 137 (100.0%) 卒業者数合計 100 (100.0%) 卒業者数
人数 (割合) 日本獣医 生命大学 人数 (割合)	16 (11.7%) 公務員 10 (10.0%)	農林畜産 6 (4.4%) うち 農林畜産 (5.0%) うち 農林畜産	公衆衛生 (5.1%) うち 公衆衛生 (2.0%) うち 公衆衛生	85 (62.0%) 診療獣医師 55 (55.0%) 診療獣医師	産業動物医 7 (5.1%) うち 産業動物医 3 (3.0%) うち 産業動物医	小動物診療 79 (57.7%) うち 小動物診療 52 (52.0%) うち 小動物診療	3 (2.2%) 会社等 6 (6.0%)	33 (24.1%) その他 29 (29.0%) その他	合計 137 (100.0%) 卒業者数 合計 100 (100.0%) 卒業者数 合計
人数 (割合) 日本獣医 生命大学 人数 (割合)	16 (11.7%) 公務員 10 (10.0%)	農林畜産 6 (4.4%) うち 農林畜産 5 (5.0%)	公衆衛生 7 (5.1%) うち 公衆衛生 2 (2.0%)	85 (62.0%) 診療獣医師 55 (55.0%)	産業動物医 7 (5.1%) うち 産業動物医 3 (3.0%)	小動物診療 79 (57.7%) うち 小動物診療 52 (52.0%)	3 (2.2%) 会社等 6 (6.0%)	33 (24.1%) その他 29 (29.0%)	合計 137 (100.0%) 卒業者数合計 100 (100.0%) 卒業者数

合計	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち	うち		うち	うち	会社等	その他	合計
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			
人数	136	60	62	583	68	518	76	253	1048
(割合)	(13.0%)	(5.7%)	(5.9%)	(55.6%)	(6.5%)	(49.4%)	(7.3%)	(24.1%)	(100.0%)

平成19年度

北海道大	公務員			診療獣医師					
学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	6 (13.0%)	2 (4.3%)	(6.5%)	9 (19.6%)	(8.7%)	6 (13.0%)	10 (21.7%)	21 (45.7%)	46 (100.0%)
(刮口)	(13.0%)	(4.3%)	(0.5%)	(19.0%)	(0.7%)	(13.0%)	(Z1.7%)	(43.7%)	(100.0%)
帯広畜産	公務員			診療獣医師					卒業者数
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	5	2	1	18	6	12	8	14	45
(割合)	(11.1%)	(4.4%)	(2.2%)	(40.0%)	(13.3%)	(26.7%)	(17.8%)	(31.1%)	(100.0%)
岩手大学	公務員		_	診療獣医師					卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	6	3	2	19	6	13	3	5	33
(割合)	(18.2%)	(9.1%)	(6.1%)	(57.6%)	(18.2%)	(39.4%)	(9.1%)	(15.2%)	(100.0%)
東京大学	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	1	辰 怀 宙性 1	公米用土 0	6	<u> </u>	小 期 初 衫 旗 5	10	13	30
(割合)	(3.3%)	(3.3%)	(0.0%)	(20.0%)	(3.3%)	(16.7%)	(33.3%)	(43.3%)	(100.0%)
東京農工	公務員			診療獣医師					العاد ميات مالد
大学	2335	うち	うち		うち	うち	会社等	その他	卒業者数 合計
l 米h	6	農林畜産	公衆衛生	13	産業動物医		6	7	32
人数 (割合)	6 (18.8%)	4 (12.5%)	(3.1%)	(40.6%)	3 (9.4%)	10 (31.3%)	(18.8%)	(21.9%)	(100.0%)
						(0.10,0)	(,		
社色十尚	八致日			沙虎附左 4		(0.11070)	(,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	·	
岐阜大学	公務員	うち		診療獣医師	うち				卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
岐阜大学 人数 (割合)	公務員 4 (13.3%)	うち 農林畜産 4 (13.3%)	うち	診療獣医師 12 (40.0%)	うち 産業動物医 1 (3.3%)	うち			卒業者数
人数 (割合)	(13.3%)	農林畜産 4	うち 公衆衛生 0	12 (40.0%)	<u>産業動物医</u> 1	うち 小動物診療 11	会社等 4	その他 10	卒業者数 合計 30
人数	4	農林畜産 4 (13.3%)	うち 公衆衛生 0 (0.0%)	12	<u>産業動物医</u> 1 (3.3%)	うち 小動物診療 11 (36.7%)	会社等 4 (13.3%)	その他 10 (33.3%)	卒業者数 合計 30 (100.0%) 卒業者数
人数(割合)	(13.3%)	農林畜産 4 (13.3%) うち 農林畜産	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生	12 (40.0%) 診療獣医師	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医	うち 小動物診療 11 (36.7%) うち 小動物診療	会社等 4 (13.3%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他	卒業者数合計 30(100.0%) 卒業者数合計
人数(割合)	4 (13.3%) 公務員	農林畜産 4 (13.3%) うち 農林畜産 2	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生	12 (40.0%) 診療獣医師 23	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 3	うち 小動物診療 11 (36.7%) うち 小動物診療 20	会社等 4 (13.3%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6	卒業者数 合計 30 (100.0%) 卒業者数 合計 39
人数(割合)	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%)	農林畜産 4 (13.3%) うち 農林畜産 2	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%)	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医	うち 小動物診療 11 (36.7%) うち 小動物診療 20	会社等 4 (13.3%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他	卒業者数 合計 30 (100.0%) 卒業者数 合計
人数(割合)	4 (13.3%) 公務員	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%)	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (12.8%)	12 (40.0%) 診療獣医師 23	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 3 (7.7%)	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 20 (51.3%)	会社等 (13.3%) 会社等 3 (7.7%)	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%)	卒業者数合計 30(100.0%) 卒業者数合計 39(100.0%) 卒業者数
人数(割合)	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%)	農林畜産 4 (13.3%) うち 農林畜産 2	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%)	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%)	うち 小動物診療 11 (36.7%) うち 小動物診療 20	会社等 4 (13.3%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6	卒業者数 合計 30 (100.0%) 卒業者数 合計 39 (100.0%)
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合) 山口大学	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 の	うち 公衆衛生 0(0.0%) うち 公衆衛生 うち (12.8%) うち 公衆衛生 6	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 3	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 15	会社等 (13.3%) 会社等 3 (7.7%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他	卒業者数合計 30 (100.0%) 卒業者数合計 39 (100.0%) 卒業者数合計 31
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%)	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産	うち 公衆衛生 0(0.0%) うち 公衆衛生 5(12.8%) うち 公衆衛生	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療	会社等 (13.3%) 会社等 3 (7.7%)	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他	卒業者数合計 30 (100.0%) 卒業者数合計 39 (100.0%) 卒業者数合計
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合) 山口大学	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 (0.0%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち (12.8%)	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 3 (9.7%)	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 15 (48.4%)	会社等 (13.3%) 会社等 3 (7.7%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他 5 (16.1%)	卒業者数合計 30(100.0%) 卒業者数合計 (100.0%) 卒業者数合計 (100.0%)
人数 (割合) 鳥取大学 人割 人割 人割 人割 人割	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員 6 (19.4%)	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 (0.0%)	うち 公衆衛生 0(0.0%) うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6(19.4%)	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師 18 (58.1%)	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 (9.7%)	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 (48.4%)	会社等 (13.3%) 会社等 3 (7.7%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他	卒業者数 30 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計 31
人数 (割) 本 (割) 本 () 本 () 本 () 本 () 本 () 本 () 本 () 本 (4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員 6 (19.4%)	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 (0.0%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6 (19.4%) うち 公衆衛生 4	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師 18 (58.1%)	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 (9.7%) うち 産業動物医 0	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 (48.4%) うち 小動物診療	会社等 (13.3%) 会社等 (7.7%) 会社等 (6.5%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他 5 (16.1%) その他 6	卒業者数 30 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 本業者数 合計 31 (31
人(割) 点取 大学 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 大(n) 大(n)	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員 6 (19.4%)	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 (0.0%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6 (19.4%) うち 公衆衛生	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師 18 (58.1%)	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 (9.7%) うち 産業動物医	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 (48.4%) うち (48.4%)	会社等 (13.3%) 会社等 (7.7%) 会社等 (6.5%)	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他 5 (16.1%) その他	卒業者数 30 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 本業者数 本業者数 合計
人(割) 人(引) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) <tr< td=""><td>4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員 6 (19.4%) 公務員</td><td>農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 (0.0%)</td><td>うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6 (19.4%) うち 公衆衛生 4</td><td>12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師 (58.1%) 診療獣医師</td><td>産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 (9.7%) うち 産業動物医 0</td><td>うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 (48.4%) うち 小動物診療</td><td>会社等 (13.3%) 会社等 (7.7%) 会社等 (6.5%) 会社等</td><td>その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他 5 (16.1%) その他 6</td><td>卒業者数 30 (100.0%) 卒業者計 39 (100.0%) 卒業者数 31 (100.0%) 卒業者数 31 (100.0%)</td></tr<>	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員 6 (19.4%) 公務員	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 (0.0%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6 (19.4%) うち 公衆衛生 4	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師 (58.1%) 診療獣医師	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 (9.7%) うち 産業動物医 0	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 (48.4%) うち 小動物診療	会社等 (13.3%) 会社等 (7.7%) 会社等 (6.5%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他 5 (16.1%) その他 6	卒業者数 30 (100.0%) 卒業者計 39 (100.0%) 卒業者数 31 (100.0%) 卒業者数 31 (100.0%)
人割 人割 人割 人割 人割 人割 人割 方 人割 人数 人数 人数	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員 6 (19.4%)	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 (0.0%) うち 農林畜産 4 (12.9%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6 (19.4%) うち 公衆衛生 19.4%) うち うち 公衆衛生	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師 18 (58.1%)	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 (9.7%) うち 産業動物医 (9.7%)	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 (48.4%) うち 小動物診療 15 (48.4%) うち 小動物診療	会社等 (13.3%) 会社等 (7.7%) 会社等 (6.5%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他 5 (16.1%) その他 6	卒業者数 30 (100.0%) 卒業者計 39 (100.0%) 卒業者計 31 (100.0%) 卒業者計 31 (100.0%) 卒業者数
人(割)人(割)人(割)人(割)上人(1)上<	4 (13.3%) 公務員 7 (17.9%) 公務員 6 (19.4%) 公務員	農林畜産 (13.3%) うち 農林畜産 (5.1%) うち 農林畜産 (0.0%) うち 農林畜産 4 (12.9%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6 (19.4%) うち 公衆衛生 4 (12.9%)	12 (40.0%) 診療獣医師 23 (59.0%) 診療獣医師 (58.1%) 診療獣医師	産業動物医 (3.3%) うち 産業動物医 (7.7%) うち 産業動物医 (9.7%) うち 産業動物医 (9.7%)	うち 小動物診療 (36.7%) うち 小動物診療 (51.3%) うち 小動物診療 (48.4%) うち (48.4%)	会社等 (13.3%) 会社等 (7.7%) 会社等 (6.5%) 会社等	その他 10 (33.3%) その他 6 (15.4%) その他 5 (16.1%) その他 6 (19.4%)	卒業者数 30 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%)

大阪府立	公務員			診療獣医師					卒業者数
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数 (割合)	7 (15.9%)	2 (4.5%)	(9.1%)	22 (50.0%)	1 (2.3%)	21 (47.7%)	5 (11.4%)	10 (22.7%)	44 (100.0%)
(1)11/	(101070)	(11070)	(0.1.70)	(00:070)	(=1070)	(1117,07	(,	(==://0/	(1001070)
酪農学園	公務員			診療獣医師					卒業者数
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	20	(5.0%)	11	71	19	52	7	38	136
(割合)	(14.7%)	(5.9%)	(8.1%)	(52.2%)	(14.0%)	(38.2%)	(5.1%)	(27.9%)	(100.0%)
北里大学	公務員			診療獣医師					众类
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数	11	3	8	94	5	89	5	24	134
(割合)	(8.2%)	(2.2%)	(6.0%)	(70.1%)	(3.7%)	(66.4%)	(3.7%)	(17.9%)	(100.0%)
日本大学	八致昌			=^ - - × · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			1		
ロサハナ	公伤貝			診療獣医師					女************************************
ロボハナ	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数	13	農林畜産 0	公衆衛生 2	87	産業動物医 10	小動物診療 81	6	40	合計 146
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			合計
人数 (割合)	13 (8.9%)	農林畜産 0	公衆衛生 2	87 (59.6%)	産業動物医 10	小動物診療 81	6	40	合計 146 (100.0%)
人数	13	農林畜産 0 (0.0%) うち	公衆衛生 2 (1.4%)	87 (59.6%) 診療獣医師	<u>産業動物医</u> 10 (6.8%) うち	小動物診療 81 (55.5%) うち	6	40	合計 146 (100.0%) 卒業者数
人数 (割合) 日本獣医 生命大学	13 (8.9%) 公務員	農林畜産 0 (0.0%) うち 農林畜産	公衆衛生 2 (1.4%) うち 公衆衛生	87 (59.6%) 診療獣医師	産業動物医 10 (6.8%) うち 産業動物医	小動物診療 81 (55.5%) うち 小動物診療	6 (4.1%) 会社等	40 (27.4%) その他	合計 146 (100.0%) 卒業者数 合計
人数(割合)	13 (8.9%)	農林畜産 0 (0.0%) うち	公衆衛生 2 (1.4%)	87 (59.6%) 診療獣医師	<u>産業動物医</u> 10 (6.8%) うち	小動物診療 81 (55.5%) うち	(4.1%)	40 (27.4%)	合計 146 (100.0%) 卒業者数
人数 (割合) 日本獣医 生命大学 人数 (割合)	13 (8.9%) 公務員 8 (7.6%)	農林畜産 0 (0.0%) うち 農林畜産 6	公衆衛生 2 (1.4%) うち 公衆衛生	87 (59.6%) 診療獣医師 62 (59.0%)	産業動物医 10 (6.8%) うち 産業動物医 6	小動物診療 81 (55.5%) うち 小動物診療 56	6 (4.1%) 会社等	40 (27.4%) その他	合計 146 (100.0%) 卒業者数 合計 105
人数 (割合) 日本獣医 生命大学 人数	13 (8.9%) 公務員 8	農林畜産 (0.0%) うち 農林畜産 (5.7%)	公衆衛生 2 (1.4%) うち 公衆衛生 1 (1.0%)	87 (59.6%) 診療獣医師 62 (59.0%) 診療獣医師	産業動物医 (6.8%) うち 産業動物医 (5.7%)	小動物診療 81 (55.5%) うち 小動物診療 56 (53.3%)	6 (4.1%) 会社等	40 (27.4%) その他	合計 146 (100.0%) 卒業者数 合計 105
人数 (割合) 日本獣医 生命大学 人数 (割合)	13 (8.9%) 公務員 8 (7.6%)	農林畜産 (0.0%) うち 農林畜産 (5.7%)	公衆衛生 2 (1.4%) うち 公衆衛生 1 (1.0%)	87 (59.6%) 診療獣医師 62 (59.0%) 診療獣医師	産業動物医 (6.8%) うち 産業動物医 (5.7%)	小動物診療 81 (55.5%) うち 小動物診療 56 (53.3%)	6 (4.1%) 会社等 5 (4.8%)	40 (27.4%) その他 30 (28.6%)	合計 146 (100.0%) 卒業者数合計 105 (100.0%) 卒業者数

合計	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち	うち			うち	会社等	その他	合計
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			
人数	127	48	57	569	83	491	88	291	1075
(割合)	(11.8%)	(4.5%)	(5.3%)	(52.9%)	(7.7%)	(45.7%)	(8.2%)	(27.1%)	(100.0%)

平成20年度

北海道大	公務員			診療獣医師		I	I		Alle Met
学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生	**************************************	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	7 (17.1%)	7 (17.1%)	(0.0%)	8 (19.5%)	(4.9%)	6 (14.6%)	12 (29.3%)	14 (34.1%)	41 (100.0%)
(刮石)	(17.1%)	(17.1%)	(0.0%)	(19.5%)	(4.9%)	(14.0%)	(29.3%)	(34.1%)	(100.0%)
帯広畜産	公務員			診療獣医師					卒業者数
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数 (割合)	8 (19.5%)	(0.0%)	(0.0%)	22 (53.7%)	9 (22.0%)	13 (31.7%)	5 (12.2%)	6 (14.6%)	41 (100.0%)
		(0.070)	(0.070)		(221070)	(011770)	(12,2,0)	(11.0%)	(100.070)
岩手大学	公務員	7.4	7.4	診療獣医師	7.4	7-1	△≒	7 A 14	卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	8	2	5	14	7	7	(0.4%)	9	33
(割合)	(24.2%)	(6.1%)	(15.2%)	(42.4%)	(21.2%)	(21.2%)	(6.1%)	(27.3%)	(100.0%)
東京大学	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	2	長怀苗庄 2	公米用工 0	7	<u> </u>	<u>小 期 初 砂 凉</u> 5	11	10	30
(割合)	(6.7%)	(6.7%)	(0.0%)	(23.3%)	(6.7%)	(16.7%)	(36.7%)	(33.3%)	(100.0%)
東京農工	公務員			診療獣医師			1		
大学	公伤貝	うち	うち	砂炼制区训	うち	うち	会社等	その他	卒業者数
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			合計
人数 (割合)	6 (19.4%)	(6.5%)	4 (12.9%)	15 (48.4%)	(0.0%)	15 (48.4%)	8 (25.8%)	2 (6.5%)	31 (100.0%)
	•	•			•				
	I 75 F			- A - L- W I: / -					
岐阜大学	公務員	う _た		診療獣医師	うた	うた	全 社笙	その他	卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	13	農林畜産 13	うち 公衆衛生 0	12	産業動物医 2	小動物診療 10	2	4	合計 31
人数 (割合)	13 (41.9%)	農林畜産	うち 公衆衛生	12 (38.7%)	産業動物医	小動物診療			合計
人数	13	農林畜産 13 (41.9%)	うち 公衆衛生 0 (0.0%)	12	<u>産業動物医</u> 2 (6.5%)	小動物診療 10 (32.3%)	(6.5%)	(12.9%)	合計 31 (100.0%)
人数(割合)	13 (41.9%)	農林畜産 13	うち 公衆衛生 0	12 (38.7%) 診療獣医師	産業動物医 2 (6.5%) うち 産業動物医	小動物診療 10 (32.3%)	2	4 (12.9%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 合計
人数(割合)	13 (41.9%) 公務員 9	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 3	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生	12 (38.7%) 診療獣医師 20	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 0	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20	2 (6.5%) 会社等	4 (12.9%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 合計 38
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	13 (41.9%) 公務員	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 3	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生	12 (38.7%) 診療獣医師	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 0	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療	2 (6.5%) 会社等	4 (12.9%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 合計
人数(割合)	13 (41.9%) 公務員 9	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 3 (7.9%)	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (13.2%)	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20 (52.6%)	2 (6.5%) 会社等 1 (2.6%)	4 (12.9%) その他 8 (21.1%)	合計 (100.0%) 卒業者数 合計 38 (100.0%)
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%)	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 3 (7.9%)	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (13.2%)	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20 (52.6%)	2 (6.5%) 会社等	4 (12.9%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 合計 38
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合) 山口大学	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%)	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 3 (7.9%)	うち 公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (13.2%)	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20 (52.6%)	2 (6.5%) 会社等 1 (2.6%)	4 (12.9%) その他 8 (21.1%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 合計 38 (100.0%) 卒業者数
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%)	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 (7.9%) うち 農林畜産	うち 公衆衛生 の (0.0%) うち 公衆衛生 5 (13.2%) うち 公衆衛生	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20 (52.6%) うち 小動物診療	2 (6.5%) 会社等 1 (2.6%)	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数合計 38 (100.0%) 卒業者数合計
人数(割合) 鳥取大学 人数(割口大学 人数(割合)	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%) 公務員 5 (15.6%)	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 (7.9%) うち 農林畜産 2	うち 公衆衛生 の (0.0%) うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 2	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師 14 (43.8%)	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 の (0.0%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20 (52.6%) うち 小動物診療 14	2 (6.5%) 会社等 1 (2.6%) 会社等	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数合計 38 (100.0%) 卒業者数合計 32 (100.0%)
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合) 山口大学	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%) 公務員	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 (7.9%) うち 農林畜産 (6.3%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 2 (6.3%)	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 (52.6%) うち 小動物診療 14 (43.8%)	2 (6.5%) 会社等 1 (2.6%) 会社等	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 企業者数 李業者数 李業者数
人数(割) 人割 人割 人割 合 大学 人割 一人数合 一大学 人割 一大 一人割 一大 一人割 一大	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%) 公務員 5 (15.6%)	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 (7.9%) うち 農林畜産 (6.3%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 2 (6.3%)	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師 14 (43.8%)	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20 (52.6%) うち 小動物診療 14 (43.8%)	2 (6.5%) 会社等 (2.6%) 会社等 5 (15.6%)	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他 8 (25.0%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計
人数(割合) 鳥取大学 人数(割口大学 人数(割合)	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%) 公務員 5 (15.6%)	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 (7.9%) うち 農林畜産 (6.3%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 2 (6.3%)	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師 14 (43.8%)	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 (52.6%) うち 小動物診療 14 (43.8%)	2 (6.5%) 会社等 (2.6%) 会社等 5 (15.6%)	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他 8 (25.0%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 企業者数 李業者数 李業者数
人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割) 人(割)	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%) 公務員 (15.6%) 公務員	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 77.9%) うち 農林畜産 (6.3%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 (6.3%) うち 公衆衛生	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師 4 (43.8%) 診療獣医師 21 (65.6%)	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 (52.6%) うち 小動物診療 14 (43.8%) うち 小動物診療	2 (6.5%) 会社等 (2.6%) 会社等 5 (15.6%) 会社等	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他 8 (25.0%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%)
人(割)人(割)人(割)人(割)上人(1)上<	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%) 公務員 5 (15.6%)	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 7.9%) うち 農林畜産 (6.3%) うち 農林畜産 2 (6.3%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 2 (6.3%) うち 公衆衛生 1 (3.1%)	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師 14 (43.8%) 診療獣医師	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (37.5%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20 (52.6%) うち 小動物診療 14 (43.8%) うち 小動物診療 9 (28.1%)	2 (6.5%) 会社等 (2.6%) 会社等 (15.6%) 会社等	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他 (25.0%) その他 6 (18.8%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 本業者数 주業者数 주業者数 本業者数
人(割) 人(割) 人(割) 山 人(割) 大 人(割) 財 人(割) 大 人(割) 財 人(割) 大 人(割) 大	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%) 公務員 (15.6%) 公務員	農林畜産 13 (41.9%) うち 農林畜産 77.9%) うち 農林畜産 (6.3%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 (6.3%) うち 公衆衛生	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師 4 (43.8%) 診療獣医師 21 (65.6%)	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (37.5%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 (52.6%) うち 小動物診療 14 (43.8%) うち 小動物診療	2 (6.5%) 会社等 (2.6%) 会社等 5 (15.6%) 会社等	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他 8 (25.0%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%)
人(割)人(割)人(割)人(割)上人(1)上<	13 (41.9%) 公務員 9 (23.7%) 公務員 (15.6%) 公務員	農林畜産 (41.9%) うち 農林畜産 (7.9%) うち 農林畜産 (6.3%) うち 農林畜産 (6.3%) うち 農林畜産 (6.3%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 2 (6.3%) うち 公衆衛生 うち 公衆衛生	12 (38.7%) 診療獣医師 20 (52.6%) 診療獣医師 4 (43.8%) 診療獣医師 21 (65.6%)	産業動物医 (6.5%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (37.5%)	小動物診療 10 (32.3%) うち 小動物診療 20 (52.6%) うち 小動物診療 14 (43.8%) うち 小動物診療 9 (28.1%)	2 (6.5%) 会社等 (2.6%) 会社等 (15.6%) 会社等	4 (12.9%) その他 8 (21.1%) その他 (25.0%) その他 6 (18.8%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 本業者数 주業者数 주業者数 本業者数

大阪府立	公務員			診療獣医師					六类字 粉
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	12 (27.9%)	(7.0%)	5 (11.6%)	22 (51.2%)	1 (2.3%)	21 (48.8%)	3 (7.0%)	6 (14.0%)	43 (100.0%)
酪農学園	公務員			診療獣医師			1		
大学	公伤员	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	砂炼砂区叫	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	23 (16.5%)	11 (7.9%)	11 (7.9%)	78 (56.1%)	18 (12.9%)	60 (43.2%)	5 (3.6%)	33 (23.7%)	139 (100.0%)
北里大学	公務員			診療獣医師		<u> </u>	T		
北王八子	公伤貝	うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	18 (12.1%)	6 (4.0%)	12 (8.1%)	94 (63.1%)	5 (3.4%)	89 (59.7%)	5 (3.4%)	32 (21.5%)	149 (100.0%)
	ハ 정 므			-人,		I			
日本大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	14 (10.7%)	2 (1.5%)	1 (0.8%)	78 (59.5%)	11 (8.4%)	71 (54.2%)	5 (3.8%)	34 (26.0%)	131 (100.0%)
口十些压	ハ 羽 므			公庄坐压在		I			
日本獣医 生命大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	5 (5.6%)	及亚国 1 (1.1%)	3 (3.3%)	44 (48.9%)	6 (6.7%)	38 (42.2%)	5 (5.6%)	36 (40.0%)	90 (100.0%)
*************************************	ハ 羽 므			沙库坐压在		I			
麻布大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数	21	及祁田庄 9	12	80	<u> </u>	71 到 70 10 15 1 5 72	9	31	141

合計	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち	うち		うち	うち	会社等	その他	合計
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			
人数	160	69	62	549	91	462	82	245	1036
(割合)	(15.4%)	(6.7%)	(6.0%)	(53.0%)	(8.8%)	(44.6%)	(7.9%)	(23.6%)	(100.0%)

平成21年度

北海道大	公務員			診療獣医師		Ī	I		Alle Met
学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	6 (14.3%)	6 (14.3%)	0 (0.0%)	12 (28.6%)	7 (16.7%)	5 (11.9%)	7 (16.7%)	17 (40.5%)	42 (100.0%)
	(14.3/0)	(14.3/0)	(0.0%)	(20.0%)	(10.7/0)	(11.9/0)	(10.7/0)	(40.3%)	(100.0%)
帯広畜産	公務員	- L		診療獣医師	- L	- L	∧ ±1 ₩	7 0 111	卒業者数
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	6	0	0	17	5	12	9	10	42
(割合)	(14.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(40.5%)	(11.9%)	(28.6%)	(21.4%)	(23.8%)	(100.0%)
岩手大学	公務員			診療獣医師	r= .		A 11.46		卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	9	7	2	22	6	16	1	4	36
(割合)	(25.0%)	(19.4%)	(5.6%)	(61.1%)	(16.7%)	(44.4%)	(2.8%)	(11.1%)	(100.0%)
東京大学	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	3	及作田庄 3	<u> </u>	1	<u> </u>	0 11 到 12 12 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13	7	17	28
(割合)	(10.7%)	(10.7%)	(0.0%)	(3.6%)	(3.6%)	(0.0%)	(25.0%)	(60.7%)	(100.0%)
東京農工	公務員			診療獣医師					*************************************
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数	6	2	4	20	4	16	6	6	38
(割合)	(15.8%)	(5.3%)	(10.5%)	(52.6%)	(10.5%)	(42.1%)	(15.8%)	(15.8%)	(100.0%)
岐阜大学	公務員			診療獣医師					应 業者数
岐阜大学	公務員	うち 農林畜産	うち	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数	10	農林畜産 6	うち 公衆衛生 4	12	産業動物医 1	小動物診療 11	1	9	合計 32
		農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医 1 (3.1%)	小動物診療			合計
人数	10	農林畜産 6 (18.8%)	うち 公衆衛生 4 (12.5%)	12	<u>産業動物医</u> 1 (3.1%)	小動物診療 11 (34.4%)	(3.1%)	9 (28.1%)	合計 32 (100.0%)
人数 (割合)	(31.3%)	農林畜産 6 (18.8%)	うち 公衆衛生 4 (12.5%) うち	12 (37.5%)	産業動物医 1 (3.1%)	小動物診療 11 (34.4%)	1	9	合計 32
人数(割合)	10 (31.3%) 公務員	農林畜産 6 (18.8%) うち 農林畜産 5	うち 公衆衛生 (12.5%) うち 公衆衛生 6	12 (37.5%) 診療獣医師 17	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 3	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 14	(3.1%) 会社等	9 (28.1%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数 合計 35
人数(割合)	10 (31.3%) 公務員	農林畜産 6 (18.8%) うち 農林畜産 5	うち 公衆衛生 (12.5%) うち 公衆衛生 6	12 (37.5%) 診療獣医師	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 3	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療	1 (3.1%) 会社等	9 (28.1%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数 合計
人数(割合)	10 (31.3%) 公務員	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 5 (14.3%)	うち 公衆衛生 (12.5%) うち 公衆衛生 (17.1%)	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%)	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 14 (40.0%)	1 (3.1%) 会社等 2 (5.7%)	9 (28.1%) その他 5 (14.3%)	合計 32 (100.0%) 卒業者数合計 35 (100.0%)
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%)	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 (14.3%)	うち 公衆衛生 (12.5%) うち 公衆衛生 (17.1%)	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%)	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 14 (40.0%)	(3.1%) 会社等	9 (28.1%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数 合計 35
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合) 山口大学	10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%) 公務員	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 (14.3%) うち 農林畜産 2	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6 (17.1%) うち 公衆衛生	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医 3	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 (40.0%) うち 小動物診療 小動物診療 13	(3.1%) 会社等 2 (5.7%) 会社等	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数合計 35 (100.0%) 卒業者数合計 29
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%)	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 (14.3%) うち 農林畜産	うち 公衆衛生 (12.5%) うち 公衆衛生 (17.1%)	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 14 (40.0%) うち 小動物診療	(3.1%) 会社等 2 (5.7%)	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数合計 (100.0%) 卒業者数合計
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合) 山口大学	10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%) 公務員	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 うち 農林畜産 (14.3%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 6 (17.1%) うち 公衆衛生 1 (3.4%)	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医 3 (10.3%)	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 (40.0%) うち 小動物診療 13 (44.8%)	(3.1%) 会社等 2 (5.7%) 会社等 4 (13.8%)	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他 6 (20.7%)	合計 32 (100.0%) 卒業者数合計 35 (100.0%) 卒業者数合計 29 (100.0%)
人数 (割合) 鳥取大学 人割合) 山口大学 人割合)	10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%) 公務員 3 (10.3%)	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 うち 農林畜産 (6.9%)	うち 公衆衛生 (12.5%) うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 1 (3.4%)	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師 16 (55.2%)	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医 3 (10.3%)	小動物診療 (34.4%) うち 小動物診療 (40.0%) うち 小動物診療 13 (44.8%)	(3.1%) 会社等 2 (5.7%) 会社等	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数合計 35 (100.0%) 卒業者数合計 29
人数 (割) 本 (割) 本 () 本 () 本 () 本 () 本 () 本 () 本 () 本 (10 (31.3%) 公務員 (31.4%) 公務員 (10.3%)	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 うち 農林畜産 (6.9%) うち 農林畜産	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 (17.1%) うち 公衆衛生 (3.4%) うち 公衆衛生 5	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師 (55.2%) 診療獣医師	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 3 (8.6%) うち 産業動物医 3 (10.3%) うち 産業動物医 7	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 (40.0%) うち 小動物診療 13 (44.8%) うち 小動物診療	(3.1%) 会社等 (5.7%) 会社等 (13.8%)	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他 6 (20.7%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計 容 33
人割 (割) (割) (割) (割) (割) (割) (割) (割) (割) (割	10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%) 公務員 3 (10.3%)	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 うち 農林畜産 (6.9%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 (17.1%) うち 公衆衛生 (3.4%) うち 公衆衛生	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師 (55.2%)	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医 3 (10.3%)	小動物診療 (34.4%) うち 小動物診療 (40.0%) うち 小動物診療 13 (44.8%)	(3.1%) 会社等 (5.7%) 会社等 4 (13.8%)	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他 6 (20.7%)	合計 32 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計
人(割) 人(割) 人(割) 山 人(割) 大 ()	10 (31.3%) 公務員 (31.4%) 公務員 (10.3%)	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 うち 農林畜産 (6.9%) うち 農林畜産 (6.9%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 1 (3.4%) うち 公衆衛生 5 (15.2%)	12 (37.5%) 診療獣医師 17 (48.6%) 診療獣医師 (55.2%) 診療獣医師	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 7 (21.2%)	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 (40.0%) うち 小動物診療 13 (44.8%) うち 小動物診療	(3.1%) 会社等 (5.7%) 会社等 (13.8%)	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他 6 (20.7%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計 33 (100.0%)
人(割) 人(引) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) <tr< td=""><td>10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%) 公務員 3 (10.3%) 公務員</td><td>農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 うち 農林畜産 (6.9%) うち 農林畜産 (6.9%)</td><td>うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 1 (3.4%) うち 公衆衛生 うち (15.2%)</td><td>12 (37.5%) 診療獣医師 (48.6%) 診療獣医師 (55.2%) 診療獣医師 (48.5%)</td><td>産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 7 (21.2%)</td><td>小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 14 (40.0%) うち 小動物診療 13 (44.8%) うち 小動物診療 9 (27.3%)</td><td>(3.1%) 会社等 (5.7%) 会社等 (13.8%)</td><td>9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他 6 (20.7%) その他</td><td>合計 32 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計 33 33</td></tr<>	10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%) 公務員 3 (10.3%) 公務員	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 うち 農林畜産 (6.9%) うち 農林畜産 (6.9%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 1 (3.4%) うち 公衆衛生 うち (15.2%)	12 (37.5%) 診療獣医師 (48.6%) 診療獣医師 (55.2%) 診療獣医師 (48.5%)	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 7 (21.2%)	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 14 (40.0%) うち 小動物診療 13 (44.8%) うち 小動物診療 9 (27.3%)	(3.1%) 会社等 (5.7%) 会社等 (13.8%)	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他 6 (20.7%) その他	合計 32 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計 33 33
人(割)人(割)人(割)人(割)上人(1)上<	10 (31.3%) 公務員 11 (31.4%) 公務員 3 (10.3%) 公務員	農林畜産 (18.8%) うち 農林畜産 うち 農林畜産 (6.9%) うち 農林畜産 (6.9%)	うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 1 (3.4%) うち 公衆衛生 5 (15.2%)	12 (37.5%) 診療獣医師 (48.6%) 診療獣医師 (55.2%) 診療獣医師 (48.5%)	産業動物医 (3.1%) うち 産業動物医 (8.6%) うち 産業動物医 (10.3%) うち 産業動物医 7 (21.2%)	小動物診療 11 (34.4%) うち 小動物診療 (40.0%) うち 小動物診療 13 (44.8%) うち 小動物診療 9 (27.3%)	(3.1%) 会社等 (5.7%) 会社等 (13.8%) 会社等 (9.1%)	9 (28.1%) その他 5 (14.3%) その他 6 (20.7%) その他 4 (12.1%)	合計 32 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 주業者数

大阪府立	公務員			診療獣医師					六坐
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数	12	2	10	24	0	24	0	9	45
(割合)	(26.7%)	(4.4%)	(22.2%)	(53.3%)	(0.0%)	(53.3%)	(0.0%)	(20.0%)	(100.0%)
酪農学園	公務員			診療獣医師					卒業者数
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	18	18	0	79	11	68	4	38	139
(割合)	(12.9%)	(12.9%)	(0.0%)	(56.8%)	(7.9%)	(48.9%)	(2.9%)	(27.3%)	(100.0%)
北里大学	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	21	11	9	92	9	84	5	20	138
(割合)	(15.2%)	(8.0%)	(6.5%)	(66.7%)	(6.5%)	(60.9%)	(3.6%)	(14.5%)	(100.0%)
日本大学	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	13	0	0	78	11	68	8	43	142
(割合)	(9.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(54.9%)	(7.7%)	(47.9%)	(5.6%)	(30.3%)	(100.0%)
日本獣医									
	公務員			診療獣医師			Ī		众坐 老粉
生命大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
生命大学 人数	12	農林畜産 2	うち <u>公衆衛生</u> 3	49	<u>産業動物医</u> 9	小動物診療 40	3	23	合計 87
生命大学		農林畜産	うち 公衆衛生		産業動物医	小動物診療			合計
生命大学 人数 (割合)	12	<u>農林畜産</u> 2 (2.3%)	うち 公衆衛生 3 (3.4%)	49 (56.3%) 診療獣医師	<u>産業動物医</u> 9 (10.3%)	小動物診療 40 (46.0%)	(3.4%)	23 (26.4%)	合計 87 (100.0%)
生命大学 人数 (割合)	12 (13.8%)	農林畜産 2	うち <u>公衆衛生</u> 3 (3.4%)	49 (56.3%) 診療獣医師	<u>産業動物医</u> 9 (10.3%) うち	小動物診療 40	3	23	合計 87

合計	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち	うち			うち	会社等	その他	合計
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			
人数	165	78	59	557	96	463	74	259	1055
(割合)	(15.6%)	(7.4%)	(5.6%)	(52.8%)	(9.1%)	(43.9%)	(7.0%)	(24.5%)	(100.0%)

平成22年度

北海道大	公務員			診療獣医師					Alle Met
学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生	**************************************	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	7 (16.7%)	5 (11.9%)	(4.8%)	16 (38.1%)	5 (11.9%)	13 (31.0%)	5 (11.9%)	14 (33.3%)	42 (100.0%)
(刮石)	(10.7%)	(11.9%)	(4.8%)	(38.1%)	(11.9%)	(31.0%)	(11.9%)	(33.3%)	(100.0%)
帯広畜産	公務員			診療獣医師					卒業者数
大学		うちゅせる辛	うち		うち	うち	会社等	その他	合計
人数	5	農林畜産 4	公衆衛生 0	20	<u>産業動物医</u> 16	小動物診療 5	6	8	39
(割合)	(12.8%)	(10.3%)	(0.0%)	(51.3%)	(41.0%)	(12.8%)	(15.4%)	(20.5%)	(100.0%)
岩手大学	公務員			診療獣医師					
石丁八子	公伪员	うち	うち	砂尔动区叫	うち	うち	会社等	その他	卒業者数
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医				合計
人数 (割合)	8 (25.0%)	(9.4%)	5 (15.6%)	17 (53.1%)	6 (18.8%)	12 (37.5%)	1 (3.1%)	6 (18.8%)	32 (100.0%)
	(23.0/0)	(3.4/0)	(13.0%)	(33.170)	(10.0/0)	(37.3/0)	(3.1/0)	(10.0/0)	(100.0%)
東京大学	公務員		I = .	診療獣医師			A 11.66	= - 11	卒業者数
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち	うち 小動物診療	会社等	その他	合計
人数	5	<u> </u>	2 2	4	<u> </u>	3 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	9	15	33
(割合)	(15.2%)	(6.1%)	(6.1%)	(12.1%)	(12.1%)	(9.1%)	(27.3%)	(45.5%)	(100.0%)
東京農工	公務員			診療獣医師					I allo alto alto
大学	五切兵	うち	うち	沙凉水区叫	うち	うち	会社等	その他	卒業者数 合計
I Mr.	_	農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			
人数 (割合)	5 (11.9%)	2 (4.8%)	(7.1%)	22 (52.4%)	3 (7.1%)	19 (45.2%)	9 (21.4%)	6 (14.3%)	42 (100.0%)
(11,11)	(11.070)	(1.070)	(71170)	(02:170)	(7:170)	(10.2/0/	(= 11.170)	(1.11.070)	(100.070)
岐阜大学	公務員	[<u></u>	<u> </u>	診療獣医師	 	12+	△₩华	この出	卒業者数
岐阜大学	公務員	うち農林畜産	うち公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数	10	農林畜産 10	公衆衛生 0	9	<u>産業動物医</u> 1	小動物診療 9	2	10	合計 31
		農林畜産	公衆衛生		うち <u>産業動物医</u> 1 (3.2%)	小動物診療			合計
人数 (割合)	(32.3%)	農林畜産 10	公衆衛生 0	9 (29.0%)	<u>産業動物医</u> 1	小動物診療 9	2	10	合計 31 (100.0%)
人数	10	農林畜産 10 (32.3%)	公衆衛生 0 (0.0%)	9	<u>産業動物医</u> 1 (3.2%) うち	小動物診療 9 (29.0%)	2	10	合計 31 (100.0%) 卒業者数
人数(割合)	10 (32.3%) 公務員	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生	9 (29.0%)	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療	2 (6.5%) 会社等	10 (32.3%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 合計
人数(割合)	(32.3%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 6	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 6	9 (29.0%)	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医	小動物診療 9 (29.0%)	(6.5%)	(32.3%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 合計
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 6	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 6	9 (29.0%) 診療獣医師 13 (37.1%)	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 0	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 13	2 (6.5%) 会社等	10 (32.3%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 合計 35
人数(割合)	10 (32.3%) 公務員	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 6 (17.1%)	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 6 (17.1%)	9 (29.0%) 診療獣医師 13 (37.1%) 診療獣医師	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 13 (37.1%)	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%)	10 (32.3%) その他 6 (17.1%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 35 (100.0%) 卒業者数
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 6	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 6	9 (29.0%) 診療獣医師 13 (37.1%) 診療獣医師	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 13	2 (6.5%) 会社等	10 (32.3%) その他	合計 (100.0%) 卒業者数 合計 35 (100.0%)
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合) 山口大学	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%) 公務員	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 2	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (17.1%) うち 公衆衛生	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 の (0.0%)	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 (37.1%) うち 小動物診療 のも のも のも のも のも のも のも のも のも のも のも のも のも	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数合計 35 (100.0%) 卒業者数合計 34
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合)	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (17.1%) うち 公衆衛生	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 13 (37.1%) うち 小動物診療	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%)	10 (32.3%) その他 6 (17.1%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数合計 35 (100.0%) 卒業者数合計
人数 (割合) 鳥取大学 人数 (割合) 山口大学	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%) 公務員	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 2 (5.9%)	の (0.0%) うち 公衆衛生 (17.1%) うち 公衆衛生 2 (5.9%)	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 (29.0%) うち 小動物診療 (37.1%) うち 小動物診療 20 (58.8%)	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等 2 (5.9%)	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他 7 (20.6%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数合計 35 (100.0%) 卒業者数合計 34 (100.0%)
人数 (割) 鳥取大学 人割 (割) 人割 人割 人割 人割	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%) 公務員 5 (14.7%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 2 (5.9%)	の (0.0%) うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 2 (5.9%)	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師 20 (58.8%)	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 (37.1%) うち 小動物診療 20 (58.8%)	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数合計 35 (100.0%) 卒業者数合計 34
人 (割 人 (割 人 (割 人 (割 人 (割 人 (割 人 (割 人 (割	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%) 公務員 5 (14.7%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 2 (5.9%)	の (0.0%) うち 公衆衛生 (17.1%) うち 公衆衛生 2 (5.9%)	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師 (58.8%)	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 (29.0%) うち 小動物診療 (37.1%) うち 小動物診療 20 (58.8%)	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等 2 (5.9%)	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他 7 (20.6%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 合計 34 (100.0%) 卒業者数 合計
人数 (割) 鳥取大学 人割 (割) 人割 人割 人割 人割	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%) 公務員 5 (14.7%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 2 (5.9%)	の (0.0%) うち 公衆衛生 うち 公衆衛生 2 (5.9%)	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師 20 (58.8%)	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%)	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 (37.1%) うち 小動物診療 20 (58.8%)	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等 2 (5.9%)	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他 7 (20.6%)	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数
人(割) 人(引) 人(引) (日) (日) (日) (日) (日) (日) <	10 (32.3%) 公務員 (34.3%) 公務員 (14.7%) 公務員	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 2 (5.9%) うち 農林畜産	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 2 (5.9%) うち 公衆衛生 1	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師 (58.8%) 診療獣医師	産業動物医(3.2%)うち(0.0%)うち産業動物医(0.0%)うちうち産業動物医4	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 (37.1%) うち 小動物診療 20 (58.8%) うち 小動物診療 9	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等 2 (5.9%)	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他 7 (20.6%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%)
人(割) 人(割) 人(割) 山 人(割) 大 ()	10 (32.3%) 公務員 (34.3%) 公務員 (14.7%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 (5.9%) うち 農林畜産 3 (11.5%)	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (17.1%) うち 公衆衛生 (5.9%) うち 公衆衛生 (3.8%)	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師 (58.8%) 診療獣医師	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (15.4%)	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 37.1%) うち 小動物診療 20 (58.8%) うち 小動物診療 9 (34.6%)	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等 2 (5.9%) 会社等	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他 7 (20.6%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 ぐ業者数
人(割) 人(割) 人(割) 山 人(割) 大 人(割) 財 人(割) 大 人(割) 財 人(割) 大 人(割) 大	10 (32.3%) 公務員 12 (34.3%) 公務員 5 (14.7%) 公務員 4 (15.4%)	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 2 (5.9%) うち 農林畜産	公衆衛生 0 (0.0%) うち 公衆衛生 2 (5.9%) うち 公衆衛生 1	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師 (58.8%) 診療獣医師	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (15.4%)	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 (37.1%) うち 小動物診療 20 (58.8%) うち 小動物診療 9	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等 2 (5.9%)	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他 7 (20.6%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 会計 本業者数 会計
人(割)人(割)人(割)人(割)上人(1)上<	10 (32.3%) 公務員 (34.3%) 公務員 (14.7%) 公務員	農林畜産 10 (32.3%) うち 農林畜産 (17.1%) うち 農林畜産 (5.9%) うち 農林畜産 3 (11.5%)	公衆衛生 (0.0%) うち 公衆衛生 (17.1%) うち 公衆衛生 (5.9%) うち 公衆衛生 (3.8%)	9 (29.0%) 診療獣医師 (37.1%) 診療獣医師 (58.8%) 診療獣医師	産業動物医 (3.2%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (0.0%) うち 産業動物医 (15.4%)	小動物診療 9 (29.0%) うち 小動物診療 37.1%) うち 小動物診療 20 (58.8%) うち 小動物診療 9 (34.6%)	2 (6.5%) 会社等 4 (11.4%) 会社等 2 (5.9%) 会社等	10 (32.3%) その他 6 (17.1%) その他 7 (20.6%) その他	合計 31 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 (100.0%) 卒業者数 ぐ業者数 卒業者数

大阪府立	公務員			診療獣医師					女坐 李粉
大学		うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	5 (11.6%)	2 (4.7%)	2 (4.7%)	24 (55.8%)	2 (4.7%)	23 (53.5%)	5 (11.6%)	9 (20.9%)	43 (100.0%)
酪農学園	公務員			診療獣医師		I			
大学	4 分页	うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	20 (15.3%)	9 (6.9%)	11 (8.4%)	89 (67.9%)	18 (13.7%)	72 (55.0%)	4 (3.1%)	18 (13.7%)	131 (100.0%)
北里大学	公務員			診療獣医師		1	I		
北王八子	公伤貝	うち 農林畜産	うち 公衆衛生		うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	25 (16.9%)	15 (10.1%)	8 (5.4%)	97 (65.5%)	11 (7.4%)	86 (58.1%)	5 (3.4%)	21 (14.2%)	148 (100.0%)
	ハ 羽 므			公床坐压在		1	1		1
日本大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	22 (15.6%)	3 (2.1%)	2 (1.4%)	77 (54.6%)	8 (5.7%)	69 (48.9%)	5 (3.5%)	37 (26.2%)	141 (100.0%)
口十卅左	八女马			沙虎坐左 在		1	1		
日本獣医 生命大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	12 (12.1%)	8 (8.1%)	3 (3.0%)	56 (56.6%)	4 (4.0%)	52 (52.5%)	3 (3.0%)	28 (28.3%)	99 (100.0%)
点无上 当	ハ 羽 므			沙库坐压在		I			1
麻布大学	公務員	うち 農林畜産	うち 公衆衛生	診療獣医師	うち 産業動物医	うち 小動物診療	会社等	その他	卒業者数 合計
人数 (割合)	30 (18.2%)	12 (7.3%)	18 (10.9%)	90 (54.5%)	连来動物区 14 (8.5%)	76 (46.1%)	12 (7.3%)	33 (20.0%)	165 (100.0%)

合計	公務員			診療獣医師					卒業者数
		うち	うち		うち	うち	会社等	その他	合計
		農林畜産	公衆衛生		産業動物医	小動物診療			口前
人数	188	90	73	579	100	489	76	232	1075
(割合)	(17.5%)	(8.4%)	(6.8%)	(53.9%)	(9.3%)	(45.5%)	(7.1%)	(21.6%)	(100.0%)

(1)公務員

	平成22	 年度		平成21	年度		平成20	 年度		平成19	 年度		平成18年度			
大学			総数						総数			総数				
		うち 農林畜産	うち 公衆衛生													
北海道大学	7	5	2	6	6		7	7		6	2	:	5	2	1	
(割合)	(3.7%)	(5.6%)	(2.7%)	(3.6%)	(7.7%)	(0.0%)	(4.4%)	(10.1%)	(0.0%)	(4.7%)	(4.2%)	(5.3%)	(3.7%)	(3.3%)	(1.6%)	
帯広畜産大 学	5	4	0	6	0	0	8	0	0	5	2	1	5	0	5	
(割合)	(2.7%)	(4.4%)	(0.0%)	(3.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(5.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(3.9%)	(4.2%)	(1.8%)	(3.7%)	(0.0%)	(8.1%)	
岩手大学	8	3	5	9	7	2	8	2	5	6	3	2	11	5	6	
(割合)	(4.3%)	(3.3%)	(6.8%)	(5.5%)	(9.0%)	(3.4%)	(5.0%)	(2.9%)	(8.1%)	(4.7%)	(6.3%)	(3.5%)	(8.1%)	(8.3%)	(9.7%)	
東京大学	5	2	2	3	3	0	2	2	0	1	1	0	1	0	1	
(割合)	(2.7%)	(2.2%)	(2.7%)	(1.8%)	(3.8%)	(0.0%)	(1.3%)	(2.9%)	(0.0%)	(0.8%)	(2.1%)	(0.0%)	(0.7%)	(0.0%)	(1.6%)	
東京農工大 学	5	2	3	6	2	4	6	2	4	6	4	1	6	2	4	
(割合)	(2.7%)	(2.2%)	(4.1%)	(3.6%)	(2.6%)	(6.8%)	(3.8%)	(2.9%)	(6.5%)	(4.7%)	(8.3%)	(1.8%)	(4.4%)	(3.3%)	(6.5%)	
岐阜大学	10	10	0	10	6	4	13	13	0	4	4	0	5	5	0	
(割合)	(5.3%)	(11.1%)	(0.0%)	(6.1%)	(7.7%)	(6.8%)	(8.1%)	(18.8%)	(0.0%)	(3.1%)	(8.3%)	(0.0%)	(3.7%)	(8.3%)	(0.0%)	
鳥取大学	12	6	6	11	5	6	9	3	5	7	2	5	6	3	3	
(割合)	(6.4%)	(6.7%)	(8.2%)	(6.7%)	(6.4%)	(10.2%)	(5.6%)	(4.3%)	(8.1%)	(5.5%)	(4.2%)	(8.8%)	(4.4%)	(5.0%)	(4.8%)	
山口大学	5	2	2	3	2	1	5	2	2	6	0	6	4	2	2	
(割合)	(2.7%)	(2.2%)	(2.7%)	(1.8%)	(2.6%)	(1.7%)	(3.1%)	(2.9%)	(3.2%)	(4.7%)	(0.0%)	(10.5%)	(2.9%)	(3.3%)	(3.2%)	
宮崎大学	4	3	1	10	5	5	3	2	1	8	4	4	3	1	1	
(割合)	(2.1%)	(3.3%)	(1.4%)	(6.1%)	(6.4%)	(8.5%)	(1.9%)	(2.9%)	(1.6%)	(6.3%)	(8.3%)	(7.0%)	(2.2%)	(1.7%)	(1.6%)	
鹿児島大学	13	4	8	11	4	6	6	4	1	4	2	1	3	2	1	
(割合)	(6.9%)	(4.4%)	(11.0%)	(6.7%)	(5.1%)	(10.2%)	(3.8%)	(5.8%)	(1.6%)	(3.1%)	(4.2%)	(1.8%)	(2.2%)	(3.3%)	(1.6%)	
大阪府立大 学	5	2	2	12	2	10	12	3	5	7	2	4	7	1	6	
(割合)	(2.7%)	(2.2%)	(2.7%)	(7.3%)	(2.6%)	(16.9%)	(7.5%)	(4.3%)	(8.1%)	(5.5%)	(4.2%)	(7.0%)	(5.1%)	(1.7%)	(9.7%)	
格農学園大 学	20	9	11	18	18	0	23	11	11	20	8	11	27	12	10	
(割合)	(10.6%)	(10.0%)	(15.1%)	(10.9%)	(23.1%)	(0.0%)	(14.4%)	(15.9%)	(17.7%)	(15.7%)	(16.7%)	(19.3%)	(19.9%)	(20.0%)	(16.1%)	
北里大学	25	15	8	21	11	9	18	6	12	11	3	8	18	10	8	
(割合)	(13.3%)	(16.7%)	(11.0%)	(12.7%)	(14.1%)	(15.3%)	(11.3%)	(8.7%)	(19.4%)	(8.7%)	(6.3%)	(14.0%)	(13.2%)	(16.7%)	(12.9%)	
日本大学	22	3	2	13	0	0	14	2	1	13	0	2	16	6	7	
(割合)	(11.7%)	(3.3%)	(2.7%)	(7.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(8.8%)	(2.9%)	(1.6%)	(10.2%)	(0.0%)	(3.5%)	(11.8%)	(10.0%)	(11.3%)	
日本獣医生 命科学大学	12	8	3	12	2	3	5	1	3	8	6	1	10	5	2	
(割合)	(6.4%)	(8.9%)	(4.1%)	(7.3%)	(2.6%)	(5.1%)	(3.1%)	(1.4%)	(4.8%)	(6.3%)	(12.5%)	(1.8%)	(7.4%)	(8.3%)	(3.2%)	
麻布大学	30	12	18	14	5	9	21	9	-		5		9	4	5	
(割合)	(16.0%)	(13.3%)	(24.7%)	(8.5%)	(6.4%)	(15.3%)	(13.1%)	(13.0%)	(19.4%)	(11.8%)	(10.4%)	(14.0%)	(6.6%)	(6.7%)	(8.1%)	
合計	188	90	73	165	78	59	160	69	62	127	48	57	136	60	62	
(割合)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	

(2)診療獣医師

平成22年度			平成21年	F 度		平成20年	F 度		平成194	丰度		平成18年度			
大学	総数		総数			総数			総数			総数			
		うち 産業動物	うち 小動物		うち 産業動物	うち 小動物		うち 産業動物	うち 小動物		うち 産業動物	うち 小動物		うち 産業動物	うち 小動物
北海道大学	16	5	13	12	7	5	8	2	6	9	4	6	9	1	8
(割合)	(2.8%)	(5.0%)	(2.7%)	(2.2%)	(7.3%)	(1.1%)	(1.5%)	(2.2%)	(1.3%)	(1.6%)	(4.8%)	(1.2%)	(1.5%)	(1.5%)	(1.5%)
帝仏备産ス 学	20	16	5	17	5	12	22	9	13	18	6	12	20	6	14
(割合)	(3.5%)	(16.0%)	(1.0%)	(3.1%)	(5.2%)	(2.6%)	(4.0%)	(9.9%)	(2.8%)	(3.2%)	(7.2%)	(2.4%)	(3.4%)	(9.0%)	(2.7%)
岩手大学	17	6	12	22	6	16	14	7	7	19	6	13	17	4	13
(割合)	(2.9%)	(6.0%)	(2.5%)	(3.9%)	(6.3%)	(3.5%)	(2.6%)	(7.7%)	(1.5%)	(3.3%)	(7.2%)	(2.6%)	(2.9%)	(6.0%)	(2.5%)
東京大学	4	4	3	1	1	0	7	2	5	6	1	5	4	2	2
(割合)	(0.7%)	(4.0%)	(0.6%)	(0.2%)	(1.0%)	(0.0%)	(1.3%)	(2.2%)	(1.1%)	(1.1%)	(1.2%)	(1.0%)	(0.7%)	(3.0%)	(0.4%)
果只農工大 学	22	3	19	20	4	16	15	0	15	13	3	10	21	1	20
(割合)	(3.8%)	(3.0%)	(3.9%)	(3.6%)	(4.2%)	(3.5%)	(2.7%)	(0.0%)	(3.2%)	(2.3%)	(3.6%)	(2.0%)	(3.6%)	(1.5%)	(3.9%)
岐阜大学	9	1	9	12	1	11	12	2	10	12	1	11	11	3	8
(割合)	(1.6%)	(1.0%)	(1.8%)	(2.2%)	(1.0%)	(2.4%)	(2.2%)	(2.2%)	(2.2%)	(2.1%)	(1.2%)	(2.2%)	(1.9%)	(4.5%)	(1.5%)
鳥取大学	13	0	13	17	3	14	20	0	20	23	3	20	16	1	15
(割合)	(2.2%)	(0.0%)	(2.7%)	(3.1%)	(3.1%)	(3.0%)	(3.6%)	(0.0%)	(4.3%)	(4.0%)	(3.6%)	(4.1%)	(2.7%)	(1.5%)	(2.9%)
山口大学	20	0	20	16	3	13	14	0	14	18	3	15	22	4	18
(割合)	(3.5%)	(0.0%)	(4.1%)	(2.9%)	(3.1%)	(2.8%)	(2.6%)	(0.0%)	(3.0%)	(3.2%)	(3.6%)	(3.1%)	(3.8%)	(6.0%)	(3.5%)
宮崎大学	13	4	9	16	7	9	21	12	9	14	0	14	19	4	15
(割合)	(2.2%)	(4.0%)	(1.8%)	(2.9%)	(7.3%)	(1.9%)	(3.8%)	(13.2%)	(1.9%)	(2.5%)	(0.0%)	(2.9%)	(3.3%)	(6.0%)	(2.9%)
鹿児島大学	12	4	8	16	5	11	20	8	12	23	9	14	14	3	11
(割合)	(2.1%)	(4.0%)	(1.6%)	(2.9%)	(5.2%)	(2.4%)	(3.6%)	(8.8%)	(2.6%)	(4.0%)	(10.8%)	(2.9%)	(2.4%)	(4.5%)	(2.1%)
大阪府立大 学	24	2	23	24	0	24	22	1	21	22	1	21	24	1	23
(割合)	(4.1%)	(2.0%)	(4.7%)	(4.3%)	(0.0%)	(5.2%)	(4.0%)	(1.1%)	(4.5%)	(3.9%)	(1.2%)	(4.3%)	(4.1%)	(1.5%)	(4.4%)
酪農字園天 学	89	18	72	79	11	68	78	18	60	71	19	52	82	12	71
(割合)	(15.4%)	(18.0%)	(14.7%)	(14.2%)	(11.5%)	(14.7%)	(14.2%)	(19.8%)	(13.0%)	(12.5%)	(22.9%)	(10.6%)	(14.1%)	(17.9%)	(13.7%)
北里大学	97	11	86	92	9	84	94	5	89	94	5	89	92	7	86
(割合)	(16.8%)	(11.0%)	(17.6%)	(16.5%)	(9.4%)	(18.1%)	(17.1%)	(5.5%)	(19.3%)	(16.5%)	(6.0%)	(18.1%)	(15.8%)	(10.4%)	(16.6%)
日本大学	77	8	69	78	11	68	78	11	71	87	10	81	85	7	79
(割合)	(13.3%)	(8.0%)	(14.1%)	(14.0%)	(11.5%)	(14.7%)	(14.2%)	(12.1%)	(15.4%)	(15.3%)	(12.0%)	(16.5%)	(14.6%)	(10.4%)	(15.3%)
日本獣医生 命科学士学	56	4	52	49	9	40	44	6	38	62	6	56	55	3	52
(割合)	(9.7%)	(4.0%)	(10.6%)	(8.8%)	(9.4%)	(8.6%)	(8.0%)	(6.6%)	(8.2%)	(10.9%)	(7.2%)	(11.4%)	(9.5%)	(4.5%)	(10.0%)
麻布大学	90	14	76	86	14	72	80	8	72	78	6	72	91	8	83
(割合)	(15.5%)	(14.0%)	(15.5%)	(15.4%)	(14.6%)	(15.6%)	(14.6%)	(8.8%)	(15.6%)	(13.7%)	(7.2%)	(14.7%)	(15.6%)	(11.9%)	(16.0%)
合計	579	100	489	557	96	463	549	91	462	569	83	491	582	67	518
(割合)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

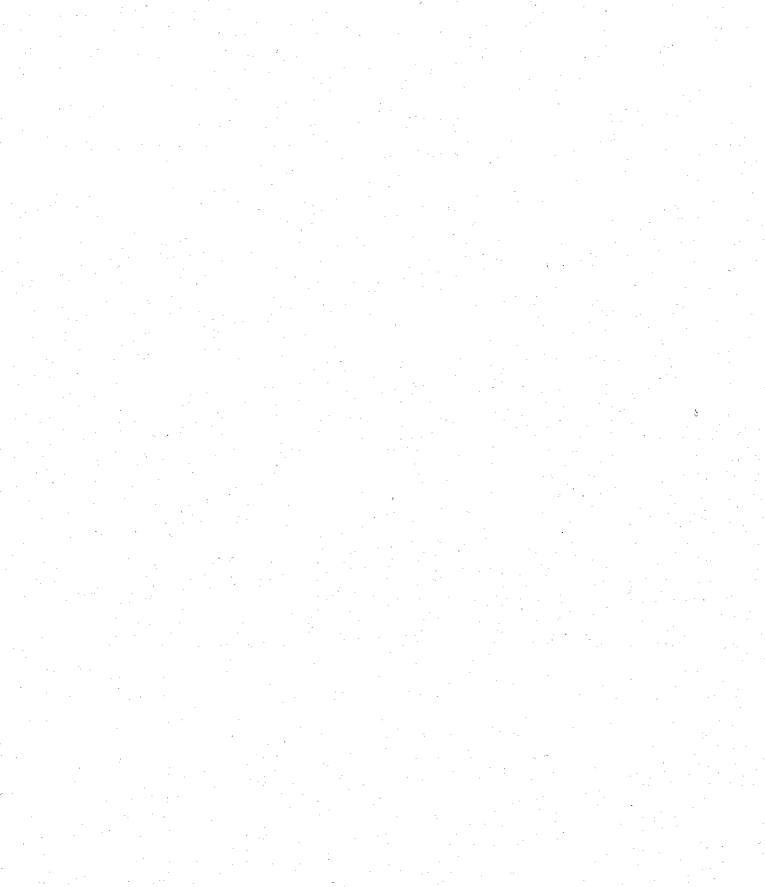
(3)会社等

大学	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
北海道大学	5	7	12	10	4
(割合)	(6.6%)	(9.5%)	(14.6%)	(11.4%)	(5.1%)
帝広备産大 学	6	9	5	8	4
(割合)	(7.9%)	(12.2%)	(6.1%)	(9.1%)	(5.1%)
岩手大学	1	1	2	3	1
(割合)	(1.3%)	(1.4%)	(2.4%)	(3.4%)	(1.3%)
東京大学	9	7	11	10	13
(割合)	(11.8%)	(9.5%)	(13.4%)	(11.4%)	(16.7%)
東京農工大 学	9	6	8	6	9
— (割合)	(11.8%)	(8.1%)	(9.8%)	(6.8%)	(11.5%)
岐阜大学	2	1	2	4	3
(割合)	(2.6%)	(1.4%)	(2.4%)	(4.5%)	(3.8%)
鳥取大学	4	2	1	3	3
(割合)	(5.3%)	(2.7%)	(1.2%)	(3.4%)	(3.8%)
山口大学	2	4	5	2	1
(割合)	(2.6%)	(5.4%)	(6.1%)	(2.3%)	(1.3%)
宮崎大学	2	3	2	3	3
(割合)	(2.6%)	(4.1%)	(2.4%)	(3.4%)	(3.8%)
鹿児島大学	2	5	2	3	3
(割合)	(2.6%)	(6.8%)	(2.4%)	(3.4%)	(3.8%)
大阪府立大 学	5	0	3	5	6
(割合)	(6.6%)	(0.0%)	(3.7%)	(5.7%)	(7.7%)
酪農字園大 学	4	4	5	7	6
(割合)	(5.3%)	(5.4%)	(6.1%)	(8.0%)	(7.7%)
北里大学	5	5	5	5	7
(割合)	(6.6%)	(6.8%)	(6.1%)	(5.7%)	(9.0%)
日本大学	5	8	5	6	3
(割合)	(6.6%)	(10.8%)	(6.1%)	(6.8%)	(3.8%)
日本獸医生 命科学大学	3	3	5	5	6
(割合)	(3.9%)	(4.1%)	(6.1%)	(5.7%)	(7.7%)
麻布大学	12	9	9	8	6
(割合)	(15.8%)	(12.2%)	(11.0%)	(9.1%)	(7.7%)
合計	76	74	82	88	78
(割合)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

平成 24 年 8 月 3 日 「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究 協力者会議」第 3 回 参考資料 2

各大学のガイドライン

1.	北海道大学	•	•	•	*	=	-		•	•					•			•	-	•	• 1
2.	帯広畜産大	学		•	. •					•			•	•			•	•	•	•	- 9
3.	東京大学・	-		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	=	*	•	•	•	15
4.	岐阜大学・	F	• •	•	=	•		•	•	•	•	•	•	•	•		•		•	=	17
5.	鳥取大学		• •	•	•	•		=	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	=	23
6.	山口大学・	•	• 1	•	•	•			•	•	•	•		•			•	•		•	29
7.	宮崎大学・			•	-	=	•	•		•	• .	•	•			•	•	•	•		33
8.	酪農学園大	学	a 1	•				=	•	•	•	•		•		•	•			•	37
9.	日本大学・								ď									•			43



参加型臨床実習ガイドライン(北海道大学獣医学部)

【目的】

獣医師の育成にあたって、獣医学を履修する課程に在籍する大学生(以下「獣医学生」という。)に対する臨床実習を質・量ともに充実させていくことが必要である。このために北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院における診療行為に関わる実習のあり方についてガイドラインを作成した。

【臨床実習において獣医学生に許容される診療行為】

獣医師法第17条は、「獣医師でなければ、飼育動物(牛、馬、めん羊、山羊、豚、犬、猫、鶏、うずらその他獣医師が診療を行う必要があるものとして政令で定めるものに限る。)の診療を業務としてはならない。」と規定しており、無免許で診療を業務とした場合には、罰則(以下「無免許獣医業罪という。」が適用される。同法で無免許獣医業罪が設けられている目的は、国民に質の高い獣医療を提供することにより、飼育動物に危害を及ぼし、又は危害を及ぼすおそれのある行為を防止することで、飼育動物に関する保健衛生の向上及び畜産業の発達を図り、あわせて公衆衛生の向上に寄与することにある。

獣医師を養成するための臨床実習における獣医学生の診療行為については、その目的・手段・方法が、社会通念からみて相当であり、獣医師の診療行為と同程度の安全性が確保される限度であれば、基本的に違法性はないと解することができると考えられる。

この場合、獣医学生が臨床実習において他者が所有する飼育動物に対して行う診療行為が、獣医学教育の一環として新規獣医師の資質向上に資するものであれば、「飼育動物に関する保健衛生の向上及び畜産業の発達を図り、あわせて公衆衛生の向上に寄与する」という同法の目的に合致すると考えられる。

獣医学生に許容される診療行為について、①侵襲性(生体に与える危害・損傷の程度)のそれほど高くない一定のものに限られること、②獣医学教育の一環として、一定の条件を満たす指導獣医師によるきめ細かな指導・監督・監視の下に行われること、③臨床実習を行わせるにあたって事前に獣医学生の評価を行うことを条件とするならば、獣医学生が診療行為を行っても、獣医師が行う場合と同程度の安全性を確保することができる。さらに、獣医学生が診療行為

を行う手段・方法については ④飼育動物の所有者(以下「所有者」という。) の同意を得て実施することとすれば、社会通念からみて相当であると考えられる。

以上の点を踏まえ、臨床実習において獣医学生が診療行為をおこなうための条件を以下のように定めた。

【臨床実習実施のための条件】

1) 臨床実習において獣医学生に許容される診療行為の範囲

臨床実習において獣医学生に許容される診療行為は、その診療行為によって予想される飼育動物への侵襲性の程度を目安(別紙1)としつつ、教育的観点を考慮した上で、一定の条件下で、3つの水準に区分した。

さらに、この水準に鑑みて、臨床実習において実際に実施する可能性のある診療行為を分類し、目安として別紙2に例示した。

ただし、ここに掲げた診療行為は、すべてを網羅したものではなく、その技術 の習得は臨床実習の必須項目ではない。

<水準1>指導獣医師の指導・監督の下に実施が許容されるもの

予測される飼育動物への侵襲性が相対的に低い診療行為については、飼育動物の安全の確保が比較的容易であることから、所有者の同意を得て、指導獣医師の指導・監督(獣医学生15人程度に指導獣医師1人がつき、必要に応じて技術介助を行う)の下で、獣医学生が実施できる。

<水準2>指導獣医師の指導・監視の下に実施が許容されるもの

予測される飼育動物への侵襲性が相対的に中程度の診療行為については、適切に実施されれば飼育動物の安全の確保が可能であることから、所有者の同意を得て、指導獣医師の指導・監視(獣医学生に必ず指導獣医師が同伴し、必要に応じて獣医学生の診療行為を中止することを指示する)の下で、獣医学生が実施できる。

<水準3>原則として指導獣医師の実施の見学にとどめるもの

予想される飼育動物への侵襲性が相対的に高い診療行為については、飼育動物の安全を確保することは困難であることから、原則として獣医学生は実施でき

ない。

なお、臨床実習で取り入れる診療行為の内容や各診療行為の水準は、各診療科、 各獣医学生の知識や技能の修得状況、対象となる飼育動物の状態などにより、 その区分や項目が異なることも考えられることから、必要な診療行為を獣医学 生に実施させるか否かの判断は、獣医学生と飼育動物の安全が確保される範囲 で、獣医学教育の現場において実習担当教員が個別に判断する。

2) 指導獣医師の要件

指導獣医師は、このガイドラインに基づき、獣医学生の知識・技能や飼育動物の状態等から判断し、あらかじめ診療行為の実施の許可を臨床実習を行う獣医学生に与えるようにすることが必要である。

指導獣医師の要件は、臨床実習において獣医学生及び飼育動物の安全の確保を 図り、獣医学生による診療行為に対して、適切な指導・監督又は指導・監視が できる能力を有することであり、北海道大学獣医学部においては助教以上の教 員、大学院に在籍し獣医師免許を有する大学院生(Teaching assistant)、ある いは臨床経験が 3 年以上又は大学の附属動物病院で1年以上の研修を受けた獣 医師とする。

学外での実習においても、上記の条件を満たす指導獣医師の指導・監督・監視の下、獣医学生は診療行為を実施することができる。学外の指導獣医師については必要に応じて非常勤講師、客員講師などに位置づける。

また指導獣医師は、このガイドラインの趣旨を理解し、獣医学生の知識・技能 や飼育動物の状態等を判断し、診療行為実施前に臨床実習を行う獣医学生に 個々の診療行為実施の許可を与える。なお、上記1)のとおり、獣医学生によ る実際の診療行為の実施の可否については、<u>実習担当教員</u>が最終的に判断をす る。

3) 事前の獣医学生の評価

臨床実習において獣医学生が診療行為を行うにあたっては、事前に実施可能な 水準までの技術を修得させておく必要があり、臨床実習に入る前の段階で、獣 医学生の知識・技能が到達すべき水準に達しているかどうかについて判断する。 到達すべき水準に達していると評価された獣医学生に対しては、このガイドラ インの趣旨を理解させ、臨床実習に参加させる。

4) 飼育動物の所有者の同意

獣医学生の臨床実習にあたっては、あらかじめ、所有者に対して、実習の必要性、実習内容などについて十分かつ丁寧な説明を行い、獣医学生による診療行為について、所有者が納得した上で、同意を得ることが必要である。

所有者は、上記同意を拒否することができること、既に同意した内容についていつでも撤回できることなど、所有者が診療上の不利益な扱いを受けないようにする。

北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院では、上記の内容を受付に掲示およびホームページに掲載し必要に応じて口頭で説明を行うことで同意を得る。

なお、獣医学生に対しては、事前に個人情報に関する関係法令を教示し、臨床 実習を通して知り得た所有者等の情報については、他者に漏らすことがないよ うに十分に留意する。

飼育動物への侵襲性の程度の分類

反応\侵襲性	低い	中程度	高い
生体組織の破壊	ほとんど伴わない	軽度かつ限定的であり	縫合が必要
		縫合などの必要はない	
出血	ほとんど伴わない	出血が軽度かつ限定	多量の出血等の恐れ
		的であり簡単な処置に	がある
	-	より止血等の対応がで	
		きる	
疼痛	ほとんど伴わない	軽度かつ限定的	重度
感染	一般的な処置により予	適切な処置により予防	重篤な感染症を惹起す
	防できる	できる	るおそれがある
炎症	ほとんど伴わない	軽度かつ一時的	発熱を伴うなど全身症
		·	状を惹起するおそれが
			ある`
体液の喪失	ほとんど伴わない	軽度かつ一時的	多量の体液の喪失の
			おそれがある
臓器への影響	ほとんど伴わない	軽度かつ限定的であ	臓器に重大な影響を及
		り、適切な処置により	ぼすおそれがある
. ,		臓器に直接的な影響を	
	·	及ぼす恐れはない	
血圧、呼吸など生態機	ほとんど伴わない	一時的な抑制などに限	血圧の著しい低下など
能への影響		られ、かつ適切な処置	生体機能に大きな影響
		により予防できる	を及ぼすおそれがある

臨床実習において獣医学生に許容される診療行為の例示

水準1	水準2	水準3
1. 診察		
・問診、全身の視診、触診、打 診、聴診	・診察のために必要な鎮静・麻 酔等(補助)	左記以外のもの
・生体への影響がないかほとんどないと考えられる簡単な補助		
器具(体温計、反射鏡、聴診器、打腱器、開口器、耳鏡、検		
眼鏡、膣鏡など)を用いる全身 の診察	. · · · · · · · ·	
2. 検査		
(生理学的検査)		左記以外のもの
·心電図、心音図、心機図 ・脳波	・筋電図	ZHDXX1.02
· 聴力、平衡、視力 · 步様、関節稼働域検査		
•神経学的検査		
(消化管検査) ・直腸検査	88.4. — 11	
	・胃カテーテル ・内視鏡検査(補助)	
(画像診断) ・超音波検査(補助) ・単純エックス線検査(補助)	・透視・造影剤(RI を除く)を用いた検	
-CT(補助) -MRI(補助)	査(補助)	
(検体採取)		
・血液(毛細血管、静脈) ・尿(圧迫排尿、カテーテル導尿	・動脈血(末梢)	
(難易度の高いものは除く)) ・第一胃液		
·分泌液、排液、鼻汁	19 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
(掻爬・穿刺・生検) ・皮膚・腫瘤表面の掻爬		-
・針吸引(膿胞、膿瘍等(体表)) ・頚管粘液・膣内容の採取・検 査	・胸腔、腹腔 ・骨髄穿刺(補助)	
1 (特殊検査)		*
· 繁殖学的検査: 直腸検査(大 動物)	・妊娠診断鑑定(補助) ・頚管に拡張棒などの器具の挿	
・各診療科における非侵襲性検査:ウッド灯を用いる検査など	入を伴う検査	
(その他)		

	水準2	水準3
3. 治療		
(看護的処置) ・体位変換、おむつ、体液吸収シート等交換、運動、散歩		左記以外のもの
(処置) ・皮膚消毒、包帯交換 ・外用薬塗布・貼付 ・浣腸 ・耳の洗浄 ・乳房内注入	・創傷処置 ・除角 ・歯石除去 ・胃カテーテル挿入(経口・経 鼻)	
·血管留置針設置(末梢静脈) (投与) ·経口、皮内、皮下、筋肉内 ·静脈注射 ·点眼	·ギプス巻	
(外科的処置) ・抜糸・止血 ・手術助手 ・麻酔モニタリング	・全身・局所麻酔 ・膿瘍切開、排膿、ドレイン処置 ・縫合 ・抜歯(手術を必要とするものを 除く)	
(その他) ・分娩介助(補助)	・蹄病治療のための削蹄	-
4. 救急		
・バイタルチェック ・気道確保(気管内挿管、気管 切開を除く)、人工呼吸、酸素投 与	- 気管内挿管	左記以外のもの
	・心マッサージ・電気的除細動	
5. その他 ・カルテ記載の補助(検査結果 の記入など) ・保健衛生指導(一般的内容の	・カルテ記載(指導獣医師の確認とサイン)	左記以外のもの
もの)	・飼育動物の所有者などへの病 状説明 ・調剤(指導獣医師の確認とサイン)	

ただし、獣医学生による実際の診療行為の実施の可否については、<u>実習担当教</u> 員が最終的に判断をする。

(別紙1)

飼育動物への侵襲性の程度の分類

反応乀侵襲性	低い	中程度	高い
生体組織の破壊	ほとんど伴わない	・軽度かつ限定的であ	・縫合が必要
		り縫合などの必要はな	・生体の経済的価値
		L\	を著しく損なう可能性
		・生体の経済的価値を	がある
		ほとんど損なわない	
出血	ほとんど伴わない	出血が軽度かつ限定	多量の出血等の恐れ
		的であり簡単な処置に	がある
		より止血等の対応がで	
	•	きる	
疼痛	ほとんど伴わない	軽度かつ限定的	重度
感染	一般的な処置により予	適切な処置により予防	・重篤な感染症を惹起
1	防できる	できる	するおそれがある
	·		・飼い主に著しい経済
			的損失を与える可能性
			がある
炎症	ほとんど伴わない	軽度かつ一時的	発熱を伴うなど全身症
			状を惹起するおそれが
			ある
体液の喪失	ほとんど伴わない	軽度かつ一時的	多量の体液の喪失の
			おそれがある
臓器への影響	ほとんど伴わない	・軽度かつ限定的で	・臓器に重大な影響を
		あり、適切な処置によ	· ·
·		り臓器に直接的な影	・飼い主に著しい経済
		響を及ぼす恐れはな	的損失を与える可能
		い	性がある
		・飼い主に経済的損	
		失を与える可能性は	
		ほとんどない	
血圧、呼吸など生体機	ほとんど伴わない	一時的な抑制などに限	
能への影響		られ、かつ適切な処置	1
		により予防できる	を及ぼすおそれがある

小動物臨床実習において獣医学生に許容される診療行為の例示

水準1	水準2	水準3
1. 診察		1
・問診、全身の視診、触診、打	・診察のために必要な鎮静・麻	左記以外のもの
診、聴診	酔等(補助)	
・生体への影響がないかほとん		
どないと考えられる簡単な補助		
器具(体温計、反射鏡、聴診		
器、打腱器、開口器、耳鏡、検		
眼鏡、膣鏡など)を用いる全身		
の診察		
2. 検査		
(生理学的検査)		左記以外のもの
•心電図、心音図、心機図	•筋電図	
■・脳波		
・聴力、平衡、視力		
・歩様、関節可動域検査		
•神経学的検査		
(消化管検査)		
• 直腸検査	胃カテーテル	
• 口腔内検査	·内視鏡検査(補助)	
(画像診断)	・エックス線透視検査(補助)	
・超音波検査(補助)	・造影剤(RI を除く)を用いた検	
・単純エックス線検査(補助)	査(補助)	
•CT(補助)		
-MRI(補助)		
(検体採取)		
・血液(毛細血管、静脈)	・動脈血(末梢)	
・尿(圧迫排尿、カテーテル導尿		
(難易度の高いものは除く))	· ·	
•分泌液、排液、鼻汁		
1		
(搔爬・穿刺・生検)		
・皮膚・腫瘤表面の掻爬	• 胸腔穿刺	
・針吸引(膿胞、膿瘍等(体表))	• 腹腔穿刺	
・膣内容の採取・検査	・骨髄穿刺(補助)	
	13 08283 FF3 V 101 FF3 /	
(特殊検査)		
・各診療科における非侵襲性検		
査:ウッド灯を用いる検査など		
こうしょうにいいのは、良なに		
(その他)		

水準1	水準2	水準3	
3. 治療			
(看護的処置) ・体位変換、おむつ、体液吸収 シート等交換、運動、散歩		左記以外のもの	·
(処置) ・皮膚消毒、包帯交換 ・外用薬塗布・貼付 ・浣腸 ・耳の洗浄 ・血管留置針設置(末梢静脈)	·創傷処置 ·歯石除去 ·胃カテーテル挿入(経口・経 鼻) ·ギプス巻		
(投与) ・経口、皮内、皮下、筋肉内 ・静脈注射 ・点眼			
(外科的処置) ・抜糸・止血 ・手術助手 ・麻酔モニタリング	・全身・局所麻酔 ・膿瘍切開、排膿、ドレイン処置 ・縫合 ・抜歯(手術を必要とするものを 除く)		
(その他) ・分娩介助(補助)			
4. 救急			
・バイタルチェック・気道確保(気管内挿管、気管切開を除く)、人工呼吸、酸素投与	•気管内挿管	左記以外のもの	
	・心マッサージ・電気的除細動		
5. その他			
・カルテ記載の補助(検査結果 の記入など) ・保健衛生指導(一般的内容の	・カルテ記載(指導獣医師の確認とサイン)	左記以外のもの	-
もの)	・飼育動物の所有者などへの病 状説明・調剤(指導獣医師の確認とサイン)		

ただし、獣医学生による実際の診療行為の実施の可否については、指導教員が 最終的に判断をする。

(別紙3)

産業動物臨床実習において獣医学生に許容される診療行為の例示

水準1	水準2	
1. 診察	八年2	水準3
・		+=1NH 0+0
* 问 i	・診察のために必要な鎮静・麻 酔等(補助)	左記以外のもの
砂、 ^聴 ・ ・ 生体への影響がないかほとん		
どないと考えられる簡単な補助	I	
	1	
器具(体温計、反射鏡、聴診		
器、打腱器、膣鏡など)を用いる		
全身の診察		<u> </u>
2. 検査		
(生理学的検査)		左記以外のもの
・心電図、心音図、心機図	•筋電図	
・脳波	│ •検眼	
・聴力、平衡、視力	• 関節可動域検査	
- 歩様検査		
- 神経学的検査		
(消化管検査)		
●直腸検査	・胃カテーテル	
	•内視鏡検査(補助)	
	・口腔内検査	
(画像診断)		
・単純エックス線検査(補助)	・エックス線透視検査(補助)	
超音波検査(補助)	・造影剤(RI を除く)を用いた検	
	査(補助)	
	•CT 検査(補助)	•
{	-MRI 検査(補助)	
(検体採取)		
-血液(毛細血管、静脈)	・尿(カテーテル導尿)	
•尿(排尿誘発)	第一胃液	
•分泌液、排液、鼻汁	•中家畜精液採取	, in the second of the second
	1 121 123 1121 1121 1121	
ĺ		
(掻爬・穿刺・生検)	-針吸引(膿胞、膿瘍等(体表))	
・皮膚・腫瘤表面の掻爬	・膣内容の採取	
• 頚管粘液	- 動脈血(末梢)	
	Same (Ste (12)	
]	
 (特殊検査)		
·繁殖学的検査:直腸検査	・ ・牛妊娠鑑定(補助、60 日以上)	
- 条地子の快点・回肠快点 - 各診療科における非侵襲性検	・中妊娠症に(補助、60 日以上) ・胸腔、腹腔穿刺	
査:ウッド灯を用いる検査など		
旦・ファロスで用いる快宜など	- 骨髄穿刺(補助)	
(その他)	変換に位置挟むじの四日の年	
(ての他)	・頚管に拡張棒などの器具の挿	
-1.29	入を伴う検査	
水準1	水準2	水準3
3. 治療	***	and the second of the second o
(看護的処置)	1	左記以外のもの

・洗浄、体位変換、体液吸収シ ート等交換、運動		
(処置) ・皮膚消毒、包帯交換	•創傷処置	
・外用薬塗布・貼付	-除角	
•浣腸	・歯の鑢整	
・耳の洗浄	・胃カテーテル挿入(経口・経	
	鼻)	
·	乳房内注入	
·	・ギプス巻	
	- 胚回収(補助)	
	-	
(投与)		•
・経口、皮内、皮下、筋肉内注	- 静脈注射	
射	・静脈留置(血管確保、点滴)	·
· 点眼		
AL PEX		·
(外科的処置)		
• 抜糸•止血	-局所麻酔(補助)	
・手術助手(補助)	-全身麻酔(補助)	
・麻酔モニタリング	・膿瘍切開、排膿、ドレイン処置	
WART C.— J. J.J. J	(補助)	
	- 縫合(補助)	
	466 FI (1111-22)	
(その他)	・分娩介助(補助)	`
((0)16)	・蹄病治療のための削蹄	,
4. 救急	mili Na VII VII VII ON 1 TO ON 1 LI TOUR	
4. 秋心		左記以外のもの
・バイタルチェック	· 気道確保	
1 -1 14 210 1 ÷22	· 人工呼吸	
	· 改工・行	
	・心マッサージ	. '
	10000	
5. その他	<u> </u>	,
0. CO/IE	・カルテ記載(指導教員の確認	左記以外のもの
・カルテ記載の補助	とサイン)	
- ノンノレ ノ ロレギスマノで田 ジリ		
	・飼育動物の所有者などへの病	
	状説明	
	-調剤(指導獣医師の確認とサ	
	イン)	
ただし 獣医学生による	120 実際の診療行為の実施の可	たについては 投資数量が

ただし、獣医学生による実際の診療行為の実施の可否については、指導教員が 最終的に判断をする。

学生の参加型臨床実習に対する同意書

帯広畜産大学動物医療センター長 殿

私は学生の参加型臨床実習のために、担当獣医師から十分な説明を受けた上で、私の所有する動物が学生教育に使用されることに同意いたします。

同意する臨床実習内容は以下の通りです。

□問診 □触診 □聴診 □検温

なお、この同意については①同意後もいつでも取りやめられること、②私が 同意しないことによって不利益を被らないこと、③私のプライバシーは保護さ れることを前提とします。

	者名年月日			月	ㅂ	• •
飼い主様のお名前		<u> </u>				
動物の愛称:	<u>種類:犬</u>	猫・その他	()	
品種:	ì:	性別:				
		:				٠.
上記の内容について、私	が説明いたし	しました。				
		•				
担当獣医師署名:	説明	明日: 平成		年	月	日

東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻・動物医療センターにおける参加型臨床実習のガイドライン

1) 基本的な考え方

診療行為,動物の安全性が担保されていれば、獣医学生を実際の診療行為に参加させることが望ましい。しかし現状の臨床教員数や社会的理解等を考慮すると,教員以外の獣医師免許を取得した研修医等の補助があっても十分な監視,監督を行うことは困難であり、診療行為の制限はやや大きくならざるを得ない。このような状況下でも、安全性の高い診療行為をいくつか到達目標として設定し、積極的な参加を促すことや,実際の診断の流れを把握,発表してもらうことによって疑似体験的により深く診療行為に参加してもらうように最大限努力する。

2) 学生に許容する診療行為の範囲(診療到達目標)について

レベル1 (農林水産省が示した水準1に相当): 臨床系教員の指導・監視下で行わせるもの: 問診 (飼育動物所有者との対話),実際の症例に対する身体検査 (聴診,体温測定,触診) 結果からの問題点抽出,臨床病理学的検査 (血液一般検査,血液化学検査,尿検査,糞便検査,骨髄吸引検査)結果からの問題点抽出,超音波検査 (実施), CTあるいはMR I 検査所見の説明,症例の鑑別診断プレゼンテーション,外科手術時の器械係,麻酔モニター補助など

レベル2 (水準2に相当):獣医師免許を持った研修医の指導,監視のもと行わせるもの 動物看護処置(保定,入院中尿シート交換),身体検査(聴診,体温測定,触診,神経学的 検査),X線撮影,症例からの採血など

レベル3(水準3に相当): 見学のみの臨床実習 上記のレベル1および/2 以外の診療行為

3)-指導教員の要件

原則として参加型臨床実習の指導教員は、実際に東京大学動物医療センターにおいて診療活動を行っている臨床系教員とするが、上記レベル2の実習内容については、すでに獣医師免許を持ち、臨床経験1年以上の研修医で、教員が監視・指導が可能と判断した研修医を含むものとする。

4) 事前の獣医学生の評価

参加型臨床実習に参加する獣医学生の評価(どの程度参加させて良いか)は、共用試験などの紙媒体の試験での評価は難しいと考えられる。このため、参加型臨床実習より先に

行われる基礎臨床学実習等における実習態度,出席等を考慮し、さらに参加型実習の前半 で実際の診療行為についての心構えについて再度教育を行うこととする。

5) 飼育動物の所有者の同意

原則として、学生の診療への参加についてはその旨院内に掲示してあるとともに、問診表においても同様の内容を記載し、サインをもらうシステムをとる。また学生が所有者 (オーナー) と会話する場合には、必ず教員が同伴し、説明と許可を得るようする。

*内科系,外科系診療科における具体的な参加型臨床実習到達目標については、別紙参照。

参加型実習ガイドライン作成に関わる項目

- 1. 参加型臨床実習において学生に行わせる診療行為の範囲
 - 1) 小動物内科診療
 - 2) 小動物外科診療ならびに手術
 - 3) 産業動物診療

上記の基準を別紙(エクセルファイル)に示した。

2. 指導教員の要件

1) 小動物

臨床実習指導教員は助教(2名)、准教授(5名)、教授(6名)、任期付助教(2名)、 非常勤獣医師(5名)、客員准教授(2名)客員教授(6名)、そして臨床系大学院生に よって小動物を用いた臨床実習を実施する。

担当教員の心得

- 1. 実習ガイドラインの理解:実習開始にあたっては臨床系教員におけるガイドライン の理解を深めるために数回の実践的な会議を設け、あらゆる不測の事態を想定した 協議を行う。
- 2. 各診療科における実習到達目標を明確に定め、実習期間中に学生が修得できるように努める。例えば外科であれば麻酔モニター値と呼吸・血行動態の関連の体得と麻酔薬の理解、基礎的な縫合の習得、そして画像診断であれば脊椎・四肢関節のレントゲン写真における異常を指摘できるなどである。
- 3. 担当医は、動物の病気の診断過程、病状の推移、類症鑑別、内科治療および外科処置を行った経緯がよく理解できるように診断治療経緯をカルテあるいは電子カルテに記入し、学生の症例発表に十分対応できる記録を残すように努める。
- 4. 担当医は、診療業務のうち、学生の能力に応じた役割を任せる。そして学生は、必要な知識・思考法・技能・態度を段階的に学ぶことができるように努める。
- 5. 症例に対してはガイドラインに則ったレベルの処置を実施することを学生に許可するが、必ず担当医は動物の状態を把握して事故が起こらないように配慮する。動物の状態によっては水準1あるいは2レベルの処置も致命的な結果をもたらす可能性があることに留意する。
- 6. 担当医は、学生の能力を的確に判断し、動物に過剰なストレスを与えないように指 導する。特に動物の扱いに慣れていない学生が実施する保定や採血には十分な注意 が必要である。
- 7. 担当医は、水準1および 2 レベルの処置に対しても可能な限り実践的指導を行い、動物の安全と、学生の技術向上に努める。
- 8. 担当医は、学生が実施した処置を必ず確認し、実施処置に対するコメントを述べる。

9. 担当医は、実習中に実践的な技術・知識を可能な限り教える。そして学生の理解度を確認する。

2) 産業動物

臨床実習指導獣医師6名(学内教員3名、農業共済組合獣医師3名)で、各班(2、3名)に1名の獣医師が担当し、診療先の農家にて産業動物を用いた臨床実習を実施する。

担当獣医師の心得

- 1. 指導獣医師は、学生の知識・技能および動物の状態から判断して、診療行為の実施 の許可を学生に与える。指導獣医師の要件は、学生および動物の安全の確保を図り、 学生による診療行為に対して適切な指導・監督・監視ができる能力を有することで ある。
- 2. 指導獣医師は、臨床実習において学生に許容される診療行為の範囲を理解し、学生による実際の診療行為の実施の可否については、各班担当の指導獣医師が最終的に判断する。外部の受入れ機関とは事前協議により、指導体制を構築する。

3. 事前の学生評価の内容と基準

臨床実習において学生が診療行為を行うにあたって、事前に学生に許容される診療行 為の水準までの知識・技能を修得させておく。

学生の知識・技能が到達すべき水準に達しているか否かについては、臨床実習に入る前の段階で判断し、到達すべき水準に達していると評価された学生には、臨床実習において許容される診療行為の範囲を理解させ、臨床実習に参加させる。

コミュニケーション実習について

参加型臨床実習では、学生が飼育者に対して問診を行うため、学生には事前に飼育者とのコミュニケーション方法をトレーニングする必要があると考えられることから、臨床実習開始前に模擬患者を用いたコミュニケーション実習を行い、筆記ならびに実技試験とともにコミュニケーション能力を評価する試験を実施したいと考えている。ここ2年間は飼育者と獣医師とのコミュニケーションを想定した講義と、それを実演する実習を行っている。

4. 飼育者への周知と同意に関する方法

学生の臨床実習にあたって、あらかじめ動物の飼育者に対して、実習の必要性、実習 内容などについて十分かつ丁寧な説明を行い、学生による診療行為について、飼育者が 納得した上で、同意を得る。 飼育者は、上記同意を拒否することができること、既に同意した内容についていつでも撤回できることなど、飼育者が診療上の不利益な扱いを受けないように配慮する。

	項目	・レベル	備考
多察 引診			描版事子を用いた明診の しょ 一ぱっぽっ
うか 全身の視診、触診、	打診、聴診	. 1	模擬患者を用いた問診ワークショップの開作
沴察補助具の使用	:体温計、耳鏡など	1	
動物の保定		1	
真静∙鎮痛		. 2	2
查			
電図	•	1	
眼、視力、聴力			
様		1	
節可動検査		2	
腸検査		. 2)
音波 純X線撮影		1	
影X線撮影		· I	•
視		2	
T撮影		. 2	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
「造影		2	
視鏡		2	
BC 液生化学検査		1	
版生16子使宜 液ガス		. 1	
の他非侵襲性の の	检 杏	l 1	
- PON DECEMBE	N.E.	·	
体採取			
脈採血		1	
脈採血			
脉: 灶坦排尿、力 虚坏肿	テーテル導尿のうち難易度の	. ; = -	
膚掻爬 吸引:膿疱や体素	の無応	2	
用量の計算 薬:経口、皮下 肉・静脈内投与 脈内投与:留置金	+が設置	1 1 2	教員の確認
M内投子: 角直型 傷処置(重度)	Tか設値	1 2	
傷処置(軽度)		1	
石除去		2	
洗浄		2	
腸		2	
糸 野の剃毛、消毒			教員の確認後
新の制モ、海母 術助手		1 2	教員の確認後
酔導入	•	2	
酔管理	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	2	
下織·皮膚縫合		2	
所消毒・洗浄	-16	. 1	教員の確認後
用薬塗布・包帯交	· 狭		教員の確認後
・胃・尿カテ <mark>ーテ</mark> ル 後管理	V	2	
後官理 J管理		2	
~ .a ~±		2	
急			
イタルチェック		2	教員の指示と処置後の確認
素吸入		2	the state of the s
管	# The second of	2	
臓マッサージ		2	
		2	
		·	
細動 の他 ルテ記載の補助			
		1 2	

<u>産業動物</u> 項目	レベル	備考
診察 問診 全身の視診 診療補助器具の使用(体温計、聴診器、腟鏡)	1 1 1	
検査 歩様、関節可動試験 直腸検査 超音波検査 繁殖学的検査:直腸検査 胃カテーテル 妊娠鑑定(補助) 頚管に拡張棒等の器具の挿入を伴う検査	1 1 1 1 2 2 2	
検体採取 採血 尿採取(手指による刺激排尿、カテーテル導尿 第 1 胃液採取 分泌液・排液・鼻汁採取 皮膚・腫瘤表面の掻爬 針吸引 頚管粘液・腟内容の採取・検査	1 1 1 1 1	
治療 体位の換. 液体吸収シート交換 皮膚消毒 外間 所用 がに が に が に が に が に が の の の の の の の の の	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
救急 該当なし その他 カルテ記載の補助 保健衛生指導(一般的内容のもの) カルテ記載(指導獣医師の確認とサイン) 飼育動物の所有者等への病状の説明	1 1 2 2	

参加型臨床実習において学生に許容される獣医行為の範囲(小動物内科診療)

低い	中程度	高い
導教員の指導・監督の下に実施が許 されるもの	指導教員の指導・監視の下に実施が許容 されるもの	原則として指導教員の実施 の見学にとどめるもの
. 診察		
診、全身の視診、触診、打診、聴診	診察のために必要な鎮静、麻酔等(補助)	
体への影響がほとんどないと考えら る簡単な補助器具(体温計、反射 も、聴診器、打腱器、開口器、耳鏡、検		左記以外のもの
鏡、膣鏡など)を用いる全身の診察 検査		<u> </u>
・使生 生理学的検査) >電図、心音図、心機図 必波 感力、平衡、視力	筋電図	
排経学的検査、関節可動検査 消化器検査)		
三腸鏡 三腸検査	胃カテーテル 内視鏡検査	
画像診断) 習音波検査 単純X線撮影(補助)	造影剤(RIを除く)を用いた検査(補助)	 左以外のもの
検体採取) 血液(毛細血管、静脈) 尿(圧迫排尿、カテーテル導尿)	動脈血(末梢)	
掻爬、穿刺、生検) 皮膚・腫瘤表面の掻爬	R/ca Price R/ca Price	-
汁吸引(膿胞、膿瘍) 窒内容の採取、検査	胸腔、腹腔 	

3. 治療

(看護的処置)		
体位交換、おむつ、液体吸収シート等	\$	
交換、運動、散歩		
(処置)		
皮膚消毒、包帯交換	胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	
外用薬塗布·貼付·薬浴	A A S A A A A A A A A A A A A A A A A A	
浣腸		
耳の洗浄		左記以外のもの
		TIPS()100
(投薬)		
経口、皮内、皮下、筋肉内	静脈注射、点滴	
点眼、点耳	BI MOTS I C MODE	
		1
(その他)		
分娩介助(補助)		
理学療法(補助)		
1 With / 100-201/		

4. 救急

バイタルチェック	気管内送管	
気道確保(気管内送管、気管切開を除く)、人工呼吸、酸素投与	心マッサージ	左記以外のもの
	電気的除細動	
	静脈注射	

5. その他

カルテ記載の補助	カルテ記載(指導獣医師の確認とサイン)	
保健衛生指導(一般的内容のもの) 飼育動物の所有者等への病状説明	左記以外のもの

別紙 2

膣内容の採取、検査

(その他)

参加型臨床実習において学生に許容される獣医行為の範囲(小動物外科診療)

	侵襲性	
低い	中程度	高い
指導教員の指導・監督の下に実施が許 容されるもの	指導教員の指導・監視の下に実施が許 容されるもの	原則として指導教員の実施の見 学にとどめるもの
1. 診察		
問診、全身の視診、触診、打診、聴診	診察のために必要な鎮静、麻酔等(補助)	
生体への影響がほとんどないと考えられる簡単な補助器具(体温計、反射鏡、 聴診器、打腱器、開口器、耳鏡、検眼 鏡、膣鏡など)を用いる全身の診察		左記以外のもの
2. 検査		
神経学的検査、関節可動検査		
(消化器検査)		
直腸鏡 直腸検査	胃カテーテル 内視鏡検査	
(画像診断)		
単純X線撮影(補助)	透視	
CT(補助) MRI(補助)	造影剤(RIを除く)を用いた検査(補助)	
(検体採取)		-
血液(毛細血管、静脈)	動脈血(末梢)	
尿(圧迫排尿、カテーテル導尿)		
(掻爬、穿刺、生検)		
皮膚・腫瘤表面の掻爬 針吸引(膿胞、膿瘍)	胸腔、腹腔	-
町火力(臓形、臓物/	11-2011 2 102011	

3. 治療

Company of the compan		
(看護的処置)		
体位交換、おむつ、液体吸収シート等交		
換、運動、散步		
(処置)		
皮膚消毒、包帯交換	創傷処置	
外用薬塗布・貼付・薬浴		
	胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	
外固定		
耳の洗浄		
歯石除去		
(投薬)		左記以外のもの
経口、皮内、皮下、筋肉内	静脈注射、点滴	
点眼、点耳		
(外科的処置)		
抜糸、止血	全身麻酔・局所麻酔(補助)	
	膿瘍切開、排膿、ドレイン処置	
麻酔モニタリング	縫合	
	抜歯(手術を要するものを除く)	
(その他)		
分娩介助(補助)		
理学療法(補助)		

4. 救急

バイタルチェック	気管内送管	
気道確保(気管内送管、気管切開を除く)、人工呼吸、酸素投与		左記以外のもの
	電気的除細動	
	静脈注射	•

5. その他

カルテ記載の補助	カルテ記載(指導獣医師の確認とサイン)	
保健衛生指導(一般的内容のもの)	飼育動物の所有者等への病状説明	左記以外のもの

別紙 3

参加型臨床実習において学生に許容される獣医行為の範囲(産業動物診療)

侵襲性		•
低い	中程度	高い
指導教員の指導・監督の下に実施が許 容されるもの	指導教員の指導・監視の下に実施が許容 されるもの	原則として指導教員の実施 の見学にとどめるもの

1. 診察

問診、全身の視診、触診、打診、聴診	診察のために必要な鎮静、麻酔等(補助)	
生体への影響がほとんどないと考えられる簡単な補助器具(体温計、反射鏡、聴診器、打腱器、開口器、耳鏡、検眼鏡、膣鏡など)を用いる全身の診察		左記以外のもの

2. 検査		
神経学的検査、関節可動検査		
		1
(消化器検査)		
直腸鏡	胃カテーテル	
直腸検査	内視鏡検査	<u>l</u>
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
(画像診断)		
超音波検査		,
単純X線撮影(補助)		. 1
CT(補助)	造影剤(RIを除く)を用いた検査(補助)	1
MRI(補助)		
		Ĭ
(検体採取)		
血液(毛細血管、静脈)	動脈血(末梢)	
尿(圧迫排尿、カテーテル導尿)		
	·	·
(掻爬、穿刺、生検)		
皮膚・腫瘤表面の掻爬		
針吸引(膿胞、膿瘍)	胸腔、腹腔	
頚管粘液、膣内容の採取、検査		·
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
(特殊検査)		
繁殖学的検査: 直腸検査	妊娠鑑定、頚管に拡張棒などの器具の挿	
	入を伴う検査(大動物)	,
非侵襲性検査:ウッド灯を用いる検査		
-	-	
(その他)		

3. 治療

0. 加泵		
(看護的処置)		
体位交換、おむつ、液体吸収シート等交		
換、運動、散歩		
(処置)]
皮膚消毒、包帯交換	創傷処置	
外用薬塗布·貼付·薬浴	除角	
浣腸	胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	
外固定		1
耳の洗浄		1
乳房内注入		
		#=====================================
(投薬)		左記以外のもの
経口、皮内、皮下、筋肉内	静脈注射、点滴	
子宮内(大動物)、点眼、点耳		1
		1
(外科的処置)		1
抜糸、止血	全身麻酔·局所麻酔(補助)	1
手術助手	膿瘍切開、排膿、ドレイン処置	
麻酔モニタリング	縫合]
	抜歯(手術を要するものを除く)	1
		1
(その他)		1
分娩介助(補助)	蹄病治療のための削蹄	
理学療法(補助)	・	

4. 救急

バイタルチェック	気管内送管	
気道確保(気管内送管、気管切開を除 く)、人工呼吸、酸素投与	心マッサージ	左記以外のもの
	電気的除細動	
•	静脈注射	

5. その他

カルテ記載の補助 保健衛生指導(一般的内容のも	カルテ記載(指導獣医師の確認とサイン) の) 飼育動物の所有者等への病状説明	左記以外のもの
100 to 10	A113-20173-017111 E1 11 -07111-0100-01	

別添2

臨床実習に係るガイドライン(山口大学)

「獣医学教育における学生の臨床実習の条件整備に関する報告書」(平成22年6月)において示された内容に基づき、学生の臨床実習を適切かつ有効に実施することを目的として、山口大学動物医療センターまたは農業共済組合等で実施される臨床実習に係る指針を、以下の通り策定する。

1. 指導教員の要件

本学獣医学科における臨床実習を担当する山口大学獣医学科の教員を、臨床実習の 指導教員(臨床教授等を含む)とする。ただし以下の水準1に相当する獣医療行為 (詳細は別紙参照)の指導・監督については、指導教員の指示を受けた臨床経験3 年以上の非常勤獣医師または農業共済組合等の獣医師が、また水準2に相当する獣 医療行為(別紙参照)の指導・監視については、指導教員の指示を受けた臨床経験 5年以上の非常勤獣医師または農業共済組合等の獣医師が、それぞれ行うことがで きる。

2. 臨床実習において学生に許容される獣医行為の範囲は、以下の基準を鑑み水準1~3 に分類し、別表に定める。

水準1:指導教員(あるいは指導教員の指示を受けた臨床経験3年以上の非常勤獣 医師または農業共済組合等の獣医師)の指導・監督の下に実施が許容され るもの

水準2:指導教員(あるいは指導教員の指示を受けた臨床経験5年以上の非常勤獣 医師または農業共済組合等の獣医師)の指導・監視の下に実施が許容され るもの

水準3:原則として指導教員(あるいは指導教員の指示を受けた臨床経験5年以上 の非常勤獣医師または農業共済組合等の獣医師)の実施の見学にとどめる もの

3. 事前の獣医学生の評価

本学獣医学科5年次までの単位をすべて取得し、獣医学科6年生へ進級したもの(6年次への進級要件を満たすこと)を、臨床実習に参加する資格を有するものと認定する。

4. 飼育動物の所有者等の同意

本動物医療センターが教育機関であることを踏まえ、臨床実習の一環として学生が、 上記1に定めた指導教員・非常勤獣医師または農業共済組合等の獣医師の監督・監 視下において、また上記2に定めた獣医療行為を行う可能性があることを、院内待 合スペースに掲示または農業共済組合員等に告知することにより所有者の同意を得 ることとする。

	水 準1	水准2	水准3
-	指導教員(あるいは臨床経験3年以上の非常 勤獣医師)の指導・監督の下に実施が許容さ れるもの	野道幼豊(なるいけ晩年収験5年!リトのま	原則として指導教員の実施の 見学にとどめるもの
,	山口大学大動物参加型臨床実習ガイドライン		·
	1. 診察		,
	・罹患動物の所有者への病歴に関する問診・保定(頭絡、胴締法、縛定、枠場保定、鼻捻子等)		
	・全身の視診、触診、打診、聴診	・診察のために必要な鎮静・麻酔等の補助	
	・生体への影響がないかほとんどない簡単な 補助的検査器具(体温計、聴診器、打腱器、 開口器、耳鏡、検眼鏡、膣鏡など)を使用した		左記以外のもの
	身体検査		
	D 10.*		
	2. 検査 (生理学的検査)		
	・心電図検査、心音図検査 ・心音図検査	•筋電図検査	
	・神経学的検査 ・運動器検査(歩様、関節可動域検査)		
	•視覚検査		
	(消化管検査)	・胃カテーテルの挿入(経口・経鼻)を伴う検	
	・口腔検査	査	
	・直腸検査	-内視鏡検査(上部消化管、下部消化管)	
	(画像診断) ・超音波検査(補助)		
	•単純X線撮影檢查(補助)	・X線による透視検査・造影X線検査(消化管造影、尿路造影 (上行性、下行性))	
			左記以外のもの
	(検体採取) ・血液(静脈血)	- 血液(動脈血)	THE WAY I AND
	・尿(自然排尿) ・第1胃液	・尿(圧迫排尿、カテーテル導尿) ・胸腔内貯留液	
	・分泌液等	・腹腔内貯留液 - 関節液	
	(掻爬·穿刺·生検)	- 骨髄液	
	・皮膚・腫瘤表面の掻爬	-胸腔穿刺	
	・針吸引(体表の嚢胞・膿瘍)・針生検(体表の充実性の腫瘤病変)・膣粘液分泌物の採取・検査	- 腹腔穿刺 ・超音波ガイド下穿刺 ・コア生検	
	(特殊檢查) ・繁殖学的檢查:直腸檢查(大動物)	-妊娠鑑定(補助)	
	・上記以外の各診療科における非侵襲性検査:ウッド灯を用いる検査(その他)関節可動	・頚管に拡張棒などの器具の挿入を伴う検	
	域検査、関節および関節周囲に対する特殊な 触診(引出し現象、Ortolaniテスト等)等)	金	
	3. 治療		
	(入院動物への看護的処置) ・給餌・給水 ・体位変換、運動・散歩		
,	(処置) ・皮膚および創傷の消毒、包帯交換 ・ガーゼ・包帯等交換	創傷処置	
	•外用奖举布	•除角	

·血管確保 ·浣腸	· 歯石除去	
・体表の清浄化(外耳道、月周辺、肛門周:ドレナージ部位周辺、創傷周辺等)・乳房内注入	辺、・胃カテーテル挿入(経口・経鼻)を伴う処 置	
(投薬) ・経口 ・注射(皮内、皮下、筋肉内)	・注射(静脈内) ・点滴静注	左記以外のもの
(手術に関連する手技・処置) ・抜糸 ・麻酔モニタリング(補助) ・麻酔記録簿への記載	・全身・局所麻酔(補助) ・膿瘍切開、排膿、ドレイン処置 ・単純剤の縫合処置 ・気管内挿管 ・手術助手	
(その他) ・理学療法(温罨法、冷罨法等)	・頚管に拡張棒などの器具の挿入を伴う治療	
・分娩介助(補助)	- 蹄病治療のための削蹄	
4. 救急		
・バイタルチェック ・気道確保(気管内挿管、気管切開を除く).	た知じめかたの

10. Carles	
5. その他	
· 気道確保(気管内挿管、気管切開 人工呼吸、酸素投与	左記以外のもの

参加型臨床実習実施のための条件(宮崎大学)

- 1. 獣医学生に許容される獣医行為の範囲について
 - ・別紙の例示を参照
- ・ただし、水準1は指導教員の指導・監督の下に実施が許容されるもの、水準2は指導教員の指導・監視の下に実施が許容されるもの、水準3は原則として 指導教員の実施の見学にとどめるもの、とする。
- 2. 指導教員の条件について
 - ・助教以上の大学教員
 - ・指導教員の資格を有する大学教員が適切と判断した獣医師
- 3. 事前の獣医学生の評価について
 - ・4年生以上を想定した場合、以下の①と②の条件を満たし、かつ到達すべき 水準に達していると指導教員が判断した場合。
 - ①専門科目のうち、3年次までの必修講義科目の80%以上を習得すること。
 - ②専門科目のうち、3年次までの必修実験・実習を全部習得すること。
- 4. 飼育動物の所有者の同意について
 - ・学生の臨床実習についての説明文書を院内に掲示する。
 - ・さらに飼い主の方に対しては、口頭あるいは文書により同意を得る。

臨床実習において獣医学生に許容され	7	-de Vitte C
	水準2	水準3
明. (京作の時長) 人力の切み	1. 診察	
・問診(稟告の聴取)、全身の視診、	・診察のために必要な鎮静・麻酔等	
触診、打診、聴診	(補助)	
・生体への影響がないかほとんどない		
と考えられる簡単な補助器具(体温		た割り払っとの
計、反射鏡、聴診器、打鍵器、開口		左記以外のもの
器、耳鏡、検眼鏡、膣鏡など)を用い	·	
る全身の診察		
•		
	2. 検査	
(生理学的検査)	_	
・心電図、心音図、心機図	・筋電図	
· 脳波		
・聴力、平衡、視力	77 N. MARINE V.	
・歩様、関節可動検査	Annual Company of the second s	
少水、因即可到恢且		
(消化管検査)		
- Fi II - Additional - Addit	Bir Ca	
- 直腸鏡	・胃カテーテル	
・直腸検査	・内視鏡検査	
/ The Angle		
(画像診断)		
・超音波検査		
・単純エックス線撮影 _(補助)_	・透視	
ただし、同位元素利用論あるいは獣医		
放射線学Iの単位いずれかを修得して	(補助)	
いる者に限る。それ以外の者は補助の	AN POPULAR DE LEGIS LEGI	
み可とする。	-	
・現像処理		•
・CT(補助)		
· MRI (補助)	The second secon	
er		-
(検体採取・検査)		
· 血液(毛細血管、静脈(末梢))	・動脈血(末梢)	
・尿(圧迫排尿、カテーテル導尿	3337713000	ナシッとの
(難易度の高いものは除く))		左記以外のもの
・第1胃液(胃カテーテルを用い	- невоставления на принципалния на принципалния на принципалния на принципалния на принципалния на принципални -	
た)		·
・分泌液、排液、鼻汁		
・ 糞便 (採便棒等)		·
·精液採取(用手)	and the second s	
<u>・ 随似休収(加子)</u> ・ 膣スメ <i>ア</i>		
・順至ヘスノ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
	American Market West Company and the contract of the contract	
(掻爬・穿刺・生検)	And the second s	
・皮膚・腫瘤表面の掻爬	・針吸引 (膿胞・膿瘍 (体表))	
・頚管粘液・腟内容の採取・検査	・胸腔・腹腔	Ÿ
Name of the second	・内視鏡検査時の生検および鉗子操作	
	(補助)	
(特殊検査)		
・繁殖学的検査:直腸検査(大動	・妊娠鑑定 (補助)	
物)、超音波診断装置を用いた妊娠鑑	・頚管に拡張棒などの器具の挿入	
定(補助)	を伴う検査	
	G II / TX	
・各診療科における非侵襲性検査		
:ウッド灯を用いる検査		100
Property of the Control of the Contr		
(その他)		
		L

	3. 治療	
(看護的処置)	12.00	
・給餌・飼養管理		•
・体位変換、おむつ、液体吸収シート		
等交換、運動・散歩		
· 一个人,一个人		3
or and the second second		
(処置)		
・シャンプー、薬浴		
・皮膚消毒、包帯交換	・創傷処置	
・外用薬塗布・貼付	・除角	
・浣腸	・歯石除去	
・ギプス巻		
・耳の洗浄	・胃カテーテル挿入(経口・経鼻)	, and the second
・乳房内注入	・静脈留置(末梢)	
・爪切り・剃毛		
(投薬)		1
(攻架/ ・経口、皮内、皮下、筋肉内	・静脈注射	左記以外のもの
*	· 腹腔内投与	
・坐剤、点眼、点鼻、点耳	1、腐烂的女子	
・調剤・薬袋の記入(補助)		•
・輸液ラインの接続、投薬		
(外科的処置)	The second section of the second seco	
・抜糸・止血	・手術助手	
・麻酔モニタリング	・全身・局所麻酔(補助)	•
	・膿瘍切開、排膿、ドレイン処置	1
	・縫合	
	・抜歯(手術を要するものを除く)	
	・去勢 (子牛)	
(その他)		
・分娩介助(補助)	・蹄病治療のための削蹄	
34,2421 334, (114,247,		
	4. 救急	
・バイタルチェック	・気管内挿管	
・気道確保(気管内挿管、気管切開を		
除く)、人工呼吸、酸素投与	・電気的除細動(補助)	左記以外のもの
		•
	5. その他	
・カルテ記載の補助	・カルテ記載(指導獣医師の確認とサ	
・保健衛生指導(一般的内容のもの)	イン)	·
Elizabeth Cavada 144 as 0.55	・飼育動物の所有者等への病状説	左記以外のもの
	明	
L	<u> </u>	

2011年1月13日

獣医学部長 林正信 殿

参加型臨床実習検討委員会 泉澤康晴

参加型臨床実習実施のための条件(案)

参加型臨床実習を実施する目的は、学生が診療チームに参加して診療業務の一部を担いながら獣医師の職業的な知識や技術、思考法、対応法の基本を学ぶことにあり、獣医学類学生に対する臨床実習の質・量ともに充実させて行くことを目標として行う。したがって、参加型臨床実習が大学における日常的な獣医業を単に補填するものではなく、実施にあたっては相応の責任が増加すること、その責任を正しく負うための人員と施設、および規約の整備が不可避であることを充分に認識しなければならない。

参加型臨床実習を今後実施するにあたり、現状の調査結果をふまえ以下の項目について提案する。

I. 臨床実習の現状 (アンケート調査結果)別紙1 (生産動物)別紙2 (伴侶動物)

II. 参加型臨床実習への提案

- 1. 参加学生に許容される獣医行為の範囲 別表1および2に示す獣医行為水準2までとする。
- 2. 指導教員の要件

対学生あたりの教員数不足を解消し、より直接的且つ充実した実習を実現するために、正規学部教員に加え指導委嘱教員を採用する。

- 1) 教員:学生および飼育動物の安全の確保を図り、学生の獣医行為に対し適切な指導(監督または監視)ができる能力を有する。・・・(臨床経験5年以上であり、各医療部門で認めたもの)
 - · 生産動物医療教育群: 8人
 - · 伴侶動物医療教育群:11人~
- 2) <u>指導委嘱教員</u>: 学生および飼育動物の安全の確保を図り, 学生の獣医行為に対し適切な指導(監視)ができる能力を有する獣医師で, 大学より委嘱された教員を対象とする。水準1に該当する獣医業行為までを指導教員と連携をとって指導できる。・・・(臨床経験3年以上)
 - ・ 生産動物医療教育群:内科系2人~、外科系2人~
 - ・ 伴侶動物医療教育群:内科系(画像診断含む)4人~、外科系4人~、麻酔2人~

3. 獣医学生の事前評価

獣医学部4年時終了時までに学習する所定の全科目単位を修得していることを 参加の条件とする。

- 4. 対象授業科目
 - ・総合臨床学実習 VIII(旧カリ必修、5年後期)
 - → 伴侶動物医療臨床実習(現行カリ必修、4年後期、2011年度開始)
 - ・病院実習(旧カリ選択、6年集中)
 - → 病院実習専修コース(現行カリ選択、5.6 年集中、2012 年度開始)
 - ・ 学生演習(旧カリ必修、4-6年)
 - → 伴侶/生産動物医療専修コース: クリニカルローテーション(現行カリ選必、5年後期、2012年度開始) アドバンスローテーション(現行カリ選必、6年前期、2013年度開始)

5. 動物所有者 (飼主) の同意

附属動物病院に来院する動物に対して参加型臨床実習の一環として学部学生が 獣医療行為を行うにあたっては、次の方法により事前の飼い主の同意を得ること を条件とする。

- 1)動物病院の所定の場所に、教育病院としての教育活動の一環として参加型臨床実習に関する主旨と実施の概要(関与事項の提示)を掲示し周知を図る。 →→→参加型臨床実習の一般的周知
- 2) 診療受付時(開業獣医師からの依頼時、予約診療受付時)に参加型臨床実習に関する獣医療行為が実施される旨説明し、事前に了解を得る。
 - →→→参加型臨床実習の個別的周知
- 3) 外来受診時に参加型臨床実習に関する獣医療行為が実施される旨を説明し、 同意を得る。同意は、同意書の内容について理解を得、確認の署名を持って する。→→→参加型臨床実習の最終確認
- 6. 実験動物に対する獣医医療行為

実験動物委員会への実施内容の申請と許可を得る。

- 7. 参加型臨床実習によって生じた動物の傷害に対する責任と保証
 - 1) 大学の責任
 - 2) 教員の監督責任
 - 3) 学生の責任
 - 4) 保険適応の可否

8. 実施状況の確認

- 1) 監視委員会の設置
 - ・監視委員会委員の立ち入りと報告
 - ・教員(監視および監督者)への聞き取り
 - ・対象学生への聞き取り
- 2) 授業ごとの報告書の提出

生産動物医療学分野

水準1:指導教員の指導・監督*の下に実施を許容しているもの 水準2:指導教員の指導・監視**の下に実施を許容しているもの 水準3:原則として指導教員の実施の見学にとどめているもの

(生理学的核査) 心電図、心音図 筋電図 歩様検査、関節可動 聴力、視力、平衡 (画像診断) 超音波検査 単純火線検査(補助、保定) 内規線検査 (検体保取) 採血(策権動脈血) 尿採取(自然排尿) 尿尿取(カテーテル使用) 第一胃液採取 另汁採取(スワブ使用) 乳汁採取(スワブ使用) 乳汁採取(スワブ使用) 乳汁採取(スワブ使用) 乳汁採取(スワブ酸用) 乳汁採取(スワブ酸用) 乳汁採取(スワブ酸用) 乳汁採取(水の臓臓) カ密、排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻爬 封吸引(体表の膿瘍) 頭管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 工事が表、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 て予宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚、液硬剤交換 外用薬塗布 マリスの器具体入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 マリスの器具体入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) スカテーテル挿入(経口、経鼻)		水準1	水準2	水準3
 視診、触診、打診、聴診 簡単な補助器具を用いた診察(体温計、聴診器など) 2. 検査 (と理学的検査) 心電図、の音図 筋電図 歩様検査、関節可動 起市ル、平衡 (画像診断) 超音波検査 単純/線検査(補助、保定) 内規鏡検査(補助、保定) 内規鏡検査(検体採取) 採血(類静脈、尾静脈) 採血(薬精動脈血) 尿採取(カテーテル使用) 第一間液採取 の 第一間液採取 分泌液、排液採取(膿汁など) (資料、生検) 皮膚、腫瘍表面の採取 食を引、皮膚、腫瘍表面の採取 (持殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頸管への器具挿入(拡張棒など) (内置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 胃カテーテル挿入(経口、経界) 	1. 診察			
簡単な補助器具を用いた診察(体温計、聴診器など) O		0		
2. 検査 (生理学的検査) ・心電図、心音図 防電図 歩様検査、関節可動 聴力、視力、平衡 (画像診断) 超音波検査 単純X線検査(補助、保定) 内規線検査 (検体採取) 採血(頚静脈、尾静脈) 採血(海静脈、尾静脈) 探血(末梢動脈血) 尿採取(カテーテル使用) 第一胃液採取 泉汁採取(スワブ使用) 乳汁採取 分泌液、排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻肥 針吸引(体表の膿瘍) 類管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ・ブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	<u> </u>	0		
○電図、心音図	2. 検査			
新電図 歩様検査、関節可動 聴力、視力、平衡 (画像診断) 超音波検査 単純X線検査(補助、保定) 内視鏡検査 (検体採取) 採血(頚静脈、尾静脈) 採血(末梢動脈血) 尿採取(自然排尿) 原料取(コワブ使用) 乳汁採取 分泌液、排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 対応液、腫瘤表面の掻爬 針吸引(体表の膿瘍) 頚管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3.治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 キブス巻 乳房内注入 胃力テーテル挿入(経口、経鼻)	(生理学的検査)			
歩柱検査、関節可動 聴力、視力、平衡 (画像診断) 超音波検査 単純X線検査(補助、保定) 内視鏡検査 (検体採取) 採血(頚静脈、尾静脈) 採血(気静脈、尾静脈) 採血(大精動脈血) 尿採取(カテーテル使用) 宗一音液疾取 鼻汁採取(スワブ使用) 乳汁採取(スワブ使用) 乳汁採取 (スワブ使用) 乳汁採取 (スワブ使用) 乳汁採取 (スワブ使用) 乳汁採取 (表の膿瘍) 適管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3.治療 (処置) 皮腐消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) こ	心電図、心音図	. 0		
聴力、視力、平衡 (画像診断) 超音波検査 単純X線検査(補助、保定) 内視鏡検査 (検体採取) 採血(類静脈、尾静脈) 採血(末梢動脈血) 尿採取(自然排尿) 尿採取(カテーテル使用) 第一胃液採取 鼻汁採取(スワブ使用) 乳汁採取(スワブ使用) 乳汁採取(カラーテル使用) の	筋電図		0	
(画像診断) 超音波検査 単純X線検査(補助、保定) 内視鏡検査 (検体採取) 採血(頚静脈、尾静脈) 採血(頚静脈、尾静脈) 採血(末梢動脈血) 尿採取(カテーテル使用) 第一胃液採取 鼻汁採取(スワブ使用) 乳汁採取 分泌液 排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻爬 針吸引(体表の膿瘍) 弱管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	歩様検査、関節可動	0		
超音波検査 単純X線検査(補助、保定) 内視鏡検査 (検体採取) 採血(頚静脈、尾静脈) 採血(末梢動脈血) 尿採取(自然排尿) 尿(関取(カテーテル使用) 第一胃液採取 鼻汁採取(スワブ使用) 乳汁採取 分泌液、排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻爬 針吸引(体表の膿瘍) 弱管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	聴力、視力、平衡	0		ľ
単純X線検査(補助、保定) 内視鏡検査 (検体採取) 探血(頚静脈、尾静脈) 探血(末梢動脈血) 尿採取(自然排尿) 尿採取(カテーテル使用) 第一胃液採取 鼻汁採取(スワブ使用) 乳汁採取 分泌液、排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻爬 針吸引(体表の膿瘍) 頚管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬釜布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	(画像診断)	-		
内視鏡検査 (検体採取) 「	超音波検査		0	Ì
(検体採取) 採血(頚静脈、尾静脈) 採血(末梢動脈血) 尿採取(自然排尿) 尿採取(自然排尿) の (原採取(カテーテル使用) 第一胃液採取 (単純X線検査(補助、保定)		0	
探血(頚静脈、尾静脈) 探血(末梢動脈血) 尿採取(自然排尿) 尿採取(カテーテル使用) 第一胃液採取 鼻汁採取(スワブ使用) 乳汁採取 分泌液、排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻爬 針吸引(体表の膿瘍) 頚管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	内視鏡検査			0
採血(末梢動脈血)	(検体採取)			
	採血(頚静脈、尾静脈)	0		
保保取(カテーテル使用)	採血(末梢動脈血)		0	
第一胃液採取	尿採取(自然排尿)	0		
	尿採取(カテーテル使用)		0	
乳汁採取 分泌液、排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻爬 針吸引(体表の膿瘍) 頚管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	第一胃液採取		0	
分泌液、排液採取(膿汁など) (穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻爬 針吸引(体表の膿瘍) 頚管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	鼻汁採取(スワブ使用)	0		
(穿刺、生検) 皮膚、腫瘤表面の掻爬 針吸引(体表の膿瘍) 頚管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	乳汁採取		0	
皮膚、腫瘤表面の掻爬 O 針吸引(体表の膿瘍) O 頚管粘液、膣内容の採取 O 腹腔および胸腔の穿刺 O (特殊検査) O 直腸検査 O 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 O (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 O 半プス巻 O 乳房内注入 O 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) O	分泌液、排液採取(膿汁など)	0		
針吸引(体表の膿瘍) 到管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頸管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギプス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	(穿刺、生検)			
愛管粘液、膣内容の採取 腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギプス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	皮膚、腫瘤表面の掻爬	1 .	0	
腹腔および胸腔の穿刺 (特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギプス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	針吸引(体表の膿瘍)		0	
(特殊検査) 直腸検査 妊娠鑑定 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 ギブス巻 乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	頚管粘液、膣内容の採取		0	
直腸検査 O 妊娠鑑定 O 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) O 3. 治療 O (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 外用薬塗布 O ギプス巻 O 乳房内注入 O 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) O	腹腔および胸腔の穿刺			0
妊娠鑑定 〇 子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) 〇 3. 治療 〇 (処置) 〇 皮膚消毒、被覆剤交換 〇 外用薬塗布 〇 ギプス巻 〇 乳房内注入 〇 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) 〇	(特殊検査)			
子宮頚管への器具挿入(拡張棒など) O 3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 O 外用薬塗布 O ギプス巻 O 乳房内注入 O 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) O	直腸検査		0	
3. 治療 (処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 O 外用薬塗布 O ギプス巻 O 乳房内注入 O 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) O	妊娠鑑定		0	
(処置) 皮膚消毒、被覆剤交換 O 水用薬塗布 O ギプス巻 O 乳房内注入 O 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) O	1			0
皮膚消毒、被覆剤交換 O 外用薬塗布 O ギプス巻 O 乳房内注入 O 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) O	3. 治療			
外用薬塗布 O ギプス巻 O 乳房内注入 O 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) O	(処置)			
ギプス巻 O 乳房内注入 O 胃カテーテル挿入(経口、経鼻) O	皮膚消毒、被覆剤交換	0		
乳房内注入 胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	外用薬塗布	0		
胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	ギプス巻		0	
胃カテーテル挿入(経口、経鼻)	乳房内注入		0	
(也素)			0	
NIXX/	(投薬)			F

経口投与(カテーテルなし) 経口投与(カテーテルあり)		0	0
筋肉、皮下、皮内注射		0	
静脈注射(注射器使用)		0 0	
静脈注射(インジェクター使用)			0
留置針挿入			0
(外科的処置)			
手術助手		.0	
抜糸		0	
縫合		0	
全身麻酔		_	0
局所麻酔 除角		0	
		U	0
本労 膿瘍切開・排膿・ドレイン処置			0 0
は抜歯			0
削蹄	v. -	0	
(繁殖科)		Ū	
分娩介助	•		0
分娩介助の補助	0		
胚回収			O
検卵			0
(その他)			
吊起補助		0	· ·
4. その他			
カルテへの記載		0	

伴侶動物医療学分野

水準1:指導教員の指導・監督*の下に実施を許容しているもの 水準2:指導教員の指導・監視**の下に実施を許容しているもの 水準3:原則として指導教員の実施の見学にとどめているもの

診察	水準f	水準2	水準3
診断機器を使用しない			
問診	0		
視診	0		
触診	0		
打診	0	1	1
聴診	0	1	
動物の保定	0.		1
生体への影響がほとんどないと	考えられる簡	単な補助器具	
体温計	0		
聴診器	0		
打鍵器	0	1	
開口器	0		
耳鏡	0		1
検眼鏡	0		
膣鏡		0	
保定具(口輪など)の装着	0		1

検査	水準1	水準2	水準3
生理学的検査			
心電図	0		
心審図	0		
脳波			0
· 聴力	0		
	0		
視覚	0		
歩様	0		
関節可動検査	o o	1 .	
網膜電図		0	
筋電図	0		
非觀血的血圧測定	0		İ
涙液量測定	o		
銀圧測定	0 0 0		
神経学的検査	ľ	0	
消化器検査		ŏ	
直賜検査		0	
		Ŭ.	0
画像診断	·····		
超音波検査		1	0
単純X線撮影(補助)	0		_
年紀へ縁破影で補助) CT検査(補助)	0		
MRI検査(補助)	ő	-	
	٥		^
X線透視			0.0
造影剤を用いた検査			0
検体探取 ************************************		0	
血液(静脈)			_
血液(動脈)		1	0.
尿(圧迫排尿)		1 _	0
尿(カテーテル導尿)	_	0	
分泌液	0		l
排液	0		
鼻汁	0 0000		
糞便	Š		
眼脂 耳垢	Ä	ļ	
皮膚(被毛を含む、掻爬なし)	ŏ		
掻爬・穿刺 .	Ī <u> </u>		
皮膚(掻爬)		0	
腫瘤表面(掻爬)		000	
針吸引(体表腫瘤) 針吸引(胸腔・腹腔)		'	ا م
到级31(胸腔 腹腔)		1	000000
骨髄穿刺			Ŏ
尿(穿刺による採取)			0
髄液(穿刺による採取)		-	0
関節液(穿刺による採取)	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>

治療	水準1	水準2	水準3
看護的処置			
体位変換	0		
液体吸収シート等交換	0	,	ŀ
運動-散步	0		1
給餌•給水	0		.
処置		·	
毛刈り	0		
静脈留置	1		0
静脈留置の抜去	0		
動脈蜜置	ļ		0
動脈留置(麻酔下)	ŀ	0	ŀ
動脈留置の抜去		0	
皮膚消毒	0	[
包帯交換	0	'	
外用薬塗布・貼付	i	0	
浣腸		0	
耳洗浄	0	1	
眼洗浄	0		
全身(シャンプー)	0		
歯石除去			0
経ロカテーテル挿入			0
経鼻カテーデル挿入			0
投薬		<u> </u>	
経口投与	0		
皮内投与	1	0	
皮下投与	1 0		1 1
筋肉内投与	0		
静脈内投与		0	
点眼	0		
点耳	0		
点鼻	0	į	
外科的処置	1		
抜糸		0	
止血(圧迫)	0		1
止血(機器使用)		0	
血液など吸引	1	0	•
手術助手	1	0	
切皮	:[0
縫合(皮膚)		0	
縫合(皮膚以外)			0
抜歯(手術を要しないもの)			0
爪切り	0	1	
毛刈り	0 0		
ドレーピング			
腰瘍切開	1		0
排腦	l l		0
ドレイン処置	t	1	0
その他			
分娩介助	9	0	

救急・麻酔	水準1	水準2	水準3
診察の為に必要な鎮静、麻酔	1		0.
外科的処置時の全身・局所麻酔	(補助)	0	1
麻酔モニタリング	1	l o	l
気管内挿管		0	1
人工呼吸		0	
酸素投与	ł	0	
麻酔深度の調節(吸入麻酔薬)	į.	0	
麻酔深度の調節(注射麻酔薬)	1	0	1
心マッサージ		l o	
電気的除細動		1	0
パルスオキシメーターの設置	1 0	1	

その他	水準1	水準2	水準3
カルテ記載		0	
カルテ記載の補助	0		
オーナーへの病状説明			0

獣医学生の参加型臨床実習で行う診療行為(日本大学ガイドライン)

1. 大学の動物病院のあり方

大学の動物病院は学生教育のための教育病院であるとともに、高次獣医療病院として地域の動物病院からの紹介病院としての役割を担っている。つまり、適切な問診および検査が必要な症例が多く、さらに高度医療機器を用いた診断が必要な症例が多い。さらに緊急対応が必要な症例も多いため迅速な診断や治療を必要とする。これらの症例を学生実習に組み入れて診断する場合、学生は見学が主体となり、その検査の意義や結果の解釈等の解説はある程度処置が終了した段階でまとめて行われることが多い。このような緊急性を要し、かつ重症例に対しては学生が実習として診療に携わることは困難である。

いっぽう、確定診断がつき、治療経過を見るような継続症例に関しては、クライアントとの信頼関係も構築されている事が多く、また緊急性もそれほど高くないため、時間をかけた診療を行うことが可能である。このような症例に関しては、クライアントの同意を得た上で問診や身体検査さらには採血や採尿などを実施させる事も可能となる。しかし全ての学生に対しこのような診療参加の機会を均等に与える事は困難である。したがって各症例を小グループで担当し、その中の何名かに手技を実施させることが現実的である。

2. 臨床実習において獣医学生に許容される診療行為についての基本的な考え方

獣医学生に許容される診療行為の基本的考え方について獣医事審議会より 4 つの条件が示されている。この 4 つの条件に対して各大学ごとにガイドラインを示す事が求められている。 以下に日本大学のガイドラインを記載する。

①臨床実習において獣医学生に許容される診療行為の範囲

これに関しては以下に示す水準1から水準3に分類し水準1に関しては指導教員の指導・ 監督の下に学生の実施が許容されるもの、水準2に関しては指導教員の直接指導・監視下 に実施が容認されるもの、さらに水準3に関しては原則として獣医師の診療を見学するも のと規定する。

②指導教員の要件

日本大学では臨床実習を指導する教員(助手以上)になりうる要件として、臨床系研究室に所属する獣医師免許を有する教員であることとする。また、動物病院所属の非常勤講師および臨床経験5年以上の支援獣医師もこの要件に該当する。一方動物病院の研修医に関しては指導教員としては認定せず、指導協力者として位置づけて学生の診療行為に対して直接的に指導を行わないものとする。

③事前の学生評価

臨床実習において学生が診療行為を行うにあたり事前の学生評価が必要となる。これに関しては 4 年次までの所定の単位および臨床教育の講義ならびに実習に関する学科目の単

位をすべて取得し、5年次に進級をしたものとする。全国で共用試験が構築された場合に はその時点で再検討する。

④飼育動物の所有者の同意

学生の参加型臨床実習を行う上で飼育動物の所有者の同意は必須の要件である。このため 主治医となりうる指導教員から実習の必要性、実施内容などについて、所有者に十分説明 を行い、飼育動物の所有者の同意を文書にて得る事を要件とする。また所有者は同意した 内容について撤回する事ができるものとする。さらに同意を拒否しても不利益な診療を受 ける事はない事を明確にする。

◎臨床実習において獣医学生に許容される診療行為

水準1 指導教員の指導・監督の下に実施が許容されるもの

予測される飼育動物への侵襲性が相対的に低い診療行為については、飼育動物の安全の確保が比較的容易である事から、飼育者の同意を得て、指導教員の指導・監督(獣医学生 15人程度に指導者が1人以上つき、必要に応じ技術介助を行う)の下で、獣医学生が実施できる。

1. 診察: 問診

身体検査:視診、聴診、打診、触診、体温測定、体重測定など

簡単な補助器具を用いた検査:検眼鏡検査、眼底鏡検査、スリットランプ、耳鏡検査、膣 鏡検査

2. 検査

生理学的検査:

心電図、心音図などの電極の取り付け、保定および機器の操作など。

心音図などは特にマイクロフォンの装着部位により正常な波形がとれない場合もあるため指導獣医師による検査も同時に行い学生にその重要性を認識させる。

歩様、関節可動域検査

消化管検査:

口腔内検査、直腸検査、直腸鏡検査、産業動物の胃カテーテルによる胃汁採取

画像診断:

超音波検査、単純 X 線撮影(補助)、造影 X 線撮影(補助) CT 検査(補助) MRI 検査(補助)

検体採取:

血液採取(採血)は末梢静脈から実施可能、しかし実習用動物において十分な練習を行った学生にのみ実施させる。

採尿:カテーテルによる導尿(難易度が高いものは除く)

牛の胃汁採取、分泌物、排液、鼻汁採取

掻爬・穿刺・生検:

皮膚・腫瘤表面の掻爬、体表の膿胞、膿瘍の針吸引生検

産業動物の頸管粘液・膣内容の採取・検査

特殊検査:

繁殖学的検査(産業動物):直腸検査

皮膚科におけるウッド灯を用いる検査

眼科における涙液量測定

3. 治療

入院動物の看護的処置:飲水交換、食事の給餌、体位交換、おむつ・液体吸収シート等の 交換、運動・散歩

処置:包帯およびガーゼ交換、皮膚消毒、外用薬塗布・貼付、浣腸、ギプス巻き、耳の洗 浄、乳房内注入(産業動物)、洗眼

投薬:経口投与、皮下投与、筋肉内投与および留置針を介した静脈内投与、点眼

外科的処置:抜糸・止血、手術補助、麻酔モニタリング

その他:分娩介助(補助)

4. 救急

バイタルチェック、気道確保、人工呼吸、酸素吸入

5. その他

カルテの記載の補助、保健衛生指導(一般的内容のもの)

水準2 指導教員の直接指導、監視下に実施が許容されるもの

予測される飼育動物への侵襲性が相対的に中程度の診療行為については、適切に実施されれば飼育動物の安全の確保が可能である事から、所有者の同意を得て、指導教員の直接指導・監視下(獣医学生に必ず指導者が同伴し、必要に応じて獣医学生の診療行為を中止する事を指示する)に、獣医学生が実施できる。

1. 診察

診察のために必要な鎮静・麻酔の補助

2. 検査

体表腫瘤の穿刺生検

胸腔内貯留物、腹腔内貯留物の穿刺吸引の補助

胸腔内腫瘤、腹腔内腫瘤の穿刺生検の補助

妊娠鑑定 (産業動物) の補助

3. 治療

創傷処置、歯石除去、胃カテーテル挿入(経口・経鼻) 静脈内投与

全身麻酔・局所麻酔、膿瘍切開、排膿、縫合

4. 救急

気管内挿管、心臓マッサージ

5. その他

カルテの記載は指導獣医師の確認とサインが必要

水準3 原則として指導獣医師の実施の見学にとどめるもの

予測される飼育動物への侵襲性が相対的に高い診療行為については、飼育動物の安全を確保する事は困難である事から、原則として獣医学生は見学にとどめる。

上記水準 1 および水準 2 以外のものがこれにあてはまるが、以下のものに関しては獣医事 審議会計画部会の報告書では水準 1 および水準 2 に含まれていたものであるが日本大学で は水準 3 が妥当であると判断する。

検査:脳波検査、心機図検査、聴力検査、筋電図検査、網膜電位測定に関しては特殊な機器 を用いる検査であるため学生は見学にとどめる。

内視鏡検査は実際の臨床例で行う場合は見学にとどめる。

膀胱穿刺による採尿は見学にとどめる。

胸腔内貯留物、腹腔内貯留物の穿刺吸引は見学にとどめる。

胸腔内腫瘤および腹腔内腫瘤の穿刺生検は見学にとどめる。

関節液および骨髄液の採取は見学にとどめる。

飼育動物の所有者への病状説明は見学にとどめる。